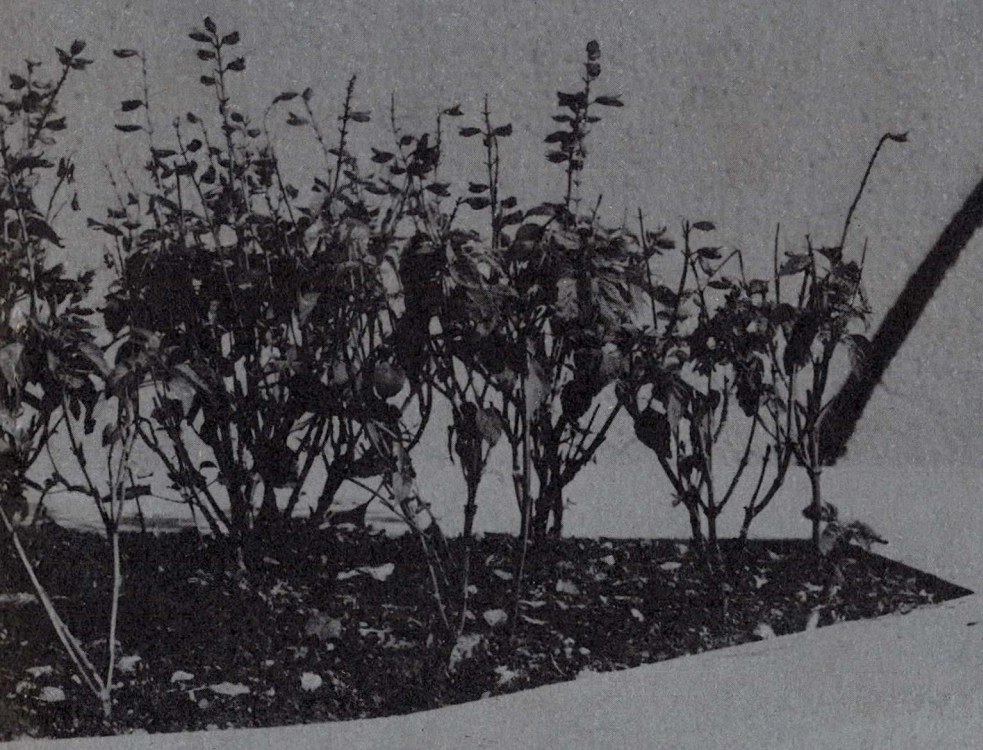
昭和24年3月19日第3種郵便物認可　昭和36年12月20日印刷　昭和36年12月25日発行　第42輯第12号（毎月1回25日発行）

建築と社会

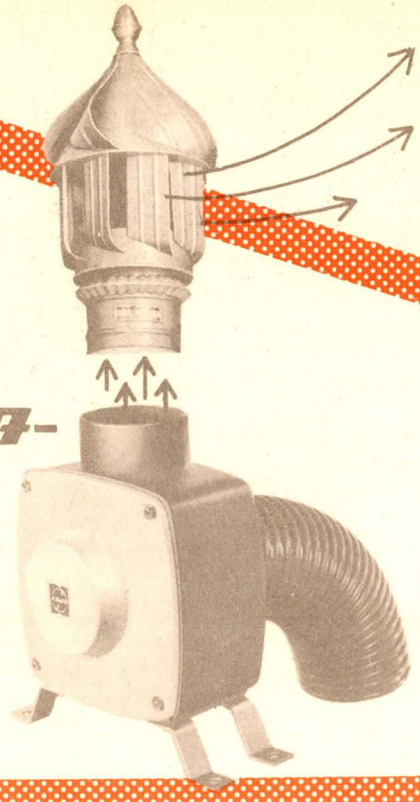
12

1961

日本近代建築運動史特集



日本建築協会



いやなニオイが
サッと消える！

コーナーベンター

ナショナル

松下電器

トイレや暗室にぜひお取付け下さい。悪臭が消え通気もよくなるので、いつも涼しくさわやかです

トイレ・暗室専用換気扇
（コーナーベンター）
12センチC2正価 六、八〇〇円

換D1718イ昭

鉄路を護る保線手と建物を護る防水工事

何れも目立たぬ蔭の存在ですが絶えず何千万の人命を、又総ゆる建物の寿命を黙々と護つて、大切な役割を果して居ります。

TRADE MARK

DOG

メンブレン式防水

の補強材料は35年の経歴と信用を誇る

ドッグ印で!!

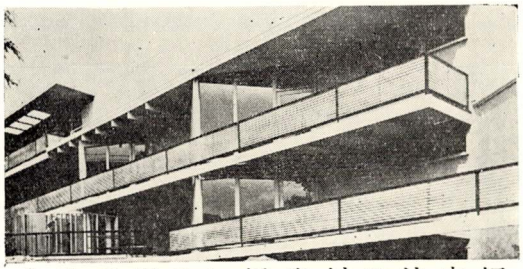
製品種目

ドッグ印 アスファルト ルーフイング
アスファルト フエルト
石綿ルーフイング
石綿フエルト
砂付ルーフイング
メルタイト ルーフイング
キンマレアタイト
ヘッシヤン ファブリック
コットン ファブリック
白麻ファブリック
ゲオンタイト

株式会社
工英社

本社・工場 大阪市西成区橋通9丁目24番地
電話 ㊻ 代表 8861 ㊺ 7381

日東紡の新建材



丈夫で明るい採光材の決定板



美しく丈夫なプラスチック床材

日東紡 FILON Fファイロン ニットータイル

日東紡績株式会社

東京本社 東京都中央区八重洲6－1 電(281)0211　大阪支店 大阪市東区高麗橋5－1 電(202)1301

名古屋営業所 名古屋市中区御幸本町通り9－8 電(23)0945・4414　福岡出張所 福岡市橋口町15－1 電(74)8992

皆様の設計と施工に東洋の床材



リノリューム
リノタイル
ビニール系新製品
ビニラートタイル
ビニール製
スポンジシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

カタログ進呈

東洋リノリューム株式会社

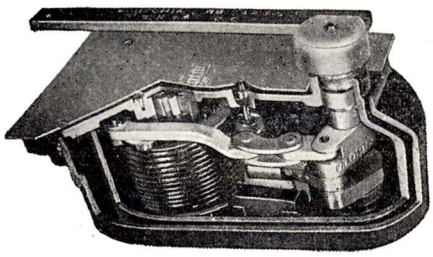
大阪・大阪市南区順慶町通4丁目（三和ビル）
（27）5051（代）

東京・東京都中央区銀座4（三和ビル）
（561）2567

S.K
敷島印

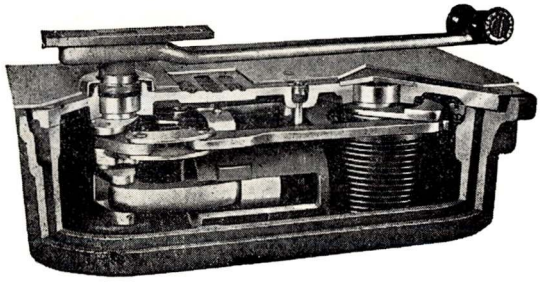
近代人の感覚にマッチする

ユートピア印

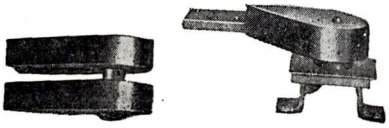


(片開持出吊り型)

フロアーヒンヂ　ピボットヒンヂ



(中心吊自由開型)



(ピボット・ヒンヂ持出し吊り型)

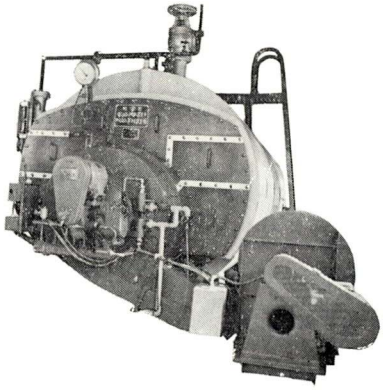
(カタログ御入用の節は御申込下さい)

製造元

敷島金物株式会社

布施市横沼町1丁目46番地　電話 布施(72) 7713 (代) 7714 番
東京都千代田区神田三崎町2ノ26　電話 東京 (301) 0403 (332)5310番

驚異的な蒸発量



MPボイラ

500型

重　油　焚

許可不要で

3.5屯/時

株式会社 平川鐵工所

本　社	大阪市大淀区大仁西2丁目1	電話 大阪 (45)1975代
東　京	東京都中央区八重洲6丁目7	電話 東京 (281)777～8
九　州	福岡県小倉市富野545	電話 小倉 (52) 4862

あなたの忠実な…

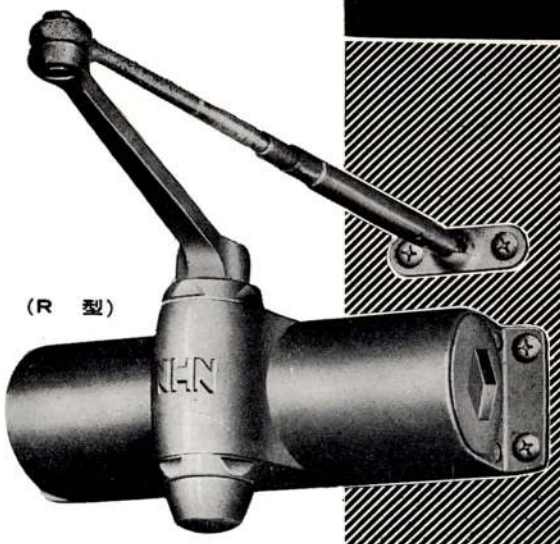
ドアーボーイ！

NHN

＊紫綬褒章に輝く＊

日・米・英・独，各国特許

ニッカナ ドアーチエック



日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

型状優美
故障絶無

錆びない 岩住のサッシ・ドアー

当社の製品はボンデライトをして焼付塗装をして居ます

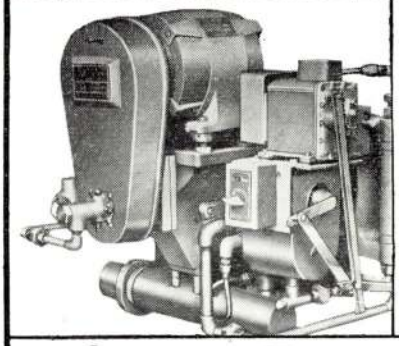
株式会社 岩住鐵工所

本社・本社工場 大阪市西淀川区千舟東2—31 電話代表㊼5123・3000

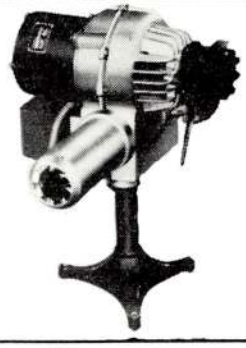
尼崎工場 尼崎市守部下河原15 電話代表㊵6751～3

最高水準を行く

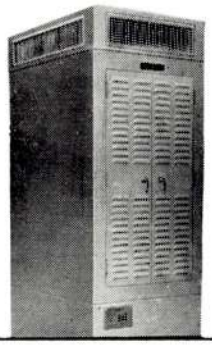
サンレー 重油は
全自動 ロータリ
重油バーナ



サンヒート 軽油は
全自動 ガンタイプ
軽油バーナ



サンヒート 暖房は
全自動 グロスチューブ
温風暖房機



日共冷熱機材株式会社

本　　社　大阪市大淀区天神橋筋六丁目五(天六阪急ビル) 電話 大阪 ㊾代表1476(直通)7071(交換)
東京出張所　東京都千代田区神田神保町1丁目 電話東京 (291) 2718
名古屋出張所　名古屋市東区石町1丁目28番地 電話 名古屋 (97) 6194



ビザータイル
マーブロイ デラックス

特長 ビザータイル・**マーブロイ デラックス**は 塩化ビニール樹脂を主原料として、特殊な製法により、高温、高圧下でプレスされた、美しい立体的なパターンのある高級床材(壁材)であります
(カタログ進呈)

中谷化学株式会社
大阪市東成区大今里本町2丁目4　TEL 大阪 (97) 7757～9

最新の設備　優秀の製品

三和シヤッター



建設大臣登録
(ト)4082

甲種・乙種防火シヤッター
電動式・手動式・スプリング式
其他のシヤッター全般

三和シヤッター株式会社

本　店	尼崎市久々知字コエ23	電　代表(40)5341
札幌支店	札幌市琴似町琴似522	電(3)7438 (5)1519・6873
旭川営業所	旭川市常盤通三丁目	電　5097
帯広出張所	帯広市西2条南7丁目6	電　3856・3857
東北支店	仙台市土樋112	電(3)3296・9618
秋田営業所	秋田市長野下新町26	電　2783
新潟営業所	新潟市春日町西2丁目	電　(3)1443
盛岡営業所	盛岡市菜園城ヶ根町1丁目14	電　(2)7407
平　営業所	平市古鍛冶町10の3番地	電　3303
東京支店	東京都板橋区新河岸町38	電代表(933)7156
新宿営業所	東京都新宿区新宿1丁目60	電　(341)2478・9678
神田営業所	東京都千代田区神田松住町12山京ビル	電　(251)6278 (291)3841～4
品川営業所	東京都品川区五反田1丁目125	電　(441)1300
横浜営業所	横浜市中区弁天通3丁目45	電　(2)7278
高崎営業所	高崎市下和田町429	電　2166
宇都宮営業所	宇都宮市旭町1丁目3428	電　7722
甲府営業所	甲府市杜梅町21	電　2442・6292
水戸営業所	水戸市東原町4717の1	電　8635
名古屋支店	名古屋市中村区広井町2丁目46八洲ビル	電(54)2846(55)9786
静岡営業所	静岡市安東1丁目17	電(3)2846(2)6931
長野営業所	長野市妻科町739	電　(2)5292
松本出張所	松本市袋町149	電　2497・4744
四日市出張所	四日市市四ツ谷新町2823	電　2443
大阪支店	尼崎市久々知字コエ23	電代表(40)5341
大阪南営業所	大阪市阿倍野区三明町1丁目22ノ3	電　(77)8217
大阪北営業所	大阪市大淀区天神橋筋8丁目23	電　(35)2300
神戸営業所	神戸市葺合区生田町3丁目23	電　(22)0189
京都営業所	京都市中京区新町通御池上ル中之町42	電　(22)●900
金沢営業所	金沢市栄町65	電　(3)3130
彦根営業所	彦根市四番町88	電　2053
高松営業所	高松市塩上町809	電　(3)4290
高知営業所	高知市旭町3丁目50	電　(2)1576
徳島営業所	徳島市船場町2丁目12	電　(2)0659
広島営業所	広島市千田町3丁目856	電　(4)3756
九州支店	福岡市渡辺通5丁目92	電(75)5181(75)6901
小倉営業所	小倉市中津口3丁目76	電　(5)3201
熊本営業所	熊本市南千反畑町1622	電　(2)0893
佐世保営業所	佐世保市汐見町377の3	電　551 3
鹿児島営業所	鹿児島市平野町1119	電　(2)6762
宮崎営業所	宮崎市旭通2の7	電　2314

防火・断熱・遮音……三拍子揃った壁、天井材！

音もさえぎる 断熱（サンドイッチ）ボード



・屋外防火一級試験に合格しました（D式　25㎜）不燃材と同じ**防火力**ですから、**簡易耐火構造**の内、外壁にも使用されます。

空気をとじ込めたカベ。——熱伝導率は、モルタルの**1/8**！……独特の**サンドイッチ**方式で完成した理想的な美しい壁体です。**断熱・防火**の良いことはもちろん**しゃ音**の効果が大好評です。

●軽い●強さはスレート板の3倍以上●施工が簡単●費用が安い…●**広い用途**——**内壁・外壁・天井（野地板兼用）・間仕切りなどに。**

ネオ・ユニオンボード姉妹品

アコニオン

防火・断熱に「吸音」の機能をプラスした天井野地板兼用材ができました。**とくに公会堂・体育館・ガレージなどに最適。**



法定不燃材

ネオユニオンボード

JIS許可工場　**旭化工板製造株式会社**

大阪営業所・大阪市北区茶屋町38　電（37）6555～7
東京出張所・千代田区神田須田町1の5　電（291）6691～5
工　　場・尾崎・鈴鹿

（カタログ贈呈）

社団法人

日本サッシ協会

関西支部賛助会員

スチールシャッター
小俣製作所大阪支店
三和シャッター株式会社
鈴木シャッター商会
日本シャッター製作所
本田工業株式会社

錠　前
昭和金属工業株式会社
谷山製作所

サッシ附属金物
近松金物株式会社

ドアー附属その他建築金物
石倉商店
協同金属工業株式会社
渋谷幸雄商店
日本ドアーチェック製造（株）
平安伸銅工業株式会社
増田産業株式会社

サッシバー
加納鉄鋼株式会社大阪支店
東都実業株式会社大阪出張所
東鋼商事株式会社大阪営業所
西村金属株式会社大阪出張所

サッシ・ドアー製造用諸機械
関西鉄工所

パーカー
日本パーカライジング株式会社大阪出張所

（五十音順）

新製品

富士印ビニコンレール

ビニールレールの革命

折れない!!
曲らない!!
釘頭が出ない!!
ゴトゴト音がしない!!

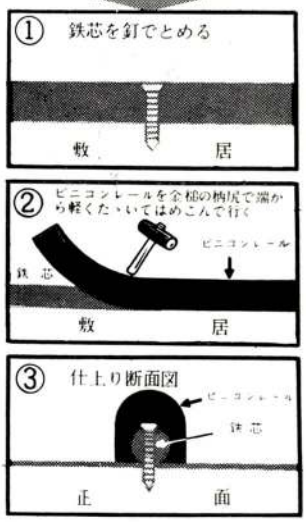
ビニコンレールの特徴

＊ＪＩＳ規格の一級材を使用しておりますので品質が均一で折れません。
＊釘頭が全く外に出ないので、ゴトゴト不愉快な音がしません。
＊温度変化に対して、曲ったり折れたりしません。
＊取付は至って簡単です。
＊色彩が優雅でどこにでもご使用になれます。

製造元
株式会社藤本鋳造鉄工所
ＴＥＬ　大阪（301）２５３７
ＴＥＬ　東京（331）５３７６

総発売元
大阪鋼材株式会社
ＴＥＬ 代表（54）１１６１

ビニコンレールの
取り付け方



完全な防水に…

レオパノールBA

■ 永久に老化しない
■ 伸びる（伸長率 500%）
■ −30°C〜+70°Cの範囲で完全に使用し得る
■ 酸、アルカリに強い

ドイツと技術提携により国産化完成
製造元　タキロン化学株式会社

防水の
コンサルタント
各種防水の設計から施工まで

日本綜合防水株式会社
取締役社長　山崎慎二
本　社　東京都千代田区神田猿楽町１の９（大平舎ビル２階）
電話（291）1604・4302・6922
大阪営業所　大阪市東区道修町１−４（松井ビル）
電話（202）６８８４
工事々務所　東京都板橋区板橋町６の3356　電話（961）9089

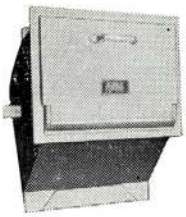
地盤の注入に…　（薬液注入工法）

特許 ケ・ミイ・ゼクト工法

■ 地盤の固結と沈下防止
■ 地下水の遮断阻止と漏湧防止
■ 隧道地下室、貯水池ダム等の漏湧水防止

KYOWA

DS-4 ダストシュート投入口金物
（実物寸法の約二十分の一）



製品名
ドアーハンガー
重・軽量戸車
レヂスター
ダストシュート
錠前・ハンドル
等々

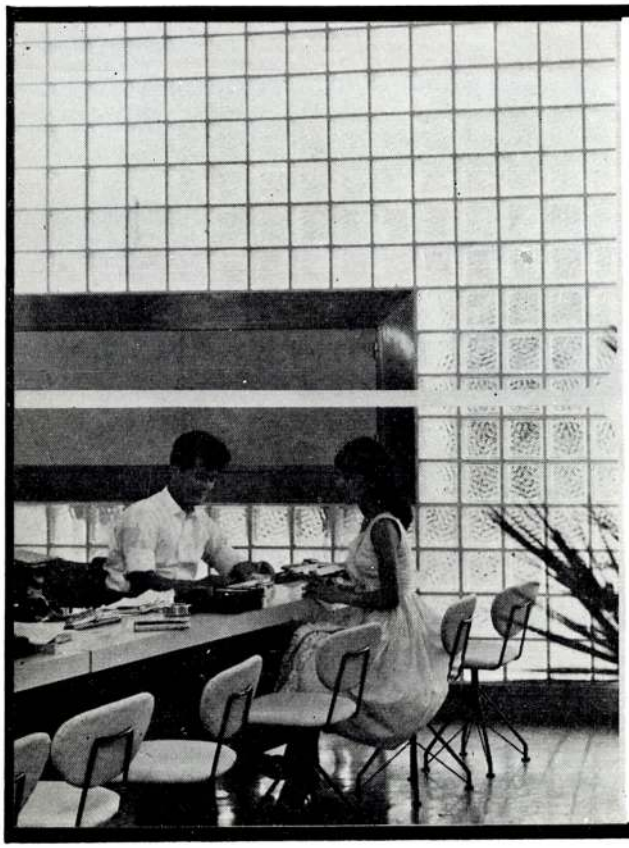
カタログ進呈

協和製品の特徴

協和建築金物類はグッドアイデアの基に各種金属類の粉末冶金法に依る成型品・耐熱耐圧に富む強化プラスチック、プラスチックの鋼と称せられるデルリン等の成型品を巧に用い、体裁優美実用価値を充分兼備した製品が最新の近代的製法に依り大量に生産される我国唯一の製作工場であります。

協和産業株式会社

本　社　大阪市東区本町5丁目11番地
電話（代表）大阪 25－5978番
東京出張所　東京都千代田区六番町15番地
電話（代表）東京 301－0624番
都島工場　大阪市都島区内代町4丁目1番地
電話（代表）大阪 951－4431番
高槻工場　高槻市芥川540番地の8
電話　高槻 5－0509番



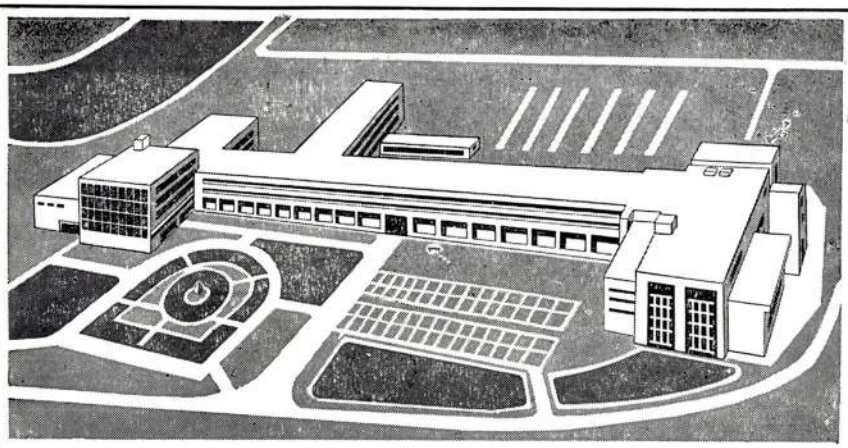
くらしに
あふれる
光を……

NE

ガラスブロック

日本電気硝子株式会社

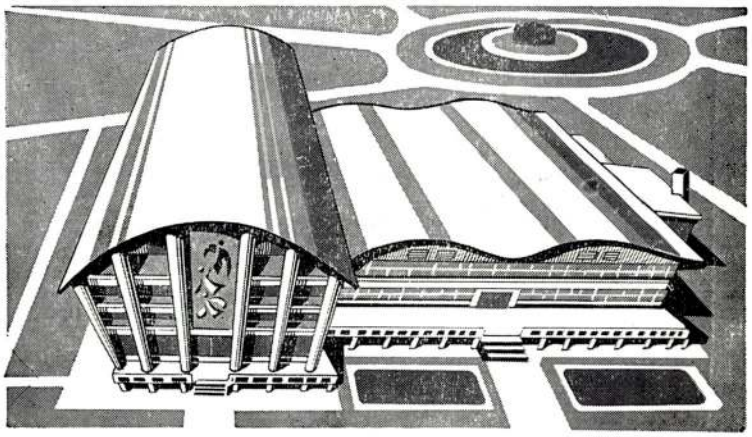
営業部・大阪販売所
大阪市北区高垣町16　TEL 312・3237～9
東京販売所
東京都品川区大井鮫洲町199　TEL 491・2819
工場　大津・藤沢



軽量、緩勾配屋根に
軽快な近代建築材

日泝スーパーアルソイド
日泝ゴールデンルーフイング

伸縮目地材　エキスパンタイト
　　セロタイト
コーギング材　シールセメント



日泝化学工業株式会社

本　　社　東京都中央区八重洲1—3
　　TEL(271)7000・5463～5
営業所及東京工場　東京都荒川区尾久町6—101
　　TEL(807)代表0161～5

大阪営業所及大阪工場
　　大阪市東淀川区堀上通り3—39
　　TEL(39)0924～5・2045・2079

Toyotoki

東洋陶器の商標が統一されます

●弊社では事業の発展に伴い営業品目も多くなりそれぞれの製品に違った商標を用いてまいりましたがお客様の良品選択に混乱をもたらす恐れがございますのでこのたび長年皆様から親しまれてきました下記４つの旧商標を新商標 Toyotoki に統合 すべての商品に統一して使用し商品に対する責任をより明確にいたしたいと存じます37年１月から順次切替えを行う予定でございますので倍旧のご愛顧をお願い申上げます

旧 商 標

衛生陶器	付属金具	トートライト	食 器
TOYO CO.,LTD	Toyotoki TJK	TOKI TOYO CO.,LTD TOTOLITE	Toyotoki

新 商 標

Toyotoki

本社・工場 小倉市／茅ケ崎市工場 茅ケ崎市
大阪営業所 大阪市東区高麗橋 (23) 4518～・1424
営 業 所 東京・大阪・名古屋・小倉
出 張 所 広島・高松・札幌・仙台・富山

東洋陶器株式会社



床材の王座（キング）！

新発売

ロンタイルK

30 cm × 30 cm ・ 厚さ 2 mm

ロンリウムK

182 cm巾 ・ 厚さ2mm、3mm ・ 長尺

従来のロンリウム・ロンタイルの姉妹品として、川口ゴムの最新の設備で完成したビニル新床材で、色調・摩耗性・耐燃性・耐油性など格段と優秀性を有します。ロンリウムK・ロンタイルKはいずれも全層同質で耐摩耗が強化され、然もソフトな質感は公共建築・ビル・車輌の床にピッタリとし価格も一層経済的になっています。

ロンプレート
網入等各種類そろった塩ビ波板

ニューロンプレート
使いやすい、トタン小波の普及品

ロンガラス
用途の広い、透明・半透明塩ビ平板

ロンフイックス
丈夫で汚れない最新の壁・腰貼材

ロンリウム
品質随一と定評のある床張材

ロンタイル
あらゆる床にマッチする美しい床材

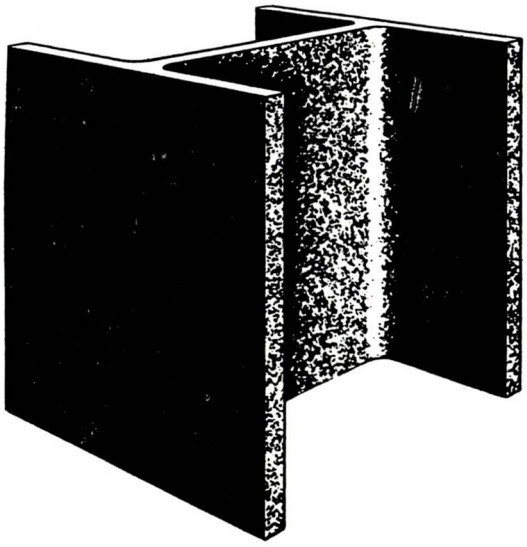
川口ゴム工業株式会社

本社・工場 東京都葛飾区本田四ッ木町５４ 電話 東京(697)6141(代表)
埼玉工場 埼玉県越谷市大字蒲生2740 電話草加(0871)2033蒲生112
外 園 部 東京都千代田区神田鍛冶町２－16 電話 東京(291) 3588～９
神田営業所 東京都千代田区神田鍛冶町２－16 電話 東京(291) 0003～４
大阪営業所 大阪市南区北炭屋町３３ 電話 大阪 (27) 4358～９

● 明日の日本を礎く……。

H形鋼

■構造用H形鋼
■基礎杭用H形鋼



用途

- 基礎杭
- 仮設
- 地下鉄
- 建築
  - ビル
  - 工場
  - 発電所
  - 学校
  - その他
- 隧道
- 橋梁
- 鉄塔、鉄柱
- 港湾
- 桟橋
- 船舶
- 機械



八幡製鐵株式會社

アスファルト防水は年限保證する
日本アスファルト防水工業会の仕様による
経験と技術の工業会員へ

日本アスファルト防水工業会員名簿　（イロハ順）

地区別	会社名	住所	電話
北海道地区	日本スレートKK	札幌市北三条東4－1	②3458・4426
東北地区	大和工業KK 仙台出張所	仙台市二日町1－2	③7790・②0335
関東地区	井上瀝青工業KK	東京都中央区銀座東2—13	(541)1974-5
	伊藤建材KK	東京都台東区浅草田島町77	(871)5311(841)5729
	北条瀝青工業KK	東京都中央区湊町3－7	(551)2676・4382
	YK金岡興業	東京都新宿区柏木5—1172	(361)5947・(371)1337
	高山工業KK	東京都千代田区神田小川町1－8	(251)0161-3・1301-2
	瀝青建材KK	東京都中央区銀座東3—11	(541)6945・7834
	桑原建材KK	東京都文京区新諏訪町6	(921)0448・0647
	大和工業KK	東京都荒川区南千住6—42	(891)1144-6・7155-7
	マサル瀝青工業KK	東京都台東区新坂本町61	(841)8501・(871)2851
	藤井工業KK	東京都文京区林町94	(941)0271・2582
	KK三柏商会	東京都千代田区神田同朋町3	(251)8867・7517
	KK金港商店	横浜市西区高島町1－1	㊹7846・8476-7
東海地区	中央建材工業KK	名古屋市中区南久屋町3—12	㉔0496・2066・8700
	日本建材興業KK	名古屋市西区南押切町5—12	㊺6860・2574・0415
近畿地区	日新工材KK	大阪市西区新町北通1—17	㊹3785-6・2721
	マルエス工業KK	大阪市福島区上福島南1—152	㊺2360・2030
	KK新光商店	大阪市南区塩町通2—13	㉖7195-7・4467
	高山工業KK 大阪営業所	大阪市北区老松町2—19	㉞5976-8
	清水興業KK	大阪市北区鶴野町34	㊲0251-3
中国地区	豊永建材KK	広島市南竹屋町103	④3567
	東中國防水工業YK	岡山市磨屋町22	③2211・6302
四国地区	大三工業KK	高松市内磨屋町7	②8697
	KK山本商会	松山市萱町2—95	②2717・8422
九州地区	日新興業KK	延岡市本小路74	4305
	大同工業KK	宮崎市橘通6—82	8155-6
	KK工材社	門司市大里東通10丁目	㊳1468-9
	安藤工事KK	福岡市大浜1丁目新町95	②6968・③5765
	KK北原建材商会	鹿児島市上之園町62	④0001-2

日本アスファルト防水工業会関西事務所

大阪市西区新町北通1-18　　日新工業KK大阪営業所（53）5281-3

会員の受章

会　員　の　受　章

本会々員で下記の方々がこのたび褒章を受けられました。ここに誌してその栄誉をお祝い申し上げます。

記

黄綬褒章	五十嵐　芳　雄　君	（評議員会議長）
同	磯　野　作太郎　君	
同	岸　川　康　蔵　君	
同	伴　　秀　雄　君	（元　理　事）
藍綬褒章	古茂田　甲午郎　君	
同	菅　谷　三　郎　君	（元　理　事）
同	中　西　六　郎　君	（元副会長）

理事の補欠選任

理　事　の　補　欠　選　任

昭和36年11月28日開催の定時評議員会において，先般逝去された理事市川進男君および東京転出のため辞任せられた理事諫早信夫君の理事2名欠員に対する補選を執行いたしましたところ，下記のとおり選任されましたので，ここに会告いたします。

記

池　田　総一郎　君	（京都大学教養学部教授）
田　中　弥　一　君	（住宅公団大阪支所次長）

昭和36年12月
昭和37年1月

会と催

忘年懇親会

アデュー1961年忘年懇親会開催

本年もあとわずかで過ぎ去ろうとしているあわただしいこのごろ，会員皆様のご健斗慶賀に存じます。恒例の忘年懇親会は好評の一流芸人によるアトラクションを中心にお座敷の会場で催します。何卒お早くお申し込み下さい。

記

1. 日　時　12月14日（木）午後6時（開会）—8時（閉会）
1. 会　場　味　園　3階大広間（千日前・大劇東電話@7777番 エレベーターをご利用下さい）
1. 会　費　500円（別に補助があります）
1. 申　込　9日までに会費を添えてお申し込み下さい。なお定員300名に達したときは締め切ります。
1. 余　興　一流芸人による新しい内容と型式
1. お土産　出席者全員に贈呈（会員有志の寄贈品）
1. 抽せん　当せん者に会員有志の寄贈品進呈

お願い

- 準備の都合上会場では受付けはいたしません。
- 申込者で欠席の場合でも12日までにお知らせがない場合は会費の負担を願います。
- 出席者名簿を作りますので申込みのとき，氏名，勤務先をお知らせ下さい。

近畿在住の会員にははがきでお知らせしました

新年交礼会

建築関係団体共催
新年交礼会開催

恒例による新年交礼会を下記により開催いたします。多数関係者が一堂に会して年頭の祝詞を交換し，かつは相互廻礼の煩を省くよう，多数会員お繰り合せご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

1. と　き　昭和37年 1 月 4 日（木）午後1時—2時　随時
1. ところ　大阪建設会館6階（天神橋南詰め）
1. 会　費　300円
1. 申　込　会費を添えて適宜所属団体へお申し込み下さい
1. 締切り　12月20日　名簿作成上締切り日厳守
1. 共催団体　大阪府建築士会　大阪建設業協会　日本建材協会　日本建築学会近畿支部　日本建築家協会関西支部　本　会

大阪の電話局番は全部「3ケタ」にかわります

大阪（吹田，守口，布施，尼崎を含む）の電話をもっとどんどんふやすために，2月4日をもって現在「2ケタ」の電話局番は末尾に「1」をつけて全部「3ケタ」にかわります。

たとえば，44—1331は441—1331というようにかわります。現在「3ケタ」の局番はそのままです。



鉄骨鉄筋コンクリート構造設計実例集

▶12月発刊◀

＊掲載内容

＊新大阪ビルディング
＊関電ビルディング
＊阪神ビルディング
＊輸出繊維会館
＊千代田生命ビルディング
＊大阪国際貿易センター
＊大阪東映会館

1. 構造計算書　B5判　特クロース装本　総500頁
2. 構造設計図　B4判　特クロース装本　総200頁
会員特価 2,900円　定価 3,500円　送料 200円
＊お申込み⇨本会・または最寄書店え

編集発刊　＊社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37番地／電話北浜(23)9648・9649・9640番 振替大阪39975番

イワキセメント

PORTLAND CEMENT IWAKI CEMENT CO.,LTD.

磐城セメント株式會社

建物樹木の害虫

白　蟻



イエシロアリの巣



イエシロアリの一族

和歌山市小松原通四丁目一番地(日赤病院前)

前田白蟻研究所

電　話（和歌山）②１３８９番



梁の被害

白蟻

の駆除予防工事専門

諸官庁・諸会社御指定

調査無料!!

全国各地方に社員が出張いたしておりますから
遠近に拘らず御一報次第蟻害対策の御相談に参
上致します

和歌山市小松原通四丁目一番地（日赤病院前）

前田白蟻研究所

電話（和歌山）②１３８９番

建築と社会

第42集

1961年総目録

社団法人　日本建築協会

建築と社会　第42集　1961年　1月号—12月号　総　目　録

号

特　集　号

アイデア特集……1
居留地建築特集……2
長谷部鋭吉特集……3
土の特集……4
インテリア特集……5
自動車と建築特集……6
第8回青年建築家特集……7
建築と規格特集……8
建築とリクリエーション特集……9
建設産業構造特集……10
材料特集……11
日本近代建築運動史特集……12

作品作風

ビルディング・事務所

大阪富士ビル……1
　設　計：KK松田平田設計事務所
　施　工：KK竹中工務店
大阪神鋼ビル・大井ビル・北海道拓殖銀行…2
　設計監理：三菱地所KK
　施　工：清水建設KK
日本板硝子本社ビル……7
　設　計：日建設計工務KK
　施　工：KK竹中工務店
東邦商事KK本町ビル……7
　設　計：日建設計工務KK
　施　工：KK大林組
淀屋橋勧銀ビル……8
　設　計：KK竹中工務店設計部
　施　工：KK竹中工務店
広銀ビル（大阪）……8
　設　計：河内義就設計事務所
　施　工：KK増岡組
大阪興銀ビル……9
　設計監理：山下寿郎設計事務所
　施　工：KK大林組
丸善石油本社ビル……9
　設計監理：KK石本建築事務所
　施　工：鹿島建設KK
レナウン商事大阪支店ビル……10
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：清水建設KK
尼崎三和ビル……10
　設計監理：東洋不動産KK
　施　工：KK大林組
毎日放送千里丘総合社屋……11
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK大林組
松下電器産業KK本社事務所……12
　設計監理：日建設計工務KK
　施　工：KK竹中工務店
順慶町三和ビル……12
　設計監理：東洋不動産KK
　施　工：KK鴻池組

会　館

輸出繊維会館……3
　設計監理：村野・森建築事務所
　　KK大阪建築事務所
　施　工：KK戸田組
広島放送会館……4
　設　計：山下寿郎設計事務所
　施　工：KK大林組
兵庫県職員会館……4
　設　計：兵庫県建築課

号

　施　工：中国建設工業KK
兵庫県婦人会館……4
　設　計：兵庫県建築課
　施　工：中国建設工業KK
大谷婦人会館……8
　設　計：安井建築設計事務所
　施　工：東海興業KK大阪支店

官公庁建築

広島合同庁舎……4
　設　計：建設省中国地建
　施　工：大成建設KK
　　鹿島建設KK
京都中央郵便局……11
　設計監理：郵政省大臣官房建築部
　施　工：KK大林組

ホテル・宿舎

京都ホテル……6
　設　計：京都ホテル増改築
　　工事設計担当室
　施　工：KK竹中工務店
都ホテル……6
　設　計：村野・森建築事務所
　施　工：KK大林組
京都国際ホテル……10
　設計監理：吉村順三設計事務所
　施　工：清水建設KK
国民宿舎玉野荘……9
　設　計：京大建築研究協会
　施　工：山陽建設工業KK
小豆島ユースホステル……9
　設　計：連合設計社市谷建築事務所
　施　工：寒川工務店
志摩観光ホテル（増築）……9
　設　計：村野・森建築事務所
　施　工：KK大林組
ホテル・パシフィック……9
　設　計：渡辺建築事務所
　施　工：KK戸田組
鳴門逓信保養所観潮荘……9
　設　計：松山郵政局建築部
　施　工：KK岡田組

室内デザイン

クラブOTA……5
　設　計：彦谷建築設計事務所
商品陳列場……5
　設　計：大阪建築事務所
大阪駅ステーションパーラー……5
　設　計：共同設計KK
某銀行内部・連結椅子・他……5
　設　計：日建設計工務KK

寺　院

東本願寺難波別院……7
　設　計：松下清夫・太田博太郎
　施　工：KK竹中工務店

スケッチブック

近畿各大学工高卒業設計コンクール入選作…7

アイデア

アイデア特集・総論……1
第1部　設　計……1
　岡田　光正・河合　正一・大束　徳郎

号

　木村　喬夫・島田　勝次・力武　利夫
　倉石　秀夫・佐野　正一・三川　栄吉
　高原　道夫・河合　正一
まとめ……1
第2部　施工・材料・生産方式……1
　谷口　尚武・力武　利夫・岩崎甚太郎
　倉石　秀夫・島田　勝次・河合　正一
　小田島兵吉・橋本　良介・山下　暢雄
　吉田　元七
まとめ　1. 土・基礎工事……1
　　2. 主体構造および仕上材料……1
　　3. 生産方式……1
第3部　設　備……1
　中原　茂・犬束　徳郎・上林　博雄
　木村　喬夫・吉田　吉七・川上　秀光
　倉石　秀夫
まとめ……1
第4部　都市計画……1
　図師　嘉彦・河合　正一・北垣　智造
　松井　昭光・西原　清之・秀島　乾
まとめ……1
その他……1
　向井　正也・三田　一男

居留地建築

居留地建築特集号によせて……2
明治初期居留地……2
　明治2～3年ごろの神戸居留地海岸通り，明治20年代の海岸通り，ウォールシュ・ホール商会，初代クラブ・コンコルディア，もとシーメンス・インスティテュート，江商神戸支店
明治中期居留地……2
　神戸クラブ，二代クラブ・コンコルディア，デラカンプ商会，故高橋栄治氏の記録による神戸元居留地の一洋館
明治後期居留地……2
　香港上海銀行神戸支店，ドイツ領事館，明治後期神戸もと居留地海岸通り附近
小松益喜画伯の描いた
　明治12年ごろの神戸居留地……2
バーナードの描ける神戸居留地風景……2
小松益喜画伯の描いた居留地洋館
　および山手洋館……2
山手に現存する木造洋館……2
　もと神戸女子短期大学北野寮，エズラ・ジェー・シュエケ氏邸，もとイー・ストロヴィー氏邸，藤月荘，エフ・ブルム氏邸，小林秀雄氏邸，東天閣，神戸女子短期大学山本寮，エー・ロバートソン氏邸
川口居留地の沿革……林野　全孝…
神戸における洋館建築の特色とその変遷
　—居留地を中心として—…坂本勝比古…2
欧米木造技法の伝統と
　神戸の木造洋館……桐敷真次郎…2

建築と社会　第42集　1961年　1月号—12月号　総目録

号

神戸の洋館と「外国造」……稲垣　栄三… 2
居留地と神戸……島田　勝次… 2

長谷部鋭吉特集

長谷部鋭吉氏をしのぶ……竹腰　健造… 3
作品・戦前の部…… 3
作品・戦後の部…… 3
インナーデザイン・スケッチ…… 3
南画・油絵…… 3
長谷部鋭吉氏をしのんで…… 3
追悼歌……住友吉左衛門… 3
昇天・その姿……山本　五郎… 3
長谷部君を追想して……薬師寺主計… 3
「忘れられない人」長谷部鋭吉さん
……波江　悌夫… 3
長谷川さんの思い出……鮎川　義介… 3
長谷部鋭吉君をおもう……置塩　章… 3
暁雪君の思い出……鳥山　嶺雪… 3
長谷部サンの思い出……大島　重義… 3
思い出づるままに……水野鶴之助… 3
建築芸術家としての
長谷部さんとカトリック…森井　健介… 3
長谷部先生の思い出……佐藤　秀三… 3
建築装飾の場においての示針とその指導性
……奥田　勝… 3
メガネの伯父さん……大沢　昌助… 3
晩年の長谷部先生のプロフィル
……尾崎　久助… 3
長谷部先生と私……伊藤　鉱一… 3
長谷部を追想して……塚本　猛次… 3

土・構造

土の工学の歩み……竹中準之介… 4
大阪の地盤沈下と対策について
……高津　俊久… 4
附　大阪の地盤図
……（大阪市大岩津研究室）… 4
建築地盤土質調査規準（案）
……日本建築協会災害委員会… 4
用語解説…… 4
1. O.P.とT.P.……藤野　良幸… 4
2. 物理地下探査……馬場　善雄… 4
3. 地耐力……山肩　邦男… 4
4. くいの耐力……長田　正雄… 4
5. 建物の沈下……平田　定男… 4
6. 砂・シルト・粘土……小泉　昇… 4
7. 圧密沈下……陶浪　貞彦… 4
8. ヒービング・ボイリング・パイピング…谷口　尚武… 4
9. 「グラウティング」について
……宮川　達郎… 4
10. 建築水位……貝戸　俊一… 4
ビルの転倒問題と地盤へのメリコミ
……鷲尾　健三… 6

インテリア

インテリア・デザインということについて
……渡辺　力… 5
建築における内部について……増田　友也… 5
エール・フランス——東京（ペリアンのインテリア・デザインについて）
……小室　勝美… 5

号

鉄道車両におけるインテリア・デザイン
——「つばめ」の食堂車に
一例をもとめて——…米満　知足… 5
造船計画におけるインテリヤ
デザイナーの立場…種村　真吾… 5
殻とその中の生活……すぎやま・たかつぐ… 5
建築設計と室内設計とのあり方
——竹中工務店の場合…村尾　栄… 5

自動車と建築

危機に立つ路面交通……山下　豊久… 6
大都市圏の自動車交通対策の調査
……水野福太郎… 6
激増する自動車交通と交通問題解決へのアプローチ…毛利　正光… 6
アンケート　自動車問題に対する都市への新しい提案… 6
自動車問題に対する都市への提案
……谷口豊三郎… 6
都心部の交通をどうする……栗本　順三… 6
増加する自動車に対する都心部のあり方
……小野　逞三… 6
アンケートに答えて……松本　完三… 6
都市道路立体化論……沢田　徳蔵… 6
貸ビルと車両あるいはパーキングについて
……出口清三郎… 6
都市再開発における駐車場問題
……中島又十郎… 6
駐車場法・関係法令質疑応答…… 6
大阪市駐車場条例…… 6
大規模建築場の神戸市駐車場条例について
……景山　正明… 6
名古屋豊田ビル駐車について…奥井　三郎… 6
新阪急ビルディングの駐車場計画について
……松本　洋… 6
大阪興銀ビルのパーキングについて
……添田　賢朗… 6
出光興産のガソリンスタンドについて
……斉藤　格司… 6
クラブパークシステム…… 6
立体駐車場の必要…… 6
新三菱NSB駐車設備について…… 6

第8回青年建築家

作品　青年建築家
公団住宅東舞子団地・総持寺団地
……大倉　秀明… 7
名古屋空港ビル・CBC会館…岡部　幸蔵… 7
帝人松山工場体育館……尾路　義一… 7
大阪府立阪南高校・上野市公民館
……柴田　勝之… 7
京都市鳥羽下水処理場……白井　剛… 7
大和銀行吹田片山寮……高田　威… 7
吹田市公民館他……鶴田　昭一… 7
関西ペイント東京工場事務所他
……東内　敏… 7
野村証券吉祥寺支店・横浜中村ビル
……中島　克己… 7
花王石鹸KK和歌山工場……西田　芳弘… 7
住友商事御影住宅他……長谷部朔郎… 7
松下電器産業KK仙台営業所他
……福井　弘明… 7
淡路ユースホステル……堀　照男… 7
能勢カントリークラブクラブハウス
……松村　健次… 7

号

西田辺独身者住区7号館他……宮崎　八郎… 7
富士鉄広畑健康保険組合体育館
……米井　顕一… 7

建築と規格

部材と規格 ——JISと建築——
……長沢　武… 8
モデュールと規格……鈴木　雅夫… 8
規格とプレファブ……吉田　圭三… 8
公団住宅の部品規格化について
……田中　弥一… 8
設計と規格 ——標準ディテールの問題——
1. 標準ディテールの歩み
……KK竹中工務店設計部… 8
標準図面…… 8
2. 標準ディテールへのアプローチ
……大林組　岩崎甚太郎… 8
施工標準図集——防水関係…… 8
3. 標準詳細とその周辺
……電々公社近畿電通局… 8
標準詳細図…… 8
4. 標準ディテールへのアプローチ
……近畿地建　片山光生… 8
5. 公団住宅標準詳細図集
……住宅公団　小西嘉夫… 8
標準詳細図…… 8
建築と規格アンケート
三輪泰司ほか10名…… 8

トピックス

新農林規格…… 8
広瀬久治郎・若木　寛・脇田　勝之
喜多　聖泰
規格サッシ……斎藤　祐義・井上　千寿… 8
義務教育用家具……杉垣仙治郎… 8

リクリエーション

生活におけるリクリエーション
……今　和次郎… 9
リクリエーション開発のマスタープラン
……三村　浩史… 9
国民休暇村の構想……糸賀　黎… 9
国民宿舎の設計について……永嶋　正信… 9
日本のユースホステル……林　幸二郎… 9
びわ湖観光開発計画……京大西山研究室… 9
Ⅰ．リクリエーション生活の発展と観光計画…… 9
Ⅱ．都市発展の中における観光開発計画… 9
K・地区レゾート開発……大久保昌一… 9
立山観光開発計画……宇野　佐… 9
大阪城公園の計画について……田治　六郎… 9
トータル・リクリエーション・ゾーン…… 9
小島　将志・太田　隆信・沖田　裕生
遊園地ドリームランド
……村野・森建築事務所他… 9

建設産業

今後の建設産業のあり方……銭高　蟬之…10
日本の建設産業構造の諸問題…松井　昭光…10
中小建設業のあり方……竹中　靖一…10
資金面よりみた建設中小企業の経営について
……松井清之助…10

建築と社会　第42集　1961年　1月号—12月号　総目録

号

労務者不足問題……岸田　成計…10
——建設労務者の現状分析——
技能者養成について……山田　四郎…10
建設労働者の当面する諸要求について
—とくに協定賃金運動—…鈴木　正明…10

材料

新材料の反省……塚本　猛次…11
新材料について……山根正次郎…11
内装材の吸音と遮音と防音と…前川　純一…11
音響に興味を持つ建築技術者の立場で
……山形　勝久…11
樹脂防水……北山二十三…11
アスファルト防水について……松本　大平…11
材料の湿気特性と防湿計画……斉藤　平蔵…11
——材料の吸湿性と透湿性を中心に——
接着剤の建築への応用とその問題点
……武井　伴治…11
左官材料と上塗材料……中村　伸…11
建築材料の耐候性試験法をめぐる問題
……田村　恭…11
新材料一覧表……脇田　勝之…11
材料アンケート……11

トピックス

シリカリチート……川上　玄…11
電導性ガラス（ECガラス）の応用
……旭硝子KK…11
パターン・スティニング……谷口　尚武…11
モザイクパーケット……千田　安男…11
タキロンスーパー防水シート…
……タキロン化学KK…11

建築運動

建築運動とは……西山　卯三…12
近代デザイン運動・雑考……向井　正也…12
分離派・建築会——その正誤と自註
……滝沢　真弓…12
日本インターナショナル建築会
……上野伊三郎…12
創宇社建築会のこと……山口　文象…12
「日本工作文化連盟」の思い出
……蔵田　周忠…12
新日本建築家集団（NAU）…図師　嘉彦…12
建築研究団体連絡会とその前後
……鈴木　成文…12
新建築家集団（NAC）……松井　昭光…12
民主々義を守る建築会議……
……田巻博造・田中正雄…12
日本建築学生会議……田中　康夫…12

近代建築調査委員会報告

13. 異人館……大石　健次…1
14. 居留地建築特集……2
15. 新島旧邸……近藤　豊…3
16. 三重県庁舎……近藤　豊・林野全孝…4

号

17. オリエンタルホテル……坂本勝比古…5
18. 日本銀行大阪支店……林野　全孝…6
19. 京都国立博物館……近藤　豊…7
20. 三菱銀行神戸西支店……坂本勝比古…8
20. 三菱銀行大阪支店……林野　全孝…8
21. 奈良県庁本館・奈良国立文化財研究所・奈良ホテル…浅野　清…9
22. 兵庫県・旧庁舎……滝沢　真弓…10
23. 京都ハリストス正教会聖堂
……近藤　豊…11
24. 明治高楼建築……林野　全孝…12

座談会

長谷部鋭吉氏とその周辺を回顧する……3
出席者（50音順）　今林彦太郎
岡橋作太郎・置塩　章・河盛益太郎
滝沢　真弓・村野　藤吾・山根正次郎
編集側＝上林博雄他

建築基礎構造設計規準をめぐる諸問題……4
出席者（順不同）　馬場　善雄
山肩　邦男・小泉　昇・貝戸　俊一
金田　宏・前川　陽一・大西　常仁
山下　暢雄・西田　芳弘・村田千之助
稲村　数夫・神保　通彦

建築家とインテリアデザイナーとの座談会…5
出席者（順不同）　樋口　治
中村　真・岡村　実・小川　正
彦谷　邦一・長沢　徹夫・上林　博雄
中村銀之助

在日留学生と若い建築家の交歓会をおえて…7
本会第1回欧米建築事情視察団慰談会……7

建築の眼

担当：木田　幸夫・田代　正尚・山田　勝成
和田　晋弥……1,2
担当：伊丹　孝・小林　義定・堀　照男
松岡　広之……3,4
担当：坂本　松男・前川　陽一・松下清一郎
右田　広……5,6
担当：鍛治　延男・上村　幸之・寺谷　敏行
前田　治……7,8
担当：中村　堯・能勢　善樹・早川　和男
山下　信夫……9,10
担当：北村　隆夫・羽淵　幹夫・藤田　邦昭
松本　太平……11,12

書評

「建築展1960」日本建築家協会関西支部……5
三千家の茶室　岡田孝男著……5
青田豊吉　「農村すまいの手帖」
……島田　勝次…4
「消費革命とレジア産業」……住田　昌二…9
「発明の世紀にどう対処するか」
——技術革新と経営——……早川　文夫…10

号

都市計画

大阪南船場問屋街地区改造の提案
……藤田　邦昭…1

会員の声

建築教育のこと……葛西　重男…1
デザインのこと——新年のジャーナルをみて
……金沢　弘真…2

随想

年頭のことば……尾崎　久助…1
故青木友一氏を偲んで……室谷　山水…5
欧米飛び走る記……玉置豊次郎…7
欧米建築の覚書……雑賀　孝夫…7

その他

昭和36年度常設委員会委員氏名……5
現場実習指導要項……
……日本建築協会教育委員会…7

会報

1960年11月分……1
〃　12月分……2
1961年1月分……3
〃　2月分……4
〃　3月分……5
〃　4月分……6
〃　5月分……7
〃　6月分……8
〃　7月分……9
〃　8月分……10
〃　9月分……11
〃　10月分……12

会告

昭和36年度役員選任……4
監事ならびに評議員当選お知らせ……4
昭和36年度理事会務分掌……5
近畿建築会館設立資金借入金の
一部抽せん償還……5
昭和36年度収支予算……5
会員の受賞……6,8,11,12
昭和36年度中国支部選出評議員当選通知……6
会館基金えの寄付金受領……6,8
通常総会決議報告……7
昭和35年度事業報告書……7
昭和35年度決算報告……7
昭和36年度中国支部役員新任通知……7
第2回欧米建築事情視察団募集……7
要望書提出……8,9
理事の辞任と逝去……9
創立45周年記念事業の実施について……11
理事の補選……7,12



松下電器産業株式会社本社事務所

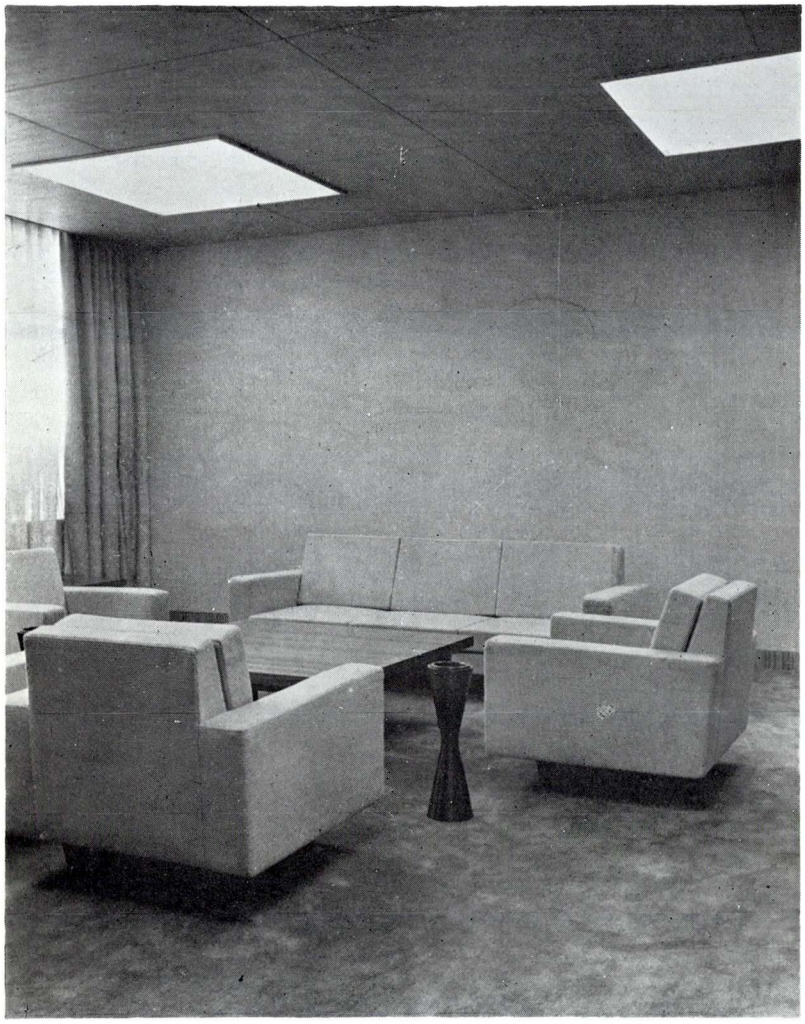
施　工　株式会社　竹中工務店



松下電器産業株式会社

本社事務所

会長室



社長応接室

家具製作

株式会社

大阪三越

松下電器産業株式会社本社事務所



会長室造作

内外木材工業株式会社



塗装工事

株式会社　三木塗装店

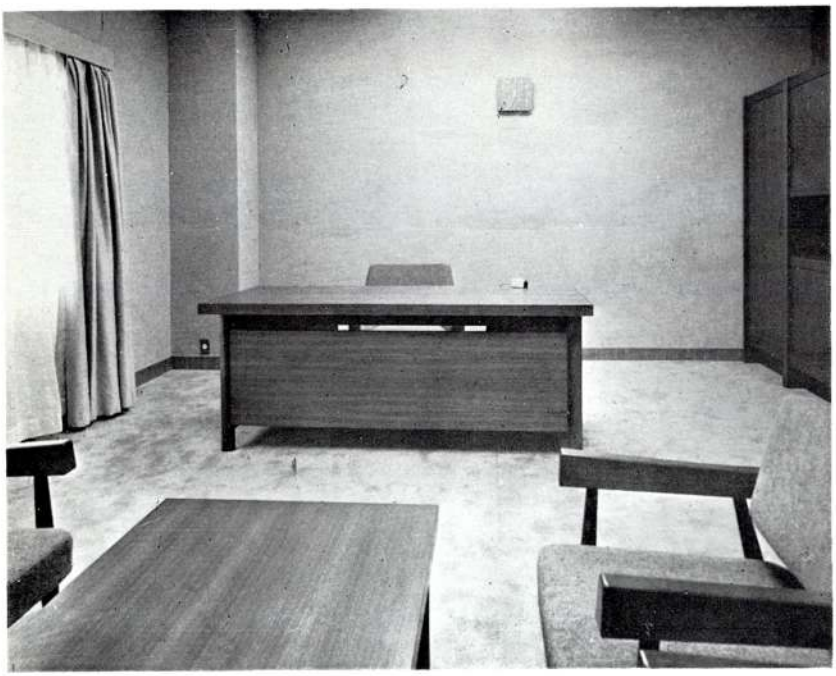
天井・壁裂地張およびクロース貼

亀井株式会社

給排水衛生消火栓設備工事

株式会社　林工業所

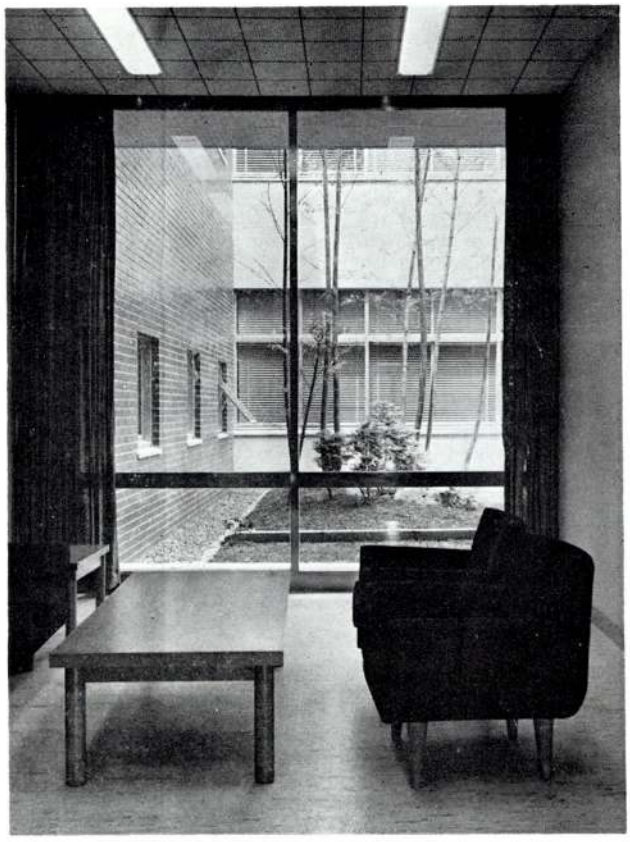




松下電器産業KK
本社事務所

参与室

塗装工事
株式会社　中村塗装店

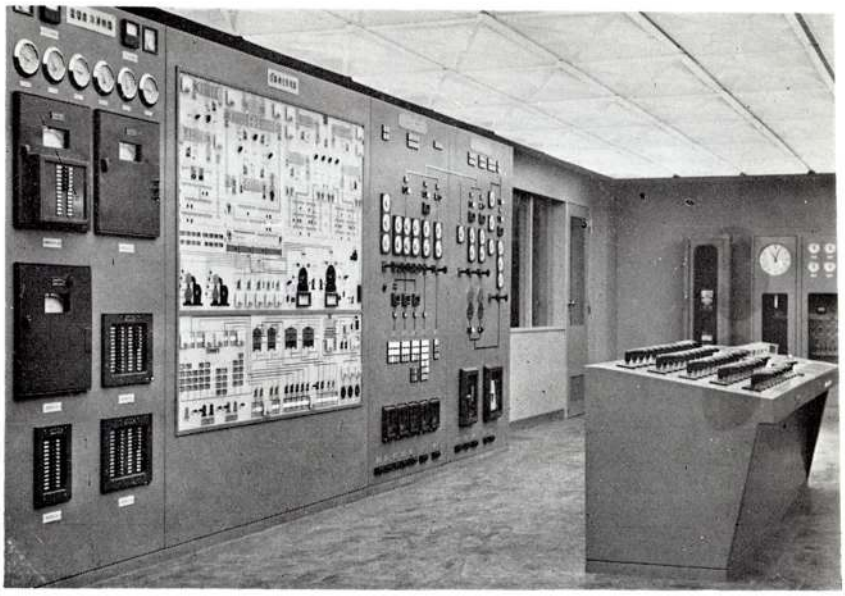


ソフトンタイル

田島応用化工株式会社

松下電器産業KK

本社事務所



受変電設備工事

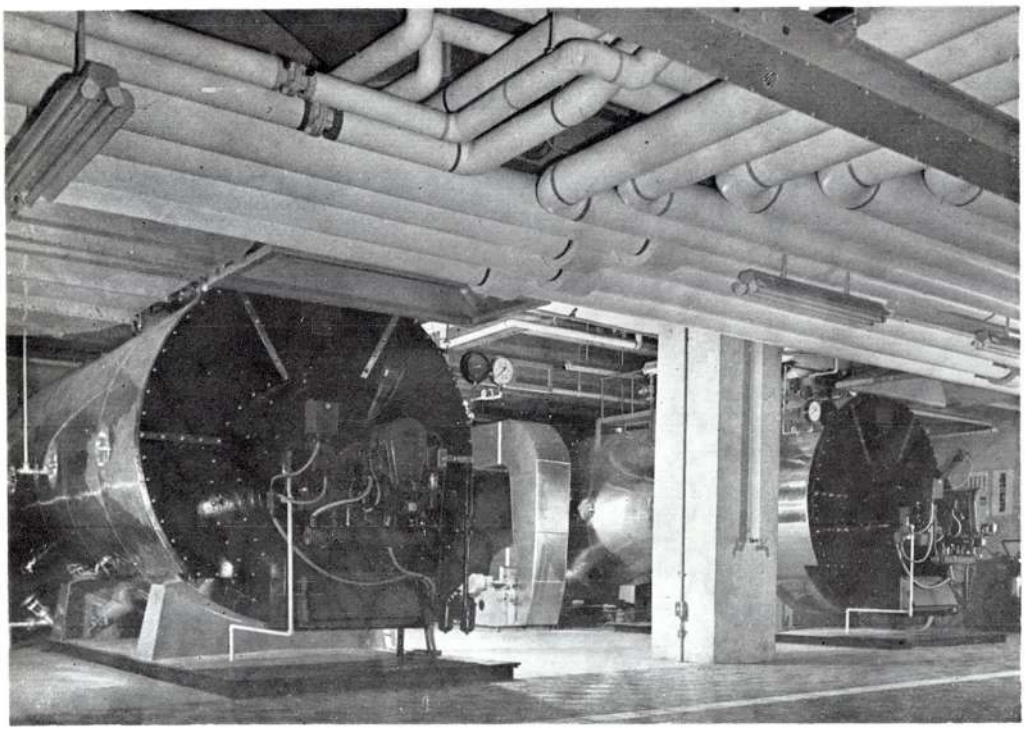
近畿電気工事株式会社



天井照明

栗原工業株式会社

1階玄関ホール吹抜天井照明

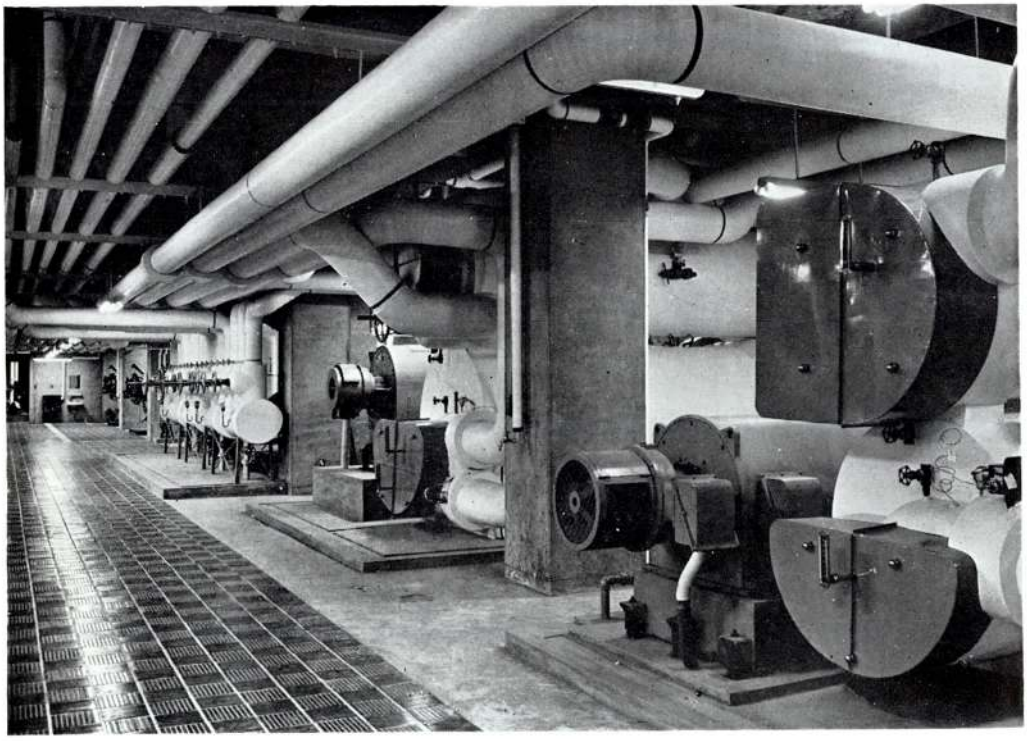


汽缶設備室

松下電器産業ＫＫ本社事務所

日本熱学工業株式会社

冷凍機およびヘッダー群





順慶町三和ビル

設計　東洋不動産KK

施工　株式会社　鴻池組



順慶町三和ビル

アルミサッシ
ステンレスサッシ
スチールサッシ／ドア
シャッター　納入　　大阪】[建]材工業株式会社

硝子工事施工　　株式会社　橋本硝子店



順慶町三和ビル

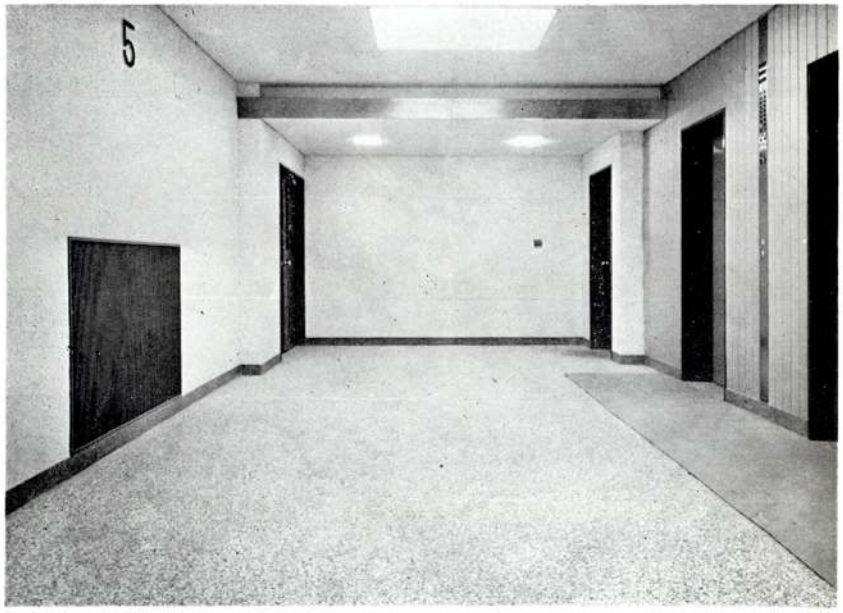


1階営業室

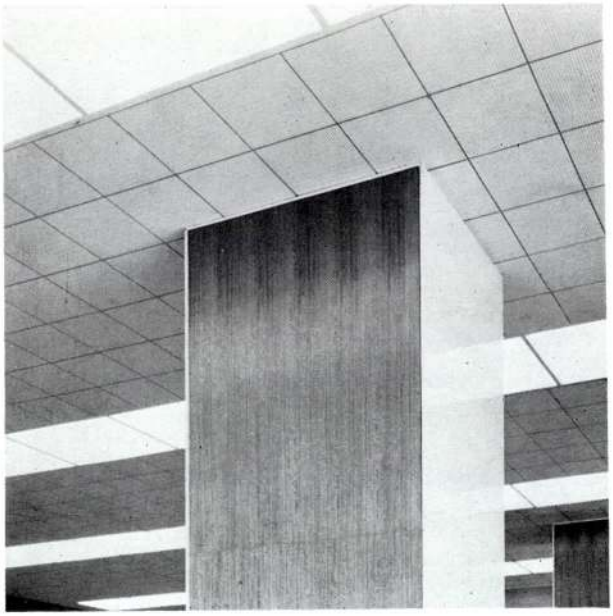
電気工事　　栗原工業株式会社

リノリューム・リノタイル使用

東洋リノリューム株式会社







全館 天井材納入・施工

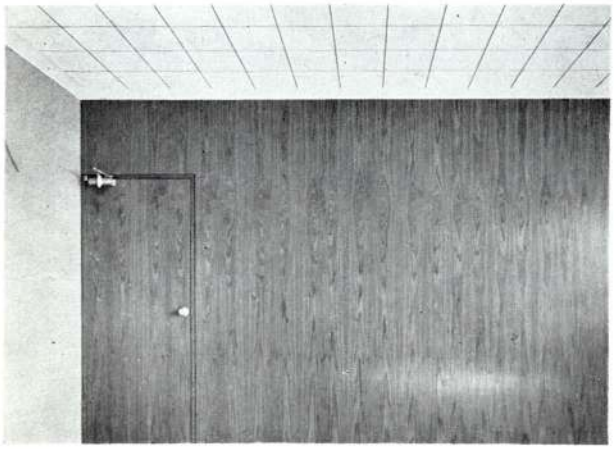
株式会社 山本建材社
TEL (54) 1861~5, 2131, 2233, 7060, 7161

順慶町三和ビル

ウオルナット板目0.9㎜単板貼フアンシイパネル
各階重役室および
応接室間仕切

レオ柾0.9㎜単板貼，フアンシイパネル
1階銀行営業室柱
マガシロ柾フアンシイパネル（一部有孔）
1階銀行営業室壁面

朝日特殊合板株式会社





順慶町三和ビル

アスファルト防水工事

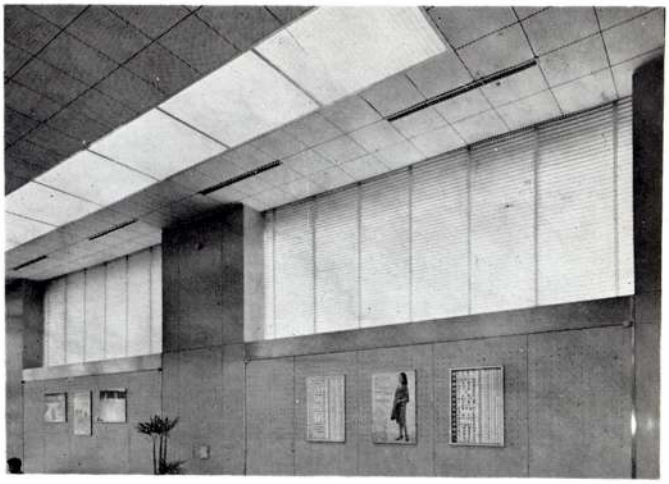
内外工業株式会社

電気時計・拡声器装置設備

川崎興業株式会社

造作工事

有限会社　サンエス工芸社



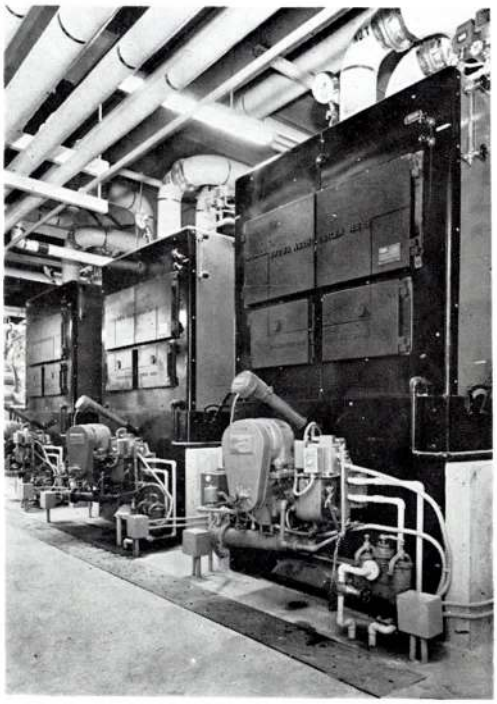
タチカワの電導式ブラインド

立川ブラインド株式会社

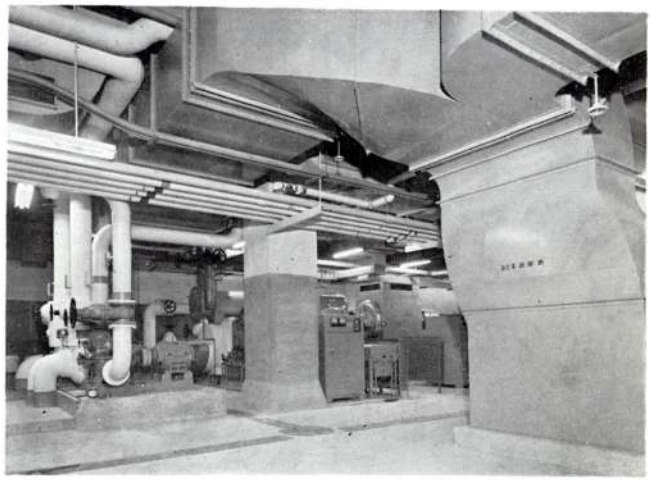
空調換気設備工事

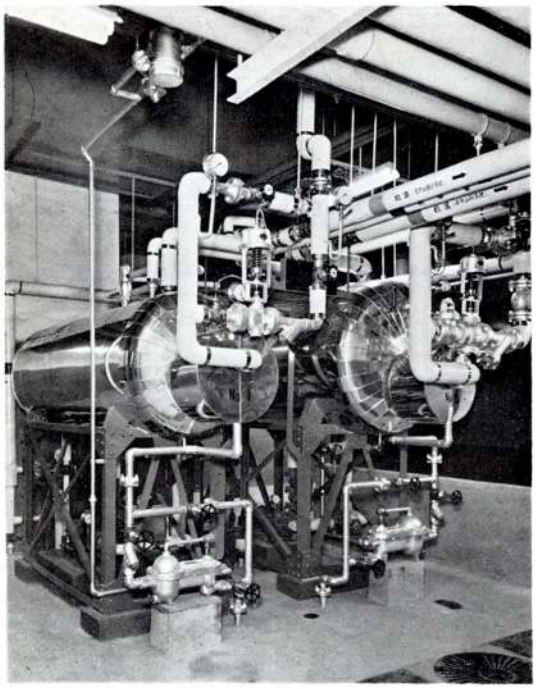
須賀工業株式会社

地下2階機械室・機関設備



地下2階機械室・空調設備

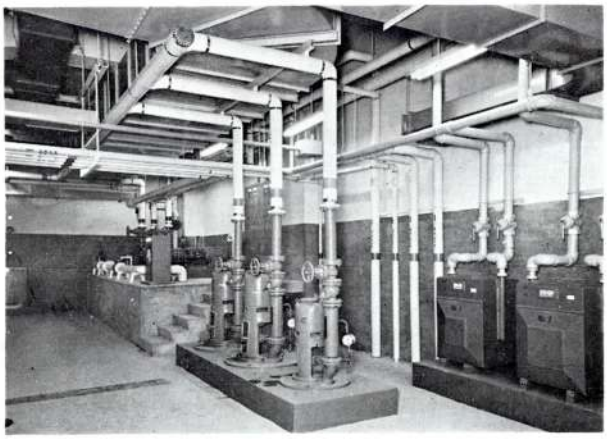




貯 湯 槽　2 缶

No. 1　750φ×2,400L

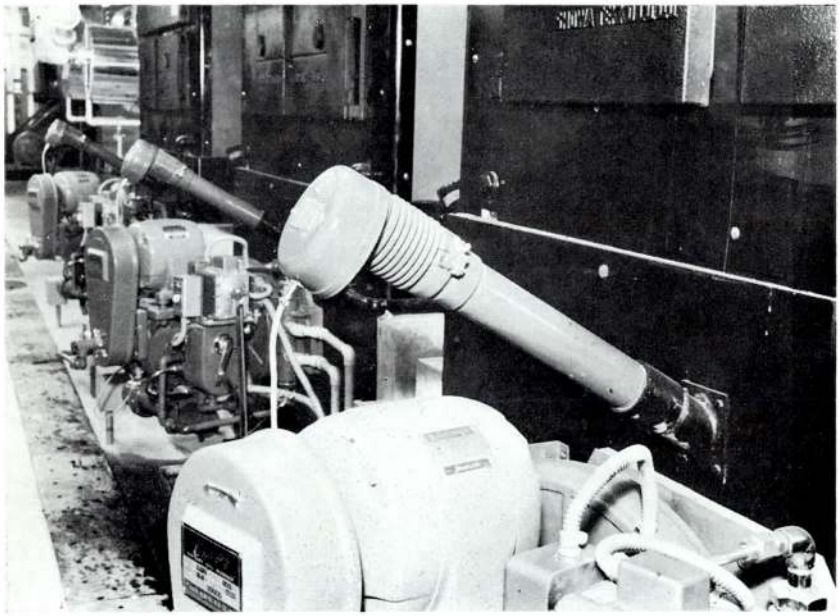
No. 2　1,000φ×2,400L



衛生工事関係機械室（ポンプ類ならびにガスメーター）

株式会社　大 阪 電 気 商 会 大 阪 暖 房 商 会

暖 房 設 備　日 共 冷 熱 機 材 株 式 会 社



サンレー全自動比例制御式
ロータリーオイルバーナ
GP No. 2 FPRG-ID 型　2台
GP No. 3 FPRG-ID 型　1台
（鋼鉄製セクショナルボイラに取付）

建築用の接着剤には

Bond **ボンド**

木工用	ボンド CH_2	ハードボード用	ボンド CV_{2000}	
テックスボード用	ボンド K	化粧板用	ボンド G_5	
セメントモルタル補強用	ボンド CZ	ビニタイルサラン用	ボンド G_{100}	その他
コンクリート石材用	ボンド E	木材構造用	ボンド KR	170種

製造元　株式会社 小西儀助商店 **ボンド工場**

見本カタログ進呈

営業所
- 大阪市東区道修町2丁目6番地　電話（23）2047，2057（代表）
- 東京都中央区日本橋本町3丁目1番地　電話（241）5524～5，（直通）
- 分室・東京都中央区日本橋本町1丁目7番地　電話（241）2191～4，2541
- 名古屋市西区西菊井町8丁目3番地　電話（53）8131～4
- 札幌市北四条東1丁目　電話（4）0976

工場　大阪・東京

三星の床材

プラスタイル"P"

（Pタイル）

株式会社 木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話 ㊹ 5408・5486

株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5
電話 ㉞ 0207～8・4836～7

三友工業株式会社大阪営業所
大阪市西区南堀江大通1の19　電話 ㊹ 6161～4

合名会社 利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20（道頓堀電停前）
電話 ㉕ 0471～2・0371 ㉗ 7604
京都営業所　京都市中京区河原町夷川下ル　電話 ㉓ 3277

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話 ㊸ 0137 ㊹ 3286

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 ⑤ 2697・2140

タテバヤシ商店
京都市下京区大宮通四条下ル　電話 ㊹ 4468

岡田建材株式会社
名古屋市西区西菊井町2ノ12
電話 ㊸ 0121・2057

株式会社 名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話 ㉔ 1329・2106・2817

日東物産株式会社
本社・名古屋中区東瓦町39　電話 ㉔ 6176～9
岐阜出張所・岐阜市竹屋町27　電話 ③ 2201・2360

青盛建材株式会社
本社・広島市鉄砲町108　電話 ② 2281～6
岡山・岡山市東田町3　電話 ② 7911・8169
福岡・福岡市万行寺前町14　電話 ③ 1225～6
② 5566～8

関西三星タイル会員

Toray
Reg. Trade Mark
東洋レーヨン株式会社

美しい
花園をお部屋に…

丈夫で弾力性に富み、ホコリがたたないので大へん衛生的です。お部屋の雰囲気にマッチしたカーペットをお選びいただくため、あらゆる色柄を豊富に準備いたしております。室内に豪華な感覚と新鮮で楽しい雰囲気を漂わす東レ・カーペットをぜひお試し下さい

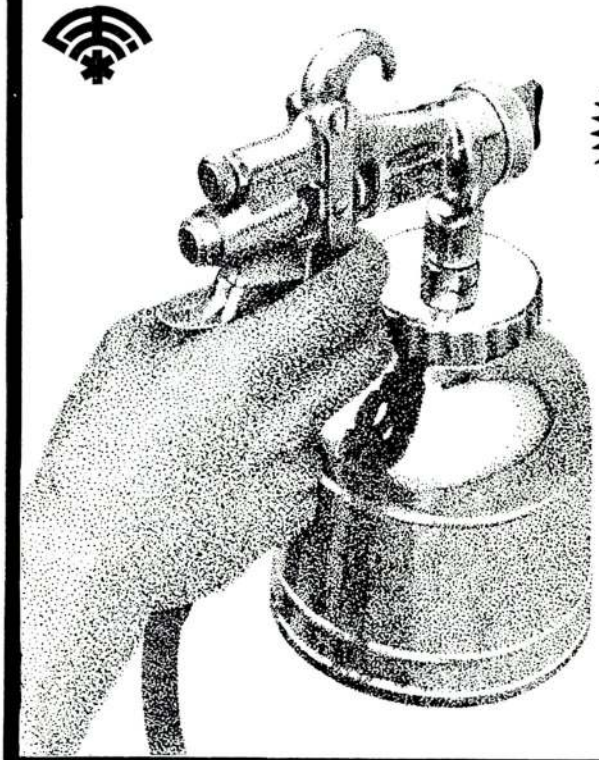
東レ
カーペット

二重織・銀鈴織・富士織・三重織・装美織・額縁三重織・三美織などがございます

東レ・カーペットのほか、東レ・フラットーヨー使用ファンシーラッグ(夏の敷物)も好評を頂いております



東レカーペット発売元—(株)辻田文平商店(大阪市住吉区南住吉町4の59)　ファンシーラッグ発売元—丸紅飯田(株)



近代建築に
もっとも
ふさわしい

ゾラコート

日・米・英等17カ国の特許に結ばれる多彩塗料

華やかな多彩模様から
落着いた和壁模様まで
西洋建築にも日本建築
にもピッタリの塗料です

関西ペイント株式会社

本社事務所　大阪市東区伏見町5丁目27番地
●カタログ色見本ご希望の方は宣伝課Z係へ

建築と社会

12

日本近代建築運動史特集

1961年・第42集・12月号・目次

作品作風

松下電気産業KK本社事務所……設計監理：日建設計工務株式会社…21
施工：株式会社竹中工務店
順慶町三和ビル……設計監理：東洋不動産株式会社…27
施工：株式会社鴻池組
建築の眼……30
担当（50音順）：北村隆夫・羽淵幹夫・藤田邦昭・松本大平

本文

1.
建築運動とは……西山　卯三…31
近代デザイン運動・雑考……向井　正也…35
2.
分離派・建築会―その正誤と自注……滝沢　真弓…39
日本インターナショナル建築会……上野伊三郎…42
創宇社建築会のこと……山口　文象…44
「日本工作文化連盟」の思い出……蔵田　周忠…46
新日本建築家集団（NAU）……図師　嘉彦…48
3.
建築研究団体連絡会（建研連）とその前後……鈴木　成文…51
民主々義を守る建築会議……田巻　博造・田中　正雄…55
新建築家集団（NAC）……松井　昭光…58
日本建築学生会議――その歴史と展望――……田中　康夫…61

近代建築調査委員会報告24

明治高楼建築……林野　全孝…65
会報（10月分）……69

12

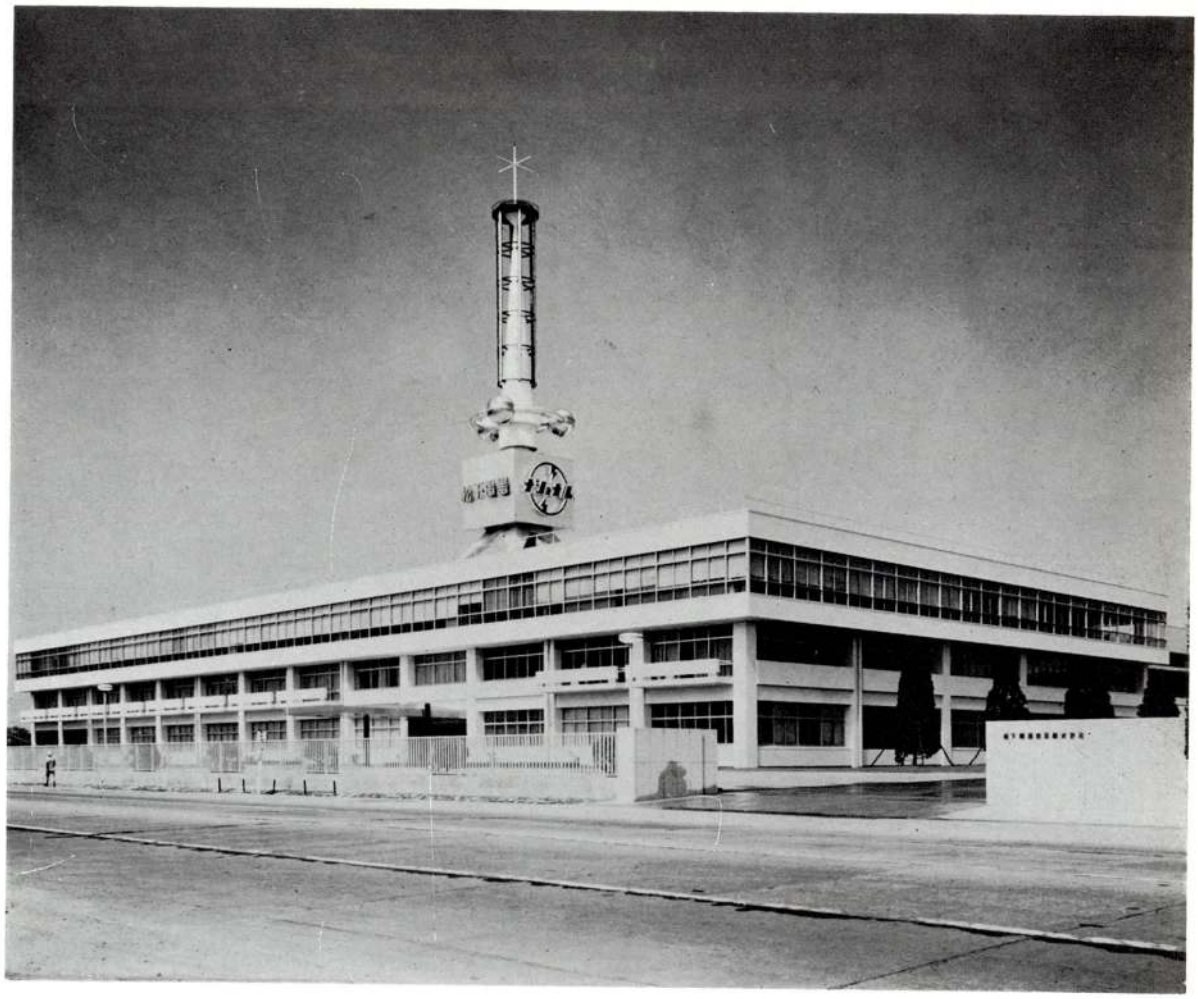
建築と社会

第42集

1961

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会
SMデザイングループ

売　価　1部150円・送料共
昭和36年12月20日印刷
昭和36年12月25日発行
編集人　松井昭光
発行所　社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話　大阪㊃9648・9649・9640番
振替口座大阪39975番
発行人　沖田誠一
印刷所　株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話㊃2091～3番
印刷者　網野栄



松下電器産業株式会社本社事務所

新本社事務所は、大阪市中心部から東へ20分あまり、国道1号線をはさんで同社の門真工場と相対している。
建物は大きく2つのブロックに分けられる。

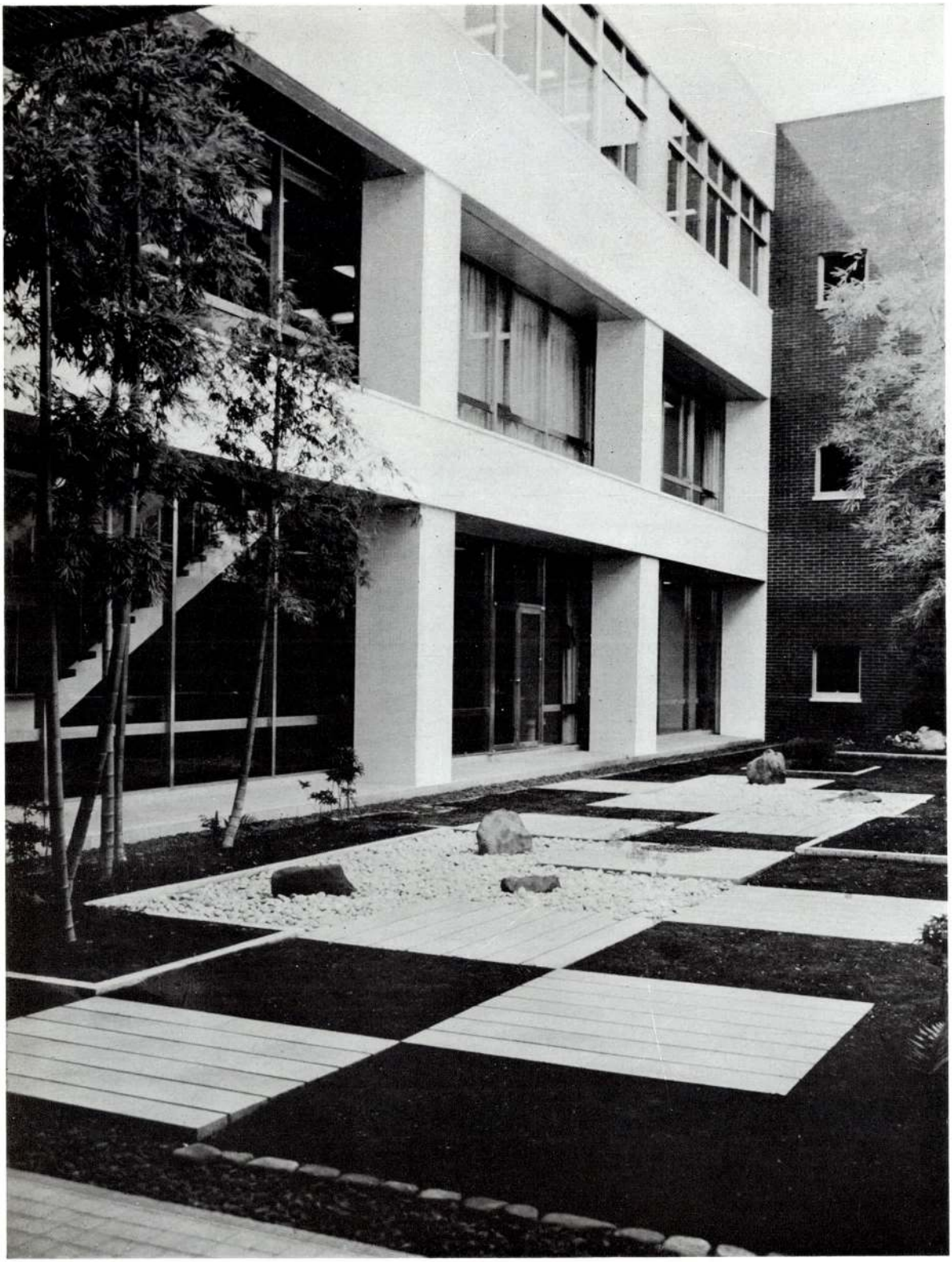
1. 本館（事務所棟）として。
   - a. いわゆる本社事務を取扱う役員室および本社事務室。
   - b. 急テンポの部課の更新、増設に備えてかなりの面積の予備室（設計当時各階一部と3階全部）
2. 第一別館として。
   - a. 多目的（会議，教育，PR，厚生）に使用される集会室。
   - b. 職員食堂，特別食堂
   - c. 冷暖房等機械室（地下）

等が配置された。

計画に際して同社から機能上のいろいろな条件の提示の他に，次のような事項がとくに要求された。

1. 比較的安い地価であるため得られた「広い敷地」を生かして，都心では建てられないような事務所であること。
2. 松下電器という企業の性格から，第三者に威圧感や強い個性をおしつけることのない建物であること。
3. 当然のことではあるが，建設費維持費を極力低くするよう配慮すること。

これらの要求を具体化するために，低層のもの，高層のもの等多種の基本型について長時日にわたり検討が行なわれ，機能的には融通性のある平面ならびに設備計画，感覚的には自由な空間を得ることにつとめた。



中　　庭

本館・第一別館
設計監理：日建設計工務KK
施　工：KK竹中工務店



玄関ホール

天井：格子天井（塩地）

壁：ベニヤクリヤラッカー（ウオールナット）

床：黒みかげ

松下電器産業株式会社本社事務所

所在地　守口市八雲下島
規　模　本館（事務所）鉄筋コンクリート造地上3階
　　建築面積　4,016m²
　　延面積　11,654m²
　第一別館（食堂，集会室）鉄筋コンクリート造地上2階地下1階
　　建築面積　1,660m²
　　延面積　4,668m²
　その他（守衛他）
　　建築面積　472m²
　　延面積　594m²
　　総建築面積　6,148m²
　　総延面積　16,916m²
工　期　1960年4月～1961年4月
仕上　梁柱　モザイクタイル40mm角
　　壁　テラカッタタイル（2丁掛）
　サッシュ　スチール片引AT型ガラスブルーペーン。

松下電器産業株式会社本社事務所



集会室
天井：アルミ板
壁　：有孔白ラワンベニヤ
　　クリヤラッカー
床　：Pタイル



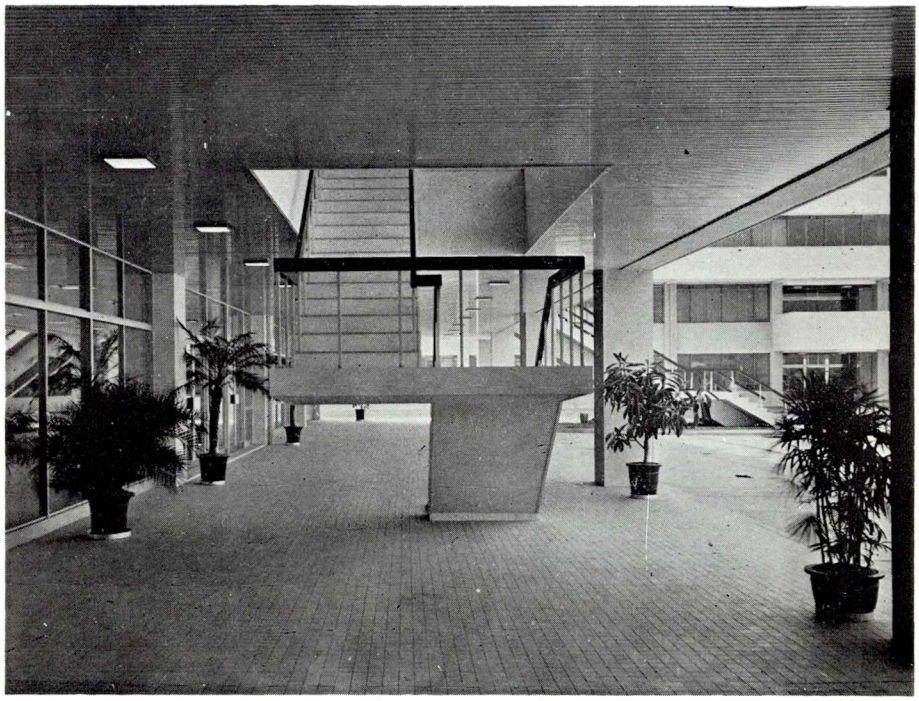
集会室前テラス
天井：鉄骨枠にアルミ波板
床　：磁器タイル

松下電器産業株式会社本社事務所



職員食堂

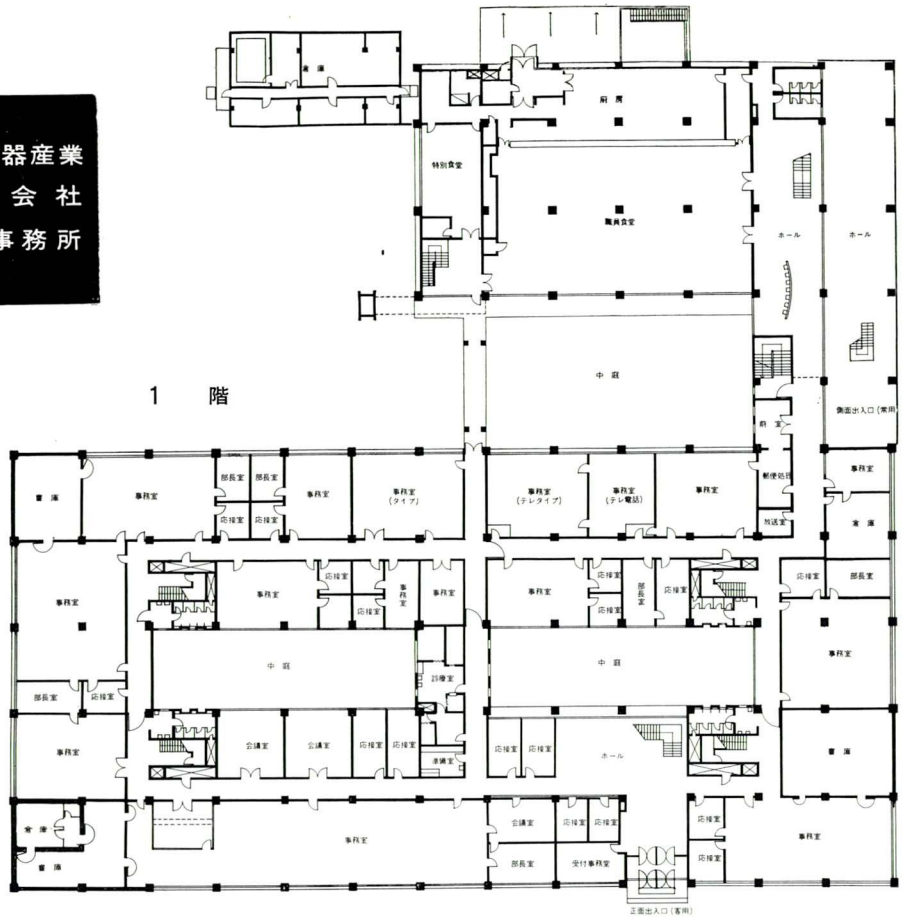
天井：白ラワンベニヤクリヤラッカー部布貼
壁柱：パネライト一部テラカッタタイル
床　：Pタイル

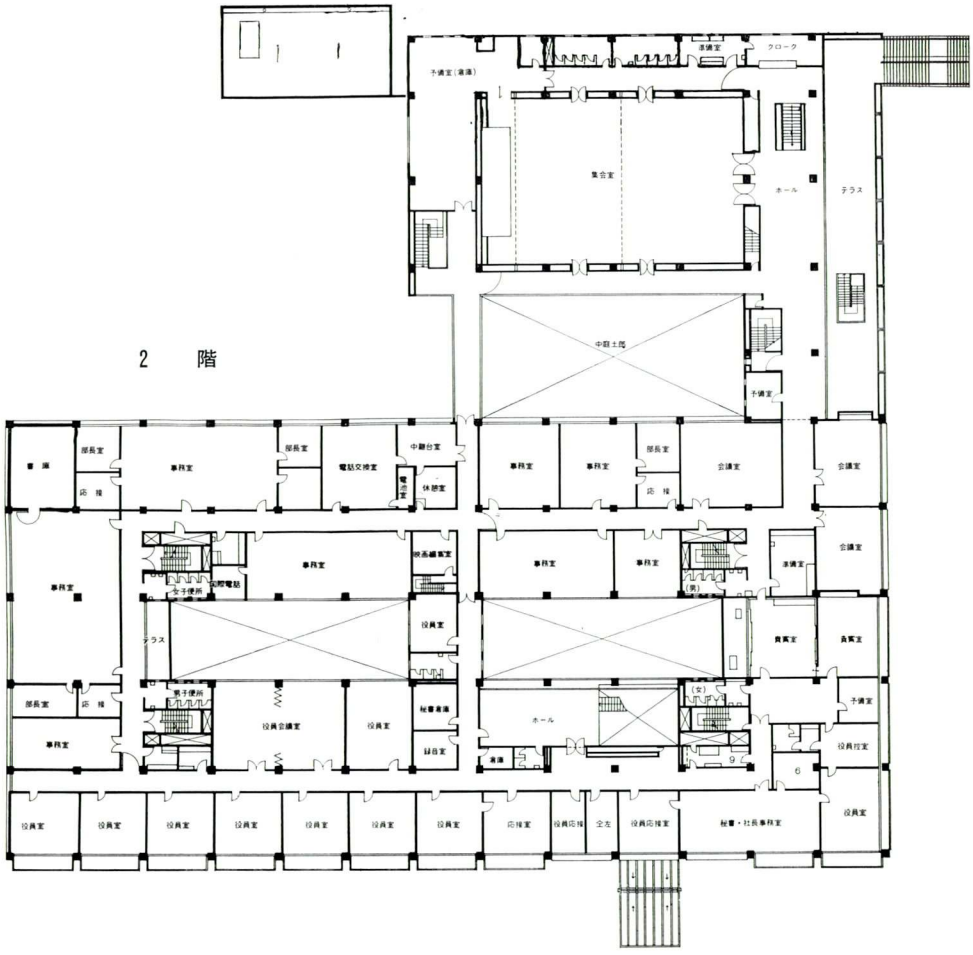


食堂前ポーチ

天　井：アルミ波板
床　：磁器タイル

松下電器産業株式会社本社事務所







設　計　東洋不動産ＫＫ

施　工　ＫＫ鴻池組

順慶町
三和ビル

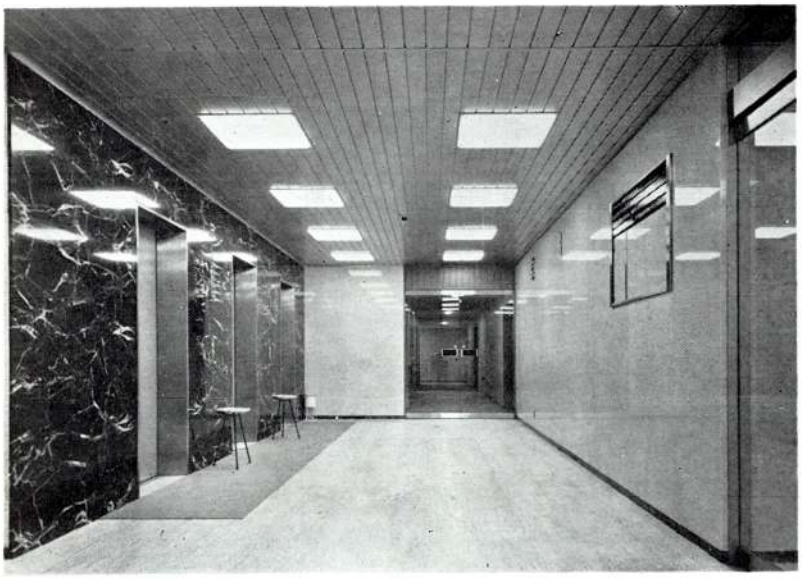
順慶町三和ビル

設計監理　東洋不動産株式会社

施　工　株式会社　鴻池組



上：銀行営業室　　下：1階エレベータホール



S銀行支店長室



N銀行支店長室



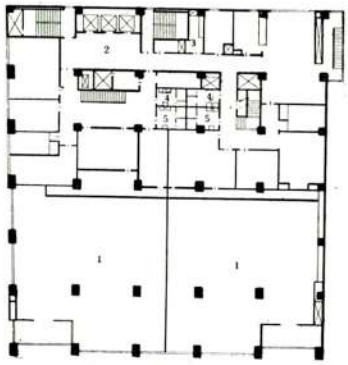
順慶町三和ビル

地下ガレージ

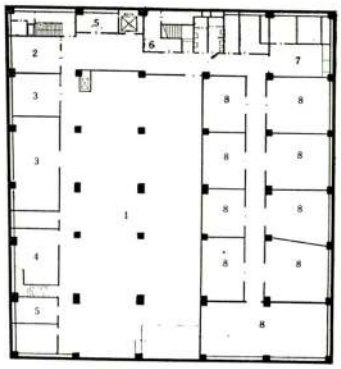


所在地　大阪市南区順慶町通り4の25
敷地面積　573坪
構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
建築面積　410.72坪
延面積　4557.99坪
外　装　外壁タイル貼り開口部アルミサッシュ1階柱型ミカゲ石本磨き
内　装　玄関ホール廻り
天井・アルミニウム
壁　・大理石
床　・テラゾー
貸事務室
天井・プラスターボード，ビニールペンキ塗仕上
壁　・プラスター塗
床　・リノリウム
貸車庫　地下1階に自動車16台収容の車庫がある。
貸倉庫　地2階に1単位8坪～25坪程度の貸倉庫の設備がある。

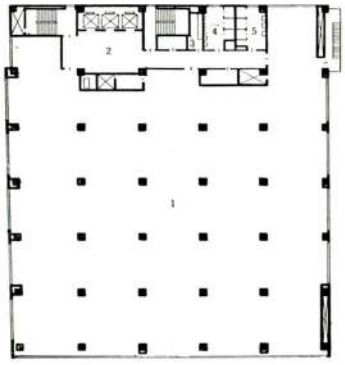
設備概要
(1)電気設備
照明設備　全館螢光灯　弱電設備
電話線外線約400回線　火災警報装置
(2)冷暖房換気設備
全館セントラルシステムに依る冷暖房設備および中面期における換気設備完備
(3)衛生給排水設備
(4)昇降機設備
客用エレベーター　15人乗　3基
(速度150m/分地1～屋階まで各階停止，ただし1基のみ地2まで)
(5)消火栓設備
屋内各階消火設備　屋外サイアミーズコネクションウオールハイドラント設備　地1階貸車庫にスプリングクラー設備



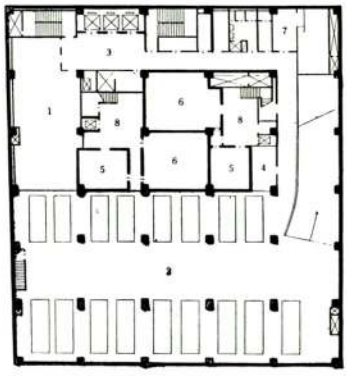
2　階　(223.04坪)
1 事務室上部吹抜　2 エレベーターホール
3 湯　沸　室　4 男子用便所
5 女子用便所



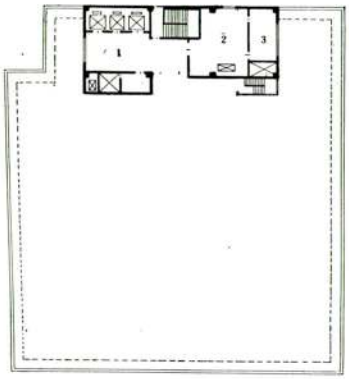
地下2階　(407.59坪)
1 機　械　室　2 工務員室
3 電　気　室　4 発電機室
5 倉　　庫　6 塵埃焼却室
7 従業員室　8 貸　倉　庫



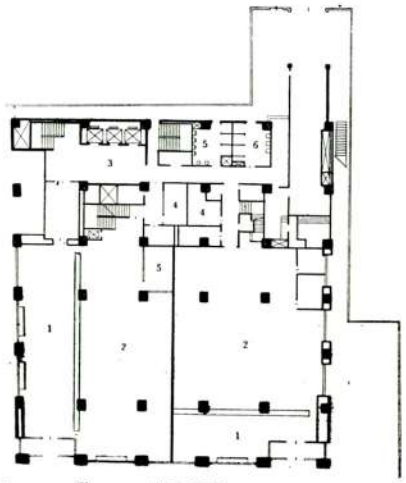
3～5階　(424.70坪)
1 貸　　室　2 エレベーターホール
3 湯　沸　室　4 男子用便所
5 女子用便所
(6～9階も隅部の階段以外はこれと同じ)



地下1階　(410.93坪)
1 貸　店　舗　2 ガレージ
3 エレベーターホール　4 運転手控室
5 倉　　庫　6 書　　庫
7 ファンルーム　8 前　　室



R 1 階　(54.01坪)
1 エレベーターホール　2 電　気　室
3 ファンルーム



1 階　(410.72坪)
1 客　　溜　2 事　務　所
3 エレベーターホール　4 附　属　室
5 男子用便所　6 女子用便所

都市改造のためのプロダクション

各地で都市を改造することが検討され，意欲的な市民のエネルギーによる共同建築も中小都市を中心に，さかんに実施されている。

一方では，また大学研究室を中心に各種の都市の未来像が提案され，建築関係誌から一般商業誌まで取上げられて世間の話題をにぎわせている。

各都市には，それぞれ特徴があり，各提案にはおのおの，主張と独自の夢がもられている。これらを結びつけるための努力が今一番必要なことであろう。それには建築の技術も法律，経済もいる，さらにもっと広い将来に対する見通しも必要である。

都市の改造を専門に実施に移すプロダクション，その実現が望まれる。市民のエネルギーを都市改造実現のためにみちびき，将来像を具現するための機関として。

(Fu)

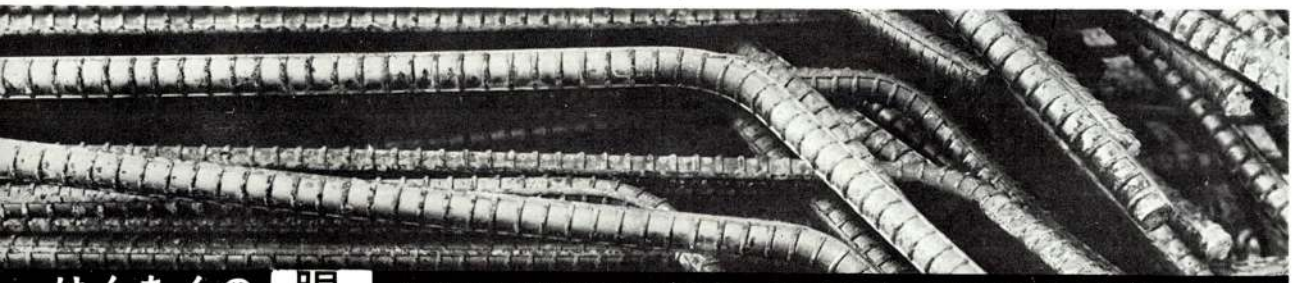
歴　史　と　自　制

「新しき夢に新しい努力」常に要求され，生まれ出る創造力，この夢を追う中に忘れることのできぬ与えられた造形に対する本質的機能と要求の理解。これを印象づけることにおいて，世とともに味わえる吾々の喜び。『歴史は物語っている』。あらゆる時代に価値あるものと考えていた形態，ひとつの過程，形としてすぎさり現代建築の基となった。そして構成的創造力も発揮できる一段階に達し，社会的にも関心を集めている今日，この塊を試金石となし，組織，制度の，広大を願い，なにか一頁を残したいものだ。

前世の努力，良心を忘れ，営利に走り，社会面をにぎわしている輩(やから)，一部に自滅し倒れ，新陳代謝を繰返しているこの現実は，対岸の火事として済ませ得ぬことだと思う。

しかし，医療制度のような方法もよいが，必然的に技術者の良心，順法精神が守れる広い輪が生まれでるよう念願して，歴史に遅れぬ心掛から育てていきたく思っている。

(HA)



けんちくの眼

担当５０音順：北村隆夫・羽渕幹夫・藤田邦昭・松本大平

(次号は新しい執筆者に担当してもらいます)

施工条件と使用条件

たたみと女房は新らしいほどよいといわれます。消費を強いられる現代では古くなれば，取り替えてしまえということになるでしょうが，時代をふんだものにはまた別な風格を具えたものもあります。

リバイバルブームということでしょうか。われわれが新築の建物に入って，わが社の製品が使われていると，嫁入りした娘を見るように心配なものです。手入法が間違っていたりすると，ちょっと説明しなければという気持になります。ましてや設計者となれば，なおさらのことでしょう。

建築材料は，一般に特別な技術を要するものは少なくなりつつありますが，施工条件が揃わないとうまくいきません。もちろん専門家の苦心によるものですからめったな事故はありません。しかし竣工後どういう状態におかれるかについては，意外に無関心な場合が多いのではないでしょうか。たとえば床材では，人がまったく通らないところ。外気温の影響を受けやすいところ。土間で地下水位が異常に高いところ。その他使用条件は千差万別と考える必要があります。

施工法は次第に単純化されていますが，材料の選択はそれに伴って複雑になっています。まことに豊かなご時世となったものです。

(MA)

孫　　引

英語でジャイアンティズム，日本語でいえば巨大主義というのだろうか。日本の建築家はマスと力で表現される造型的建築に特別の同情を持っている。それはまたコンクリート打放しの好みにも共通する。

最近しらべることがあって，「新建築」に掲載されている市庁舎の例を抜萃した。まさに30に近い新市庁舎が発表されている。そしてそれが全部といってよいほど，コンクリート打放し生地仕上の外装だった。

お次は，ルイ・カーンの旋風が日本中に吹きすさぶことさえ予言しえる。建築家のなかにはオリジナルを真に理解し，その影響を受ける人もあろう，それは当然のことであってよいのである。しかし論文にいう孫引の上に孫引を加えるようなことは建築家のなすまじきことである。コルビュジェはフランスの生んだ偉人だが，フランスの建築雑誌にコロの模作や孫引がいかに少なくないか。彼等はやはり大人である。ちなみに Architect of Univerrse とは万物の造物主の意である。

(KI)

1

日本近代建築運動史

建築運動のあり方をさぐって

建築運動とは
近代デザイン運動

建　築　運　動　と　は　・　・　・　・

西　山　卯　三

1

明治になって西洋の建築技術がとり入れられ，新設された工部大学校の造家学科から新しい時代の建築をになう人々がつぎつぎと卒業し，やがて彼等によって75年前造家学会（今の日本建築学会）が創立されたとき――

大正になって大都市の発展につれて建築が社会的，都市計画的につかまれねばならなくなって，建築と社会の結びつきを主張する人々が大阪に日本建築協会を設立したとき――

そして現在の建築家協会の前身である日本建築士会が設計監理をする建築士の資格を公的に確立しようとして活動をはじめたとき――

こういった動きはそれぞれ建築関係者がそのときの社会的な矛盾を解決しようとして生れたものであったが，普通には「建築運動」という風にはみられていない。

いわゆる「建築運動」といわれるものは，日本では1920年に旗上げした**分離派建築会**にはじまる一連の建築家層の動きのようなものをさしている。それは同じく建築界の隋性的な時流に反抗する動きではあるが，主流に対して問題をなげかける，いわばアウトサイダー的，野党的な立場にたつ運動のようである。

分離派建築会の主張や行動は，ちょうど当時，第1次世界戦争の直後，ヨーロッパでもあらわれた建築造形を観念的，主観的に追求した表現主義の運動に通ずるものであるが，それまでの様式折衷主義的な日本の建築に対して，はじめて集団的な形をとった様式改革の芸術運動であった。大戦後の時況のなかでのデモクラシーの風潮の昂揚，関東大震災，復興と建築界の活況，といった情勢のなかで分離派につづいて，いくつかのグループがそれぞれの主張をかかげて名乗りをあげた。これが日本における「建築運動」の第1の昂揚期であった。しかし，時日の経過とともに運動の内容も少しづつかわっていった。いくつかのグループのなかで，分離派におくれて1923年に結成された**創宇社**は割に長命でもっとも注目されるものの一つである。これは「学士様ならお嫁をやろか」といった言葉が通用した時代の東大の秀才たちで行なわれた分離派とちがって，より在野的な低い層の人たちで組織されたといえようが，時代の風潮をそれだけよりラディカルに反映して社会批判の立場をより明確にしていた。震災景気の終末，1927年の金融恐慌，つづいて29年からの本格的な不況の深刻化という情勢の発展につれて，下層技術者にとっては「建築理論および技術の獲得」といった目標だけでなく，自分たちの生活をまもる戦いが求められていた。この情勢の変化に対応する運動の発展は，1930年の**新興建築家連盟**，1932年の**青年建築家連盟**（ＪＡＦ，のちに**建築科学研究会**と改組），1933年の**青年建築家クラブ**という線を経過することになる。

新興建築家連盟は，ニューヨークの株式大暴落につづく世界的な大恐慌が進展するなかで，これを敏感にうけとめた若い進歩的な建築家層の古いアカデミズムや資本主義社会への批判をふまえて，建築芸術の革新から生活防衛までをふくめた運動として，それまでのさまざまな建築運動の活動家たちを統一するものであった。しかし活動家たちの条件は，つまり統一を生みだすほど単一でなかった上に，若い人々がこうした統一的な力をつくり出すことをおそれた建築界の支配層からの干渉が加わり，それは挫折した。そのあとにとりのこされたより下積みの層によってＪＡＦがつくられた。それはさらに「合理化」の嵐のなかで「技術の獲得」によってよりどころを得ようとする願いをこめて「建築科学研究会」という形にととのえられた。日本建築学会というような組織が存在するにかかわらず，このような研究を目標にかかげる団体がつくられたことは，学会がアカデミーとボスの支配する官僚的な組織に変質してしまっており，社会的，生活的不安と役にたつ技術を身につけたいとする願望のとりことなっている人々に答え得る能力を失っていたという欠陥をあらわしていたといいえよう。彼等は学会で問題にならないような新しい傾向や身辺の複雑な

問題をとりあげ，若い人々の関心にこたえた。その結果それは何らかの綱領や主張をもって社会に働きかける運動というよりも，科学的な研究から生活のことまでふくめた切実な問題を語りあう緊密なグループの活動という性格をつよめていった。だからそれは，やがて「研究」をかかげて固苦しくするよりも，もっと気楽に語りあい交流しあうものにした方がよいという意見によって，1933年に「青年建築家クラブ」に改組されていったのである。労働組合といった組織もなく，下層技術者が自らの生活を確保する何のよりどころもなかった時代に，それはそういう機能をも幾分もっていた。けれども，あらゆる人民大衆の「運動」を弾圧しようとしていた戦前の治安警察の攻撃にさらされた結果，このような最低のグループ的な集団活動さえも存立しえなくなり，34年には青年建築家クラブも消えてしまった。

この創宇社――新興建築家連盟――建科――青年建築家クラブ，という発展の系譜とは別に，建築芸術の改革運動に一石を投じた分離派のうごきにつづいて芸術革新の線にそう運動も若干進展した。ヨーロッパに進行しつつあった近代建築への様式革命に対応し，またグロピウスの呼びかけに呼応したようにもみえる「**日本インターナショナル建築会**」が，1927年に分離派の若干のメンバーに大阪在住のより在野的同世代建築家を入れて結成された。これによって豆腐を切ったようなガラス張り建築のインターナショナル様式の建築の普及が促進された。また青年建築家クラブがついえ去り，日中戦争が進行しようとするなかで，ドイツ工作文化連盟を手本にしたような**日本工作文化連盟**という団体が1936年に結成され，建築家がその指導的役割を果している。これらはすべて建築芸術運動の性格をもっていたといえようが，分離派がショッキングであったほどの生彩はなく，またヨーロッパでバウハウスの活動が注視され，国際近代建築会議（CIAM）のうごきが耳目をひいたような革新的運動という評価をなしえない。それは日本の建築芸術の明治以来の特殊な発展の性格からくるもので，結果としては従来からの建築様式に若干の新味とヴァリテーションを提供する「穏健」な運動でしかなかった。ただ戦争の進展は，ダヴインチ展がイタリアファッショの宣伝になったような経過をたどって，こうした上品な芸術運動もやがて存立しえなくしてしまったのである。

2

このような経過で戦前の「建築運動」が消滅したあとに敗戦がやって来た。戦後の民主化がはじまった。

かって「建築運動」をやった人たち，それらにはまだ若くて参加しなかったが新しい事態に何かしなければならないと考えたより若い人たち――これらの人たちが，建築学会や建築協会といった既成団体の外側に，方々でグループを結成しはじめた。創宇社，新興建築家連盟，建科などの運動に参加した人たちをふくめ，その流れをついで社会的関心のつよい，したがって日本の民主化の中での建築のあり方を一番問題にしようとした人々によってつくられた「**民主建築会**」，より若いむしろ工作文化連盟の流れをうけつぎ，大東亜共栄圏的発想から脱皮して，新しい課題にマッチする近代建築をつくり出そうとするところに力点をおいていた**日本建築文化連盟**，そのほかさまざまな団体，グループがつくられた。これらに関西で結成されたグループである**関西建築文化連盟**などを入れて，住宅営団の解散にまつわる住宅政策に関連して政府に抗議するためつくられた**建築民主団体連絡協議会**が契機となって，やがていくつかの団体は**新日本建築家集団**（NAU）に統合された。1947年のことである。

しかし一方では，朝鮮戦争に露骨なあらわれをみるアメリカ帝国主義の戦争政策に援助された反動コースの強化によって，一方では戦後の建築復興の過程が新しい建築創造の問題をこれらの建築家に仕事として与え，その現実との個別的接触からくる忙しさ，意識のズレ，部分的な妥協などを通じて，やがてNAUの運動は低調化し，尻切れトンボの形になってしまった。ただ，NAUがその運動のなかで基本的な組織としてつくったいろいろの班や分科会――大学の研究室グループ，学生や同期世代のグループ，**農村建築研究会**，女性建築家の会（**ボドコ**），**建築事務所員懇談会**，地方的・地域的グループ〔そのなかには最後までのこり，最近「**新建築家集団**」（NAC）と改称して活動している大阪支部がある〕――といったもののうちのいくつかがNAUの活動が下火になったのちまでも独自の要求にそって活発な活動をつづけてきた。これらは，それから後にあらわれたグループをもふくめて，団体の独自性を基礎にしながら連絡を緊密化するため**建築研究団体連絡協議会（建研連）**をそののちに結成した。この組織は，その活動を総括した「建築をみんなで」が出版されたころ，もっとも活発なうごきをしていた。これはより現実に即した運動の形にNAUが発展していったものだとみてもよいかもしれない。というのは，既存の大組織ではみたされない少数の人々の共通な目標をもった緊密なグループによる自主的な活動は，矛盾にみちた社会と複雑な建築界のなかになげこまれている建築技術者層の間に，つねにもり上ってくる要求であり，それらを基礎として基本的な目標による統一戦線を形づくるということが自発的につくり出されていたからである。

ところが建研連を構成する単位団体は，学会に近い研究団体，あるいはその細胞といっていいような研究グル

ープといったもの，建築という文化活動の面で組織されているものの職場のコマギレ分散のためにその結成がはばまれている技術者の生活権をまもるための労働組合といった性格をつよくもつもの，あるいは同人的なグループといったもの——いろいろの色合いと性格をもっていた。これらのグループを何か統一行動にうごかしていく条件がなかったら，その組織を強固に保持していくことはむつかしい。日本の民主化とか建築界の民主化，建築芸術の革新とか，人民の建築創造といったものは，最大公約数的にこれらのグループの共通の関心であるといいえても，それをもって行動を組みたてていくほどの具体的な内容をつねにもっているとはいいえなかった。そのため建研連を構成している単位組織のなかには若干の消長があり，今も立派に組織として活躍しているものがあるのであるが，全体としての活動はその後消極化し，いわば分解し消滅していった。その後，**5期会**といった同世代グループの結成，「**例の会**」といった社会的宣伝のための活動が行なわれているが，それらの活動はいずれも散発的であり，むしろそういった組織を構成する個人の社会的な働きかけ，個人的な活動につねに解消してしまう形をとり，一定の綱領や目標をもって建築界あるいは社会に持続的に働きかける運動は生まれてきていない。

たまたま1960年日米新安保条約締結に反対して示された人民の大きな抵抗のもり上りのなかで「**民主々義を守る建築会議**」という団体がつくられ，一つの統一行動が行なわれた。しかしこれは将来にそなえて連絡網をのこしているというものの，その場かぎりの一つのカンパニアであり，しかも建築家がやったというだけで建築のなかに問題をもちこむものではなかった。つまり建築運動とはいいえないものであった。

3

以上，日本でいわゆる建築運動といわれてきたものの歴史を順をおって私見を加えて簡単にのべてきた。では一体「建築運動」とはどういうものをさし，またどういうものであるべきなのであろうか。

「建築運動とは，建築文化の領域で行なわれる運動。

各個人が自主的に参加するが，建築家のある層の集団的な動きであり，だから歴史的必然性をもっており，

社会の発展に対しきわめて有意義な役割を果すもの。

その昔の建築学会や分離派建築会のうごきはそういうものであった」

私は24年前，この「建築と社会」誌上にわが国の建築運動をふりかえってみてこうかいたことがある。

労働運動，社会運動といわれる人との集団的なうごきは，社会のなかに内在する矛盾が原動力になっているが，それは既存の秩序がその矛盾を自己の内部で（上からの発意で）解決しえなくなったとき，つまり古い体制が社会の前進，発展への桎梏となったとき，これを克服するものとしてあらわれるいわば反体制的な，少なくとも支配体制に対する強力な批判をふくんだ動きとみてよいであろう。これが建築の面にあらわれるものを一応「建築運動」としうるだろう。

ただここでもう少し厳密に考えてみると，「建築文化の領域で」とか「建築の面にあらわれる」とかいうことの厳密な意味が問題である。

たとえば，分離派の運動や，ヨーロッパ，アメリカにおける20年代から30年代にかけての近代建築確立期にみられる芸術革新のうごきといったものは，社会の発展がもたらした建築芸術のおくれを打開し，その要求により適合したスタイルをつくり出すものとして，古いアカデミズムの強力な抵抗があったとしても，結局その目的を貫徹し，建築の部面でその成果を実現したといえるものであり，建築の領域における運動として一応首尾完結しているもの，つまり正真正銘の「建築運動」であったといえる。

しかし，建築をより合理的ならしめるためには，建築の存在を規定しているさまざまな条件にまで追求をすすめること，たとえば都市計画に対する体制を整備改善するとか，住宅政策の展開を推進するとかいった，いわば町づくりの運動，あるいは住宅運動といったものまで手をひろげなくてはなるまい。けれどもそうした問題は建築の是非善悪に根本的にかかわっている問題であるとわかったとしても，このような問題にとりくみ「建築」の領域からはみでてしまったといえそうな社会的な問題に運動をひろげていくことを「建築運動」というべきかどうか——という問題がおこってくる。従来の概念ではこのようなものは必ずしも建築運動とはいわれていない。それでいいのかどうかという問題がでてくる。というのは，このような問題を除外して，建築の内部だけで，たとえば建築芸術の革新といった建築の内側だけで定結するような問題が，現在存在すると思われないからである。

むろん現在でも建築芸術の領域に矛盾は存在する。だからこそつぎつぎと新しい何某主義が建築ジャーナリズムにとりあげられ，多少とも生産技術や社会的条件の変化に対応する新しい課題と解決が報じられる。けれどもこれらはよく静視すれば，多少とも合理的な理由を付した流行様式の交替以上の意義を見出すことは困難であるし，建築家の相当の部分をとらえておさえ難い自主的，集団的な行動へかりたてる力を現在においてもっているとは思われないのである。したがって，このような領域に，これからの建築運動の展開を求めることはまったく見当ちがいといってよいであろう。

もし将来の「建築運動」を考えるとするならば（それでは果して建築運動といいうるか否かは別として）建築のなかだけでコトがおさまりうる問題に限定して考えるのではなくて，建築家，建築技術者がすすんで社会とのふれあい，かみあいのなかで進めようとする運動を考えなくてはならないであろう。このような観点から建築界をとりまく現状をみわたすならば，そこに建築家たちがとりくむべき無数の問題が発見される。

4

私はさきに，運動という以上，それは旧い秩序ないし現存の体制に対し批判的なものであるといったが，資本主義体制が世界史的にいって人類の幸福な発展をはばむ桎梏となりつつある一般的危機以後の現在において，多くの問題はこの体制自身のもつ根本的矛盾とからみあって，体制自体の変革と切りはなしがたく問題になってきている事実をみのがすことはできない。そのつながりを意識せず，目前の解決ばかりに目をうばわれていると，改善は見当ちがいとなり，歪曲されるか，失敗するかがオチである。

池田内閣の国民大衆を犠牲にした高度成長政策は現在重大なつまづきをみせている。その結果，ここ数年間のさかんな設備投資を背景につくり出された建設ブームにも暗影がなげかけられている。それはそれ自身として一つの問題を建築界に提起しているが，一方，日本資本主義の死活的な要求といえる技術革新，設備の近代化は日本の都市の開発，再開発を要求し，国土の構造の大巾な変革・変貌，生活環境の無残な荒廃・悪化を推進させ，国民にとって重大な問題をつくり出しつつある。ここ2，3年来，日本の都市の将来像に対して建築家たちからさまざまな提案が一つのブーム，あるいは運動とうけとられるようなまでの形で行なわれている。これはそういう事態の進行に対する一部建築家の素朴な反応とみてよい。またこの過程で，たとえば「**メタボリズム**」といった若干のグループの結成さえみられる。しかし，それらはその規模においても深さにおいても「運動」といわれるような性格を獲得していない。

けれども一方，こうした情勢に関連して，現実に進行している海岸埋立てや都市再開発，大住宅団地や工場団地の建設など多くの問題を含みながら強行されている事業にたずさわっている建築技術者や職員のなかで，その実務の体験のなかから日本の都市，国民の住みかをもっといいものにつくりかえていく力をどのように結集していったらよいかという問題が，切実なものとして提起されはじめている。現実の社会がもつ矛盾，それがもたらす歪曲された都市の発展，日本人民にもたらす不幸――を排除し解決したいというこの要求は，いかにして現実の力にかえていけるであろうか。これは一つの例にすぎないが，明らかに新しい運動をおしすすめる基盤がそこに存在することを示しているといえよう。

だがこうした矛盾の解決は，そのゆきづまりを生み出している現在の日本の政治・経済体制をどうかえていくかという根本的問題に結びつかねば，その道をさがすことはできえまい。建築創作や設計の問題，建築技術の枠内だけで，あるいは建築家たちが政府や権力者たちと交渉をもつといったことだけで解決しうる問題ではない。むしろそうしたワクをのりこえ，この矛盾を生み出している根元にたちむかいうる本当の力の所在をつかみ，これと結合していくという，それこそ建築のワクをのりこえた大運動の路線を設定しなければ問題は解決されず，本当の建築の改善もあり得ないであろう。

私はさる10月，静岡で行なわれた第5回自治研全国集会に参加した。自治研というのは，地方自治体労働者が自らの職場に足をおいて自治体行政の本質と問題点を労働者の立場からつかみ，明日からの行動に生かそうとする研究集会である。ここで地方自治行政の第一線を担当している自治体労働者が，地域開発や土建行政の実務のなかで，政府の政策と住民の利益との間にはさまって苦しんでいるなまなましい体験を論理的にその根元から整理し，地方自治を住民の手にとりもどすにはどうしたらよいかを研究している姿をみた。日々現実にその仕事をしている労働者大衆が，階級として目ざめ前進することあらゆる部面で働いている人々が，自らの苦しみと体制の矛盾とをたんに体験としてでなく論理的に意識し，解決の方向を理解するようになれば，事態を真に合理的に解決する道は自らひらけてくる。このことはきわめて明白である。

建築家の願っているすばらしい建築でみたされた住みよい日本，美しく快適な都市や村をつくるということも，その道はこのような労働者階級の力と知恵の高まりに結びついてこそ，実現の基盤を獲得しうる。

華やかな建築の成果だけを夢みる前に，現実に苦しんでいる労働者大衆と深く結びつき，そこから前進の力と意欲をくみあげつくりあげていくこと，これが社会を建築する建築家にとって，もっとも必要なことのように思える。これからの建築運動というものがもしありとすれば，それは従来の「建築運動」の範疇にはいらないかもしれないが，このような住みよい社会を自らの手でつくり出していく力を組織していくことにつながりをもったさまざまなスタイルの建築家の運動をさすことになるのではなかろうか――と私は思うのである。

（筆者　工博・京都大学工学部教授）

近代デザイン運動・雑考

向井正也

戦後まもなくのことである。京都市が太平洋戦争の戦禍からまぬがれたことについて，アメリカに感謝の意を表わすための モニュメント を京都駅前に建 てようという，いまから考えるとまったく前代未聞のアホらしいアイデアが京都市関係の一部の人達の間で本気で問題にせられ，ほとんど実行の一歩手前まできたことがある。この モニュメント 名づけて「非戦災感謝記念塔」といった。まことに珍にして妙な名もあったものである。これがもし本当に建てられていたとしたら，いまですら建築的にあれほど情けない京都駅頭付近は，その低劣さの上に一層輪をかけていたことだったろうとうたた寒心にたえない。

これを未然に阻止し得たのは，ひとえにＮＡＵＫ（新日本建築家集団京都支部）の一つの功績であったとみずから考えている。私たちは京都大学を中心に，著名な知識文化人達の署名運動を行なった。建築学教室の諸先生方を手はじめに，時の総長滝川さんのところにまでもおしかけたものである。文学部長であった原随園先生もシブシブ署名してくれたが，その後で「あまり森田君を困らせないようにしたまえ」と，一本クギをさされたのをいまでも覚えている――。

われわれのやったこの行為を，おそらく大ていの人は建築の運動などとはとらないかもしれない。だが，建築運動――さらにひろくデザインの運動はそんな狭いものではあり得ない。一見建築を離 れたように 見えな がらも，近代主義によくある文化至上主義的な甘い宙に浮いた「運動」などよりも，もっと建築的にプラスするような運動があり得るはずである。そしてそれ等は時としては，社会運動やさらには政治運動の一環に連なることがあったとしても一向に差支えないのではないか。そういう行き方をキラッタことこそ，むしろ近代建築の運動全般における大きな欠陥だったとすらいえよう。

1

建築をはじめ一般にデザインの運動は新しいよいデザインを世のなかにおしひろめ，それについて無知な大衆を啓蒙して行こうとする社会へのハタラキカケである。だから，もとよりこれは立派な社会運動だ。しかしこのことは，ただたんによいものを創りさえすればいいというようなものではない。これとともに，そうした運動の邪魔になるものをとり除き，自らの発展の道をきりひらいて行く必要がある。つまりデザイン運動には積極的な芸術創造の面に加えて，消極的ともいえる開拓あるいは斗争（キャンペーン）という社会的な面がつねにつきまとうことを知らねばならない。

この２面が適当によじりあわされてはじめてデザイン運動は順調に発展するのである。われわれはまずヨーロッパの近代デザイン運動においては，そのエネルギーの半ば以上が，この消極的な斗争の面にそそがれてきたことをみのがしてはならない。第２次大戦後になってようやく「近代建築は勝利をおさめた」などという声がきかれるようになったが，それは実に長い苦しいたたかいの結果だった。

このことはたとえば，フランスの建築的保守派であるエコール・ド・ボザール系の建築の勢力が本国やアメリカにおいて近年にいたるまでどれほど根づよいものであり，それがどれ ほど近代建築の 発展を阻害 してき たかが，近代建築がヨーロッパにおいて一応発展の基礎を確立したと考えられる1927年，国際連盟宮の競技設計でのル・コルビュジェの落選やアメリカでの前世紀末でのシカゴ派の挫折のためにその建築の近代化がボザール系の建築の支配下に約半世紀もねむらせられたという事実をみてもよくわかる。

2

ところが幸か不幸か日本にはそうしたデザイン運動にからまる新旧両派の対立，抗争などという血なまぐさい「斗争」の歴史がまったくない。これはわが国の明治維新以来の半封建的な世のなかの仕くみに関連する問題であり，この戦後にこそ NAU をはじめとする民主々義的に自ら思惟し，行動するタイプの建築運動が生れたとはいえ，少なくとも戦前の日本の建築運動は，彼等がもっぱらそこからあふりを受けたヨーロッパの建築運動とは本質的に異った社会的基盤の上に展開されただけに，いろいろの意味でまったくイタにつかぬものでしかなかった。それは西山博士がかって指摘した ように「日本で

は，ヨーロッパ的な意味における文化が確立されなかった」からであるともいえるし，また「建築は日本では技術，図案，技巧の問題として，時にあるいは芸術と考えられたことがあっても，これをつくるべき建築家が貴族やブルジョアたちのタイコモチ的職人であること以上に，西欧的なイミにおける芸術家ではなかった」（建築史ノート）ためだといえる。ここで博士のいうヨーロッパ的なイミでの「文化」とは，とりもなおさずヨーロッパの市民社会のブルジョア文化のことで，わが国では未だにそうした文化的伝統が根をおろすところまでにいたっていないのである。その理由は，要するに後進資本主義国としてのわが国の社会的構造の特殊性にあるといわざるを得ない。

3

建築デザインの運動はひとつの社会運動として，あたかも政党運動に似通ったところがある。反対党をおさえて政治の実権をにぎるたたかいに備えて，各政党はその党員の思想や行動の上で結束を固める必要がある。そのために，まず特定のイズムによって理論的に武装する必要があるとともに，政治的理念の宣言やら宣伝を行ない綱領や規約などによって党員に規制を強いたり，戦斗用スローガンを打ち出したりする。こうしたやり方は，そっくりそのまま初期のいわゆる「20年代」の近代デザイン運動の場合にあてはまる。近代建築家や芸術家はそのデザイン運動に際して社会的モラルに発する一つのイズムの下に特定の合理主義的規範（Canon）によって自からを律するとともに，国際建築の宣言を行なったり，機能主義という戦斗的スローガン（Battle Cry）をふりかざして，比較的固い結束の下に首尾一貫した「運動」を展開したという風に，これを「党派性」によってとらえることができよう。そしてこうした運動の根底を貫いて当時のヨーロッパの社会，経済的背景からきた必然的な理由があったことはいうまでもない。

ところがわが国の建築運動にはそうしたきびしい必然性の根拠が何等見当らないのである。第一様式の斗争を行なうべき当面の相手がみつからない。だから自からの陣営を上のようにイズムによって理論的に武装したりなどする必要もないし，元来そうした問題意識が内側からわき上ってくる道理もないことは理の当然といえるだろう。

こうして，わが国のデザイン運動におけるイズムは内側から生れたものではなく外側から与えられたものであったといえる。神代雄一郎氏はかってこのことを「××主義的建築思潮の横すべり」と評したことがあるが，これは上述の現象の簡単にして要を得たいいあらわし方だと思う（建築学研究 155）。その点日本のデザイン運動はアメリカの場合とよく似通っている。もちろん，アメリカは日本のように決して後進資本主義国ではないのだが，何といっても近代デザイン運動の上での立ちおくれはいかんともしかたがないわけで，その後進性のあらわれもまた上記「××主義的建築思潮の横すべり」として論じうるものといえるだろう。

4

芸術運動にしろ，社会運動にしろ，その他もろもろの「運動」（Movement，Bewegung）とよばれる行動のはじまりは，少なくともルネッサンス以来のいわゆる近代市民社会の成立以来のことだろう。なにしろ運動とは，何らかの新しい主義主張をもって世のなかにハタラキカケル以上，何よりも思想や言論，結社などの自由がみとめられることが前提となるからである。そこでわれわれは，ごく一般的にいって近代デザイン運動の発展の方向は近代民主々義の人間解放と併行した何らかのヒューマニズムの理想の線にそうものであると考えてよかろう。だからヨーロッパに源を発するデザイン運動が，日本やアメリカその他の「後進諸国」のそれと本質的に異るところは，それがたんなる造形運動ではなかったという事実である。それは何よりも何らかの「思潮」をともなってイデオロギー的に発生し，発展したといえるが，この「思潮」とは社会思潮と芸術思潮との不可分の融合の上になる一種の倫理的なニオイをもった少なくとも前向きの姿勢のものだった。いまではアメリカで涼しい顔でおさまっているが，ミース・ファン・デル・ローエだってかってはドイツ革命の斗士カール・リープクネヒトとローザ・ルクセンブルグの記念碑の設計者としての経歴が



建築界待望の新扉錠……！
ゴール ユニロック
GOAL
日本住宅公団・公営住宅御指定
株式會社 谷山製作所
シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠
大阪市東淀川区三津屋北通四丁目 電話(37)3117・5871・7724

示すだけの社会的活動を経てきているのである。のちにナチスの圧迫によってバウハウスを追われたハンネス・マイヤーに代ってその校長に就任できたミースですら，なおかつ然りであるから他はもちろんおして知るべしである。バウハウスのイデオロギー的基礎は，社会民主々義者ヴァルター・グロピウスによって与えられたものだといえるが，このような社会進歩の概念に連なる運動が発展することは，ファシズムをはじめとする一連の前近代的イデオロギーにとっては大きな障碍だったことはいうまでもない。それ故，今日アメリカで「国際主義」の名でよばれる近代デザインの運動が，とにもかくにもヨーロッパで発展し得たのは，その時期がたんに第一次大戦後の好況期（資本主義の相対的安定期）に当っていたためばかりでなく，この戦争によって崩壊したドイツ帝国に代って登場したドイツ共和国の民主々義的な政治体制がそのよき温床となったことを忘れてはならない。

5

こうして近代デザイン運動はその発育の上でやがて社会的，経済的および政治的に最悪の気候条件の下においこまれたヨーロッパから，よりよき風土的条件の下にあった第二の温床たるアメリカに移植せられることになる。

上述のようにアメリカは，かっては近代民主々義的思潮に根ざしたデザイン運動たるシカゴ派の活動があったが，それが一たん挫折し建築が中断されたのち，新たにヨーロッパから輸入せられたデザイン運動を発展させる段になると，これはもう日本などと同列の上記「後進国」に共通の原理に支配されることになる。それは要するに，「運動」の思潮も形式もすべてが「横すべり」することである。これはいいかえると思潮の上では，そのデザイン理論のなかから社会性を骨ヌキにするとともに，一方形式の上では造形的イズムによる規制の枠が全面的に外されることをイミする。ここに「デザインの自由度」の増大の傾向が形式の自由選択や放恣の造形を生む結果となることはいうまでもない。こうして戦後のアメリカを舞台とするデザイン運動の大きな特長は，それが初期のヨーロッパにおいて見られたあの上記「党派性」の喪失にある。そこには一貫したイデーもなければ，建築家の創造的行為を規制すべき綱領もない。建築家は作家として造形芸術家なみに自由奔放にイメージを求めてもよく，すき勝手なスローガンを各自めいめい打ち出してもよろしいというわけで，まさに一人一党，ワンマン・アヴァンギャルドの劇居乱立である。こうしていまや世界資本主義の指導国家たるアメリカでもことデザイン運動の上では手のほどこしようもない無節操と無秩序の状況下にあるといえる。この今日のデザイン運動を全体として推進する母体が仮りに近代主義とよぶものならば，またそれがイデオロギー的に近代資本主義の造形文化をになうものならば，もはやこのイズムはまったく四分五裂の内部的崩壊にヒンしているともみられぬことはない。それでもなおひとつの運動だといえるものだろうか。ナチス・ドイツのような前近代的政治体制と異なり，高度に発展した近代民主々義国としてのアメリカにおけるデザイン運動には，もはや「挫折」はあり得ない。あることを予想されるものはただその「終末」のみである。そしてその終末も案外近いのではあるまいか。いな，もはやすでにそれは終末にきてしまっているのではなかろうか。

現にその歴史自体がひとつの近代デザイン運動の歴史そのものだとさえいえたCIAM（国際近代建築家会議）はすでに1956年8月，ユーゴースラビアのドウブロフニクにおける第10回会議を最後として，ついにその幕を閉じた。ある人はこれを近代運動の第1期がおわり，運動がその初期以来の開拓者の手からつぎの世代へとバトンがうつされたと考えたりしているが，これもまた近代デザイン運動の終末をイミするひとつの現象なのであろうか。いずれにしても私は近代デザイン運動は今度の大戦を境にして大きく質的に転化したものと考えてよいと思っている。

6

昨年の東京での世界デザイン会議（Wo De Co）に参加して，私は以上のことをとくに強く実感した。それは近代デザイン運動のあり方を第2次大戦の前後に分けてその質的変化に注目することからみちびきだした次のよ

特許 防火シャッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖・オートマチック
ステンレス・アルミニウム・シャッター
株式会社小俣製作所大阪支店
大阪市北区若松町30 電話(34) 9004・9016・4825
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

うな諸現象についてであった。このことは要するに初期（ヨーロッパ型）の運動に対して，後期（アメリカ型）のものは，

1） イズムの上で首尾一貫性を欠き，同一の陣営の内部にさまざまに異ったイズムや流派を多く生みだしていること。（離反，逸脱現象の確認）

2） 初期の運動がどちらかといえば倫理性を含んだ「社会的タイプ」のものであったのに対して，後期のそれは「造形的タイプ」とでもいうべき性質の強いものであること。（形式主義的傾向の激化）

3） 初期の理想主義的傾向に対する後期の現実主義的傾向（商業主義の影響の激化）

4） 初期のデザイン運動の原理の残存（ヨーロッパ圏）と後期のそれ（アメリカ圏）との対立。

1）は4）と密接に関連するものであり，2）は4）とのからみあいにおいて十分理解していただけることと思う。この会議において，ヨーロッパとくにバウハウス系の人々の発言は，初期のバウハウスの合理主義の線に沿って問題を論理的に展開する上ですぐれているのが注目された。彼等に共通した考え方は，アメリカなどのようにデザインというものを決してたんなる産業の発展と結びつけて，商業主義的にとりあつかったりなどせずに，これをより一段高いところから人類の発展とむすびつけ，デザイナーの仕事を前者のようにたんなる「職業」として眺めるのではなく，むしろひとつの「天職」として眺めるといった風に，その考え方で根本的な差異を見せていた。これをもってしてもバウハウスの理想は決してアメリカで実ったとはいい難く，やはり戦後の細々とではあるが，もとのやせ地であるヨーロッパで再び芽生え生長しつつあることを目の前に見せつけられる思いであった。もっとも Wo De Co では全般的にデザインにおける商業主義の影響を否定的に見る空気がかなり強いものだったが，このことはそれが本質的にもつあらゆる理想主義的なデザイン運動への敵としての性格の故だったと思うが，一方，後期的特性である2）の形式主義への傾斜性についてはほとんど問題が出なかったことは，それが明かに商業主義と密接にからみあっていることから見て不思議に思われた。こうしたことはもはや論ずるまでもなく現象的にますますわれわれの周辺におけるあらゆるデザイン造形の上にあらわれていることだが，このことを近代デザイン運動の開拓者のバトンをうけた第2の世代に属する建築家のチャンピオンの一人と目される Wo De Co にも出席したアメリカのルイ・カーンがコトバの上で表明していることは注目に値するものといえる。彼は「形態は機能を誘発する」とのべたのだが，これを

Form follows function (L. Sullivan)

Form and function is one (F.L. Wright)

Form invokes function (L. Kahn)

という風にならべるならば，アメリカにおける近代建築の発展の形式主義への発展過程が上から年代を追って，建築家への反映として掌を示すようにはっきりとよみとれるように思う。

ごく一般的にいって，この会議の全体の雰囲気にはアメリカを中心とする20世紀後半以後のデザイン運動が，その商業主義の激化等によりますます強く大衆との間の Visual Communication を求める傾向を示すといった，いわば視覚性の優位への方向にもっぱら形式創造の面の方に力コブを入れる偏りのアラワレがみとめられ，それだけに社会性だの，生活的現実性あるいは人間性や倫理性などといったものが一そう影の薄いものとなり，何となくうすらさむい気持がせられたなかで，こうした空気に反発するバウハウス系の人々の言葉が印象深くのこっている。そのなかでもとくに忘れ難いものは，のちに大阪にもきたユップ・エルンストがO・ワグナーばりにラテン語で示したコトバ：“Noblesse-Oblique”（創造的な能力には義務がともなう）であった。

デザイン運動は決して造形芸術の運動だけにおわるべきき性質のものではない。それを思うにつけても，わが国のデザイン運動の歴史の上では珍らしく，この国の社会的現実の上に足をおろしたものだったNAUの運動が，これまたわが国のデザイン運動の歴史には珍らしく「挫折の運動」に見舞われたことは，まったく惜しまれてならない。

（筆者　京都美術大学助教授）

エマルジョン壁塗料
日本ペイント
ビニレックス
5000級 スーパー
外部用・内部用
ビニール壁塗料
ビニレックス 5000
大阪・東京・名古屋
福岡・広島・金沢
新潟・仙台・札幌

2

日本近代建築運動史

建築運動の過去をかえりみて

分離派建築会
日本インターナショナル建築会
創宇社建築会
日本工作文化連盟
新日本建築家集団NAU

分　離　派　建　築　会

―― その正誤と自註 ――

滝　沢　真　弓

歴史と事実　本稿は「分離派建築会」――以下「分離派」と略称――についての体系的な叙述ではない。すでに過去の歴史として語られたり書かれたりしたもののなかに，往々にして誤り伝えられたところがある：そういうことを考慮しながらつづった随想にすぎないのである。

いままで「分離派」自身の立場から回想録のようなものを発表したことはない。が，強いて求めれば，かって本誌編集部の主催で試みた森田慶一と私の対談(1)くらいのものかと思う。これはいうまでもなく，われわれ自らの責任において語ったものである。また，それより数年前に福井大学教授の吉田宏彦君が書いて森田と私が一応目通しをたもの(2)もある。これもわれわれの責任を負うべきものだ。また三年ほど前のことだが，大阪市大の旧同僚の知らせてくれたところによれば，ある体系的な歴史書(3)のなかに「分離派」のことが記録されているとのことである。私は怠慢でまだ詳細検分にいたらぬが，権威あるものとして信をおくに足るかと推察する。

しかし，私の手許にある資料のなかには些少ながら誤伝も散見される。歴史が「ふみ」(史)であり，historyがstory である限り，これもまたやむないことかといまさらながら観念したしだいである。

そのころの建築界　明治初年に日本に伝えられた西洋の建築学は様式選択（エクレクテイシズム）時代のものであった。建築学の講座に建築史が含まれたのは，そういう様式選択が具体的な設計の必須条件だったからである原則として建築史と建築設計とは一体であった。そしてわれわれの学生時代においても，日本の建築界は依然としてこの原則の上に立っていた。当時仄聞したところだが，早大だったか美校だったかの製図の課題に「ビザンチン・スタイルを以って図書館を設計せよ」というのが出たそうだ。東大においてもわれわれは「ゴシック式にて門衛小屋を」なんて課題にでっくわした。ところがわれわれクラスの者はゴシックをうまくこなすことができなかった。あまり不成績だからというので，やり直しの意味で再度同じ課題をだされた。が，やっぱり不成績。今度は先生の方がカブトを脱いで「いまの若い者の感覚はもう歴史的様式に合わなくなったのか」と慨嘆された。

当時の建築界の権威者から見れば，われわれには設計能力なし，と断定されたかも知れない。ところが，これに対して，当時は鉄骨や鉄筋コンクリートの構造学が勃興した時代だ。そしてこの構造派からみれば，建築はたんなる力学的構成物にすぎぬもので，そこに芸術などという考えを持ち込むのは邪道だ，というわけであった。

しからば一般のインテリ級の人の理解はどうであったか。そういうことの一端に触れた経験が私には少なくとも一回あった。たしか「分離派」の第2回展のときだったと記憶する。宣伝効果を期待して，私は当時新進作家として名をあげつつあった芥川竜之介氏を訪ね，ぜひわれわれの展覧会をみて所見を何かに書いてもらいたい，と懇請した。そのときの話のなかで私が「石やレンガにはその材料に特有の構造たるアーチと，それによって生まれる美しさがある。新しい構材たる鉄骨やコンクリートには，またそれに特有な美がなければならぬ。だから構造が鉄骨で，外観が石造のようにみせかけたもの，たとえば，オフィスビルディングをルネッサスン式で，なんてのはナンセンスだ」というような意味のことを話した。すると，さすが博学の芥川氏も，そういうことは始めて聞いたというので「大変面白い話だね，すまぬがもう一度よく説明してくれ給え」といわれた。いまどきの若い人たちには想像もつかぬことかも知れない。

われわれが旗挙げしたとき「過去の建築圏より分離

（1）「建築と社会」昭和33年（1958）3月号「分離派建築会前後―恩師・先輩・そして友達」

（2）「建築文化」昭和27年（1952）11～12月号，吉田氏「分離派の旗挙げの項」

（3）「図説・日本文化史大系」大正・昭和篇



'26　分離派建築会展覧会　分離派の展覧会はまず1920年（大正9）2月東京大学の学生集所で開かれたが，この写真は1924年（大正13）銀座松屋で開かれた第4回の会場のありさまである。ここに立っている会員4名は，右から森田慶一（もりたけいいち）・堀口捨己（ほりぐちすてみ）・滝沢真弓・石本喜久治（いしもときくじ）である。左手の白い模型は滝沢の音楽堂で，右手会員のうしろの壁にある図は抽物面で計画された塔の設計図で，山田守（やまだまもる）によるものである。

図説・日本文化史大系より転載

典の編集者中には建築部門を担当したと覚しい早稲田大学の有力者もいるのに不思議である。またわれわれの同窓の後輩で，かってはわれわれに対して厳しい批判もしたことのあるほどの人の書いたもの[5]だが，草創会員のなかに大内秀一郎君が含まれている。ちなみに記せば，蔵田君は後から参加したが，やがて脱退して「形而工房」という団体を主宰した。大内君も後の入会者だ。同君は早大を中退して東大に転じた人で，われわれよりは一期後輩だが年令ではかなり上のようだった。後年大阪市に入って間もなく亡くなった。

このほかに山口文象君や川喜田錬七郎君などが客員という格で熱心に協力してくれた。が山口君はやがて「創宇社」を主宰し，川喜田君も独自な道に向った。

し」と宣言したのは，こういう時代的背景においてだったのである。

会の名称　われわれは建築史を伊東忠太先生から学んだ。講義の終りに近いころの話が「セセッション」（ただし，先生はドイツ語風に必ず「ゼツェシォン」と発音された）そのセセッションから現代建築が始まったということを話された。日本における建築史の開拓者ともいうべきこの老先生は事実を淡々として述べられた，が若いわれわれはそこから大きな感銘を得た。現代建築は創作であらねばならぬと。当時は第一次大戦の最終段階でセセッション発祥後四半世紀，まだそれ以上の新しい運動は起っていなかった。われわれの「分離派」という名称のヒントはここにあった。

ところで「分離派」という名称については実は当初から問題があった。がその前後の事情については，さきに紹介した森田と私の対談や吉田宏彦君の書かれたものにも述べてあるからここにはくり返さない。

会　員　草創時代の会員は，大正9年東大の建築学科卒業生中の下記6人であった——

石本喜久治，堀口捨己，山田守，矢田茂，森田慶一，滝沢真弓。

ところが往々にして誤り伝えられている。たとえばある美術事典[4]には上記6人のなかの矢田茂が落ちて蔵田周忠君が入っている。蔵田君は早稲田系の出身でこの事

石本は大阪にいた関係で「日本インターナショナル建築会」にも参加したが，後年「分離派」との合同を提案した。これに対して東京側は「分離派」の純粋を守るという建前から強く反対した。このことが因をなして石本はわれわれと袖を分つにいたった。表面上は一応そういうことになっているが，内実は依然として会員だ，と私は了解している。だから終始一貫して変らない真実の会員は結局草創以来の6人だ，ということになる——ただし不幸にして矢田が数年前に亡くなったから，今では5人である。

経　過　われわれ6人は大正9年早春，卒業直前に東大構内の学生集会所で習作展なるものを催した。「分離派」と銘うっての第1回展はその年の夏，卒業直後であった。費用は各自それぞれ工面して持ちよった。同時に作品集を岩波書店から出版したが，それも実費精算にしてもらった。若干の借金もあったが，各自年末のボーナスから支弁した。

その後，展覧会と作品集の出版とを毎年一回行なうことにした。が追々に会員も各自家庭をもつようになり，こういう仕事は経済的に大きな負担となってきた。しかも二度ばかり東京から関西へ押しかけて，石本や森田の家に泊り込んで展覧会や講演会をやった。われながら勇ましいことだった。関西での催しは事業家肌の石本が万事企画してくれた。

（4）白揚社版「現代美術事典」の「分離派建築会」の項。

（5）「芸術新潮」昭和29年8月号，谷口吉郎氏「吉田五十八」中の一節。

そうこうしているうちに「分離派」も追々と建築界の名物みたようなものになった。そして洪洋社の「建築新潮」の特定月号が「分離派」の作品のために提供してもらえるようになった。

これによってわれわれの経済的負担は著しく軽減した。こうしてわれわれの仕事はほぼ10年近くは継続したように思う。あるいは10年には少々足らなかったか。また中途に関東の大震災があって毎年1回という方針も一時中絶したことがあったかも知れない。そういう点について私の記憶は確かでない。

ところで，本誌34年1月号（竹腰健造特集）所載の島田勝次君の労作「近代建築史年表」によれば「分離派」は「日本最初の建築運動」として生まれたが，1930年に「解散」したことになっている。これに対して，今回本誌編集部から回付された「日本近代建築運動史特集案」なるものによれば「分離派」の終結は1928年となっている。両者それぞれ何らかの資料によられたものであろうが，それはわれわれの方で教示を得たいところである。とにかく両者の間に2年の開きがある。

ちなみに記せば，昭和5年（1930）に「新興建築家連盟」の結成の会合に少なくとも私は「主事」という名で会の事務や連絡をやっていたためか「分離派」の代表として招請をうけたし，川喜田君はウクライナ劇場の競技に入選したときはまだ「分離派」の客員だった。またわれわれ自ら「解散」を宣言した覚えはないのである。前にもいったように，私自身にも確たる記憶がないのであるが，悪くいうと「分離派」はうやむやのうちに活動を停止してしまった，ということになるかも知れない。そして私は昭和6年春に都落ちして神戸に移ったという筋書きである。

なお「分離派」が果して日本最初の建築運動であったかどうかということにも問題はあろう。というのは，われわれの発会より少し前に「建築非芸術論」で有名な先輩野田俊彦氏らの一党が「青年建築会」の名の下に，当時競技設計の国会議事堂の建築に対して抗議的な作品展を1回催したことがあるからだ。われわれとしてはこういう先達には敬意を表したい。ただし，野田氏個人とわれわれとの間には深刻な問題も介在するが，ここにはさしひかえる。

上述のように「分離派」の終末にははなはだあいまいなところがあるが，その活動年数はいかに少なく見積っても，その後結成された諸他の団体にくらべてもっとも長かった。それは「分離派」が草創以来会員の深い友情によって支えられていたからである。

世評今昔　草創の「分離派」に対して専門家として，しかも「建築雑誌」上に始めて批評を書いてくれた人はわれわれの大先輩，かつ当時における最高権威者の一人だった岡田信一郎氏であった。その批評によればわれわれの企ては要するに「稚気愛すべき」ものであった。まさにその通りであったにちがいない。

その後ともわれわれに対もる斯界の風当りははなはだ強かった。風当りが強ければ強いほどわれわれの意気は盛んになった。それは稚気というよりも狂気というべきであったかも知れない。

ところがやがて「バウハウス」だの「インターナショナル」だの「コルビュジェ」などが流行し出すと，分離派などもう古いといわれるようになった。われわれとてコルビュジェに感心しないわけではなかった。いや，むしろ大いに感心した。が，その感心した点は，彼がその独特の理論を作品の上に実現してゆくということであった。そしてわれわれもかくありたいと願ったしだいだ。

われわれより数期後のクラスが東大建築学科の第1回生以来の卒業設計図を一堂に集めて展覧会をやったことがある。いまさらながら自分の「稚気」をみせつけられたわけで大いに恐縮した。恐縮というよりもはなはだ迷惑に思った。そこで，招待日の茶話会の席でテーブルスピーチを請われるままに，私は立って抗議をした「主催者のご苦労は多とするが，ヤリ玉にあげられるわれわれははなはだ迷惑だ。他人の古い作品を並べてとやかくいうことなどむしろ失礼ではないか。他人を評するよりも，自分らの作品をならべて堂々と世に問うたらどうか」と。すると主催者側から答弁があって「自分らも近き将来そういう企てを実行するつもりだ」とのことだった。やがて彼らも卒業したが，その約束の企てを実現したということを聞かなかった。あまりに理性的であってはわれわれのような気狂いじみたことはできるはずがない。

大事なことを書き落した。卒業設計の話で思い出したからつけ加えよう。われわれはすでに卒業設計の構想もほぼまとまり，図面の方もかなり進行しつつあったころ，構造学者として有名な某教授の急襲に会って大変なお叱りを蒙った。とくに堀口は造船学科から途方もない大版の紙を仕入れてきてところ狭しとやっていたので一番ヒドく叱られた。あとで聞いた話だが，その教授は「ああいう連中を卒業させるわけにはゆかぬ」と強く主張されたそうだ。——これが「分離派」として受けた最初の，かつ最深刻の批判だったわけだが，実は教授の急襲の陰にはN先輩の奇怪な触手が動いていたということをあとで知った——しかし，弁護してくれる教授もあった由で，われわれは一人の落伍もなく，どうやら無事卒業させてもらった。われわれは，あらためてお礼を申し上げねばならぬしだいだ。が，主張された教授も弁護してくれた教授も，もはやこの世にはおられないのである。

（筆者　工博）

日本インターナショナル建築会

上野伊三郎

この会は1927年7月に宣言，綱領を発表して発足した。これより前1925年末に独・墺留学から帰朝した筆者は，翌年に建築事務所兼自宅を京都に新築し，外部内部ともに新しい考え方により，内部デザインはウイーナーウエルクステッテ意匠部員ウエノ・リチが担当した。

伊藤正文君（当時大阪市役所技師，天王寺美術館を設計中）等がみにきたのが動機となって，この家で青年建築家がときどき会合することとなって，時事問題や建築論を闘かわしている間に，新建築運動を起こそうということになった。

当時の日本は様式選択主義の時代であり，外形的に輸入されたセセッションはその理論的真意が理解されないままであったが，それでも異端視されていた。学校の製図の課題には様式が指定され，設計図に捺す角印には「様式」欄があった。

表現派の影響とみられる「分離派」も当時の逓信省建築に気を吐いたが，他省分野に拡大するにいたらなかった。伝統派としてはアメリカから入ってきた「スパニッシュ・ミッション」が相当に普及し，相当の勢力を示していた。

こうしたなかで，現代は「鉄とセメントと硝子の時代」であることを確信していた者たちが，機能に忠実な建築をするためには，啓蒙運動によって社会の理解を得ることが必要と認めて，団体を結成することとなったのである。

宣言，綱領は数回の会合によって決定したのであるが，第一次大戦後の世界国家（世界連邦）の理想を多分に織り込んだものであり，交通機関の発達がいままで孤立して発達した地方的文化の交流をさかんにして，各国民族の生活様式も相互に影響して共通化するであろうし，建築の形態の要素のひとつであるところの建築材料は，理化学と工学技術が世界共通である限り，共通した部分がほとんどであること等から，構造的に相似のものとなるべきであるとの信条に立ち，国土に根ざすローカリティは承認するという立場から「日本インターナショナル建築会」と名づけることとなった。「インターナショナル」というかわりに「国際」としてはという意見もあったが「国際」というと狭義には各国の様式を混合したもののように受け取られる懸念があるので否定された。こうした用心をしたにもかかわらずこの懸念通りの誤解が相当あったらしく，恩師・故伊東忠太先生さえもが誤解しておられた事実がある。

無から有は生じないのであるから建築様式史を学ばねばならないというのが建築史の第1時間目の説明であった。ギリシア様式からローマ様式えというのが常識であり，様式選択主義のグルグル回りの結果，合理主義的建築が生まれるとは予想できないときであった。だからこそ「インターナショナル」といっても各国様式の混合と理解されるのが当然のような時代でもあった。この名称は始めにこうした誤解を生み，のちには会を解散に追いやる誤解を生んだのである。

会員は最初京都，大阪在住の者のみであった。他に外国の同一傾向の建築家に呼びかけの手紙をだしたところ，それぞれ激励の返事がきて，外国会員たることを承諾した。ブルーノ・タウト教授が来日にいたった機運はこのときに結ばれたのであった。ただ1人返事を寄越さなかったのがル・コルビュジェであった。

和蘭のアウト氏は宣言，綱領に対する意見を詳しく書いてくれたほどの熱心さだった。

会は発足とともに活発な運動を開始した。ちょうど大阪の江村氏が造形美術の雑誌を発行するについて編輯を引き受けてほしいという申し入れがあったので，さっそく引き受け「デザイン」という雑誌を発行して会員の作品や論文を発表した。これは1927年から1929年に会が直接に機関紙「インターナショナル建築」を発行するまで続いた。

「デザイン」と縁を切った動機は，発行者が経済上の理由で伝統的作品の紹介を始めたためであった。

このころ東京の建築家で会に加入する人ができた。

会の活動は年に1—2回の公募展を開くようになって若手建築家の応募で盛況をきわめるにいたり，大阪三越の展示場を満たした。作品写真，模型，設計図，試作家具等が主であった。

会員の作品も追々増加して伊太利のトリエナーレにも出品するにいたった。

外国会員の来日する人もでて，ノイトラ，タウトの来日に際しては大朝，大毎の講堂で講演会を開き多大の反

響があった。ノイトラは当時まだ今日ほど有名ではなかったが，このときの日本は彼に大きな影響を与えたことは彼の作品に読みとられ，アメリカ現代建築にも多くの影響をおよぼしている。

インターナショナル建築運動は，セセッションとともに日本の古建築の簡素，洗練の影響を多分に受けて発生したものであり，鉄骨，鉄筋コンクリート構造は日本の木造と同様の架構構造である点で骨格形態を一にするところから，形態は相似たものとなるのが当然で，アーチ構造の西洋建築から移行するためには日本の古建築はもっともよい参考になる。デコレーション・ファッサードの排撃はすでにセセッションに始まっており，旧套を脱し切れなかった当時ですらオット・ワグナーのウィーン郵便貯金局内部のごときは，ほとんど完全にデコレーションのない構造と機能の美を発揮している。材料の虚偽を排斥する思想はすでにウイリアム・モリスにあって，これは民芸的な素朴さに還る形をとっている。モリスの運動が大陸に入ってホフマンにおよぶと日本建築の影響が現われてくるのであるが，彼は日本の建築を熟知していたのである。これがオランダの新建築家の作品になると明瞭に現われて，床の間の直き写しに近いものが見られる。

欧州の新建築はブロック的な形から（煉瓦造として当然）線的な形に移行するが，これは鉄骨，鉄筋構造の普及に関係し，ますます日本的な形態をとることとなる。

ミースの「鉄筋コンクリートと硝子による事務所建築計画」1922年，コルビュジェの「大きな貸住宅計画」1923年，マルセル・ブロイアーの「小住宅用多層家屋の模型」1924，等となって顕われてくる。

こうした傾向は日本人にとっては，建築新材料による新しい日本建築の行き方を示唆されたもので，日本の若い建築家の一部を刺激したのも当然である。

当時の赤坂離宮の大理石結露事件は，気候と建築材料の関係に強い反省を求め，建築材料にはとくに注意するとともに過度のゼイタクは反社会的であると考えさせられた。もっとも大理石結露の問題は空気調節のできる現在解決している。

日本の気候に対しては屋根庇を必要とすることは昔からの建物が教えているところであるが，雨の少ない国の建築には無いものが多いため，当時の新しい建築には庇をつけないものが多かったが，日本インターナショナル建築会ではこれに注意するものが多かった。

こうした種々の研究，講演，展覧会等で精進，社会へのP.R.も活発にしたので，各新聞社は応援を惜まなかったが，実施された建築は他の旧様式のものにくらべて少なかった。旧様式を固執している人達は老大家が多く，社会的地位が高いため若い者のいうことはなかなか聞かれなかった。会が東京帝室博物館の設計競技に対して不応募声明を発したのもこうした風潮によったものであった。

また会の運動の影響のおよんだ範囲は大都市内に限られていたようで，タウトを案内して「奥の細道」旅行にでたとき，一歩都会を離れると，そこにはわれわれが日々力み返って研究，P.R.していたもののカケラ一つ見ることはできなかった。深い反省をせずにはいられなかった。

こうした間に機関誌への会員の投稿がボツボツ減少し始めた。時は満州事変前夜であった。私は設計事務所を自営していたので知らなかったが，官公庁に勤めている会員たちはときどき「特高」の訪問を役所で受け，ときに呼びだしを受け，役所上司に対しまことに工合いの悪い立場に立たされているためと解った。これは当時の警官は「インターナショナル」という名称は共産党に限るように教育せられていたからだそうであるが，こうした誤解にもせよ，実際上生活に脅威を感ずるようでは当分休会もやむを得ないということになって，原稿不足のまま途切れ途切れになっていた会誌の発行もついに中止となった。

終戦後，焼野原の大阪に焼け残った料亭で会再建の相談会を開いたが，当時は民主々義も左寄りであったが，また反動で右寄りの時代がくるときを考えると「見合わせ」た方が無難だろうという説がでて，ここに再起の気運はくじかれてしまった。

インターナショナル建築運動は，末期にはその精神を理解しない軽薄なただの「新様式」としての模倣者も現われて，いまこそその精神をもっとP.R.すべきときと思われるころ休会したのであるが，一般人の目に形態的なじみを与えただけの効はあったと思う。第2次大戦後はアメリカの新しい傾向に乗って，もはや旧様式のものは建たなくなったので，一応われわれの目指した役目は果たしたものと思えるが，現在の日本の建築は西洋の「新古典主義」の邦訳のように，機能を研究しないで木造古建築のデテールをイデーとして使う傾向が強くなって，またしてもデコレーション建築に走ろうとしている。これは外国会員ブルーノ・タウトの日本建築紹介が世界的となり，外国建築家が日本古建築を賞讃する声に甘やかされているものと思われ，いまこそ反省の時機と思われるのである。

（追　記）

当時の会員の作品は次のごとき外国雑誌に紹介されている。

MODERNE BAUFORMEN（独）　1930 Feb.
〃 Oct.

L'ARCHITECTURE D'AUJOURD' HUI（仏）
1935 AVRIL

DIE FORM（瑞西）　1931 Sep.

国内雑誌には会機関誌以外には敬遠された。

（筆者　京都美術大学教授）

創宇社建築会のこと

山口文象

昭和12年6月の「建築と社会」特集「日本の建築運動史」――そこに創宇社建築会の行動は詳しく書かれている。

あれから24年経つ。

第2回展までに同人の一人が脱け，第8回展ののち同人広木亀吉が死んだ。戦後には古川末雄も死んだが，そのほかは全部元気で（白髪はふえながら）それぞれ建築の仕事に働いている。同人たちはいまでもよく会うが別に懐かしがって昔話をするというわけではなく，また，だれかに「いや若気のいたりで」などと頭をかくようなことはしない。

日本の建築家の生活，その思想，その仕事については，その特集にも西山卯三と高橋寿男が，ち密に分析しきわめて適切な判断を行なっている。事情はいまだって変りはあるまい。戦後の民主々義のかけ声のなかで，その時代のことを調べたものもあるようだが，それはやはりお人好しの感じがする。私たちはどこまでも働く人種だから，そういう研究に対しては自分の体験や記憶から，ときに「それは違うよ」といってやりたい。

だが分離派の人たちについては「あなた方の念願は達せられましたね」といえるような気がする。ただいまの人は油彩でパースペクチブは描けないだろうけれど。

分離派建築会の眼の前に立ちこめた深い霧はうっすらと消えてゆき，いまのデザイナーは彼らと同じT定規片手にみんなの前に現われてきた，という気がする。

創宇社が分離派建築会の末弟のように生まれてきたことは否定できない。大へん違うところは，人種といってもよいくらい，階層的に違うことだ。仲間には分離派の子供としての仕事をしているものはいくらもある。しかし，そのことだけで点をつけるわけにはゆかない。

創宇社ができたとき，関東大震災の直後だったが逓信省の経理課営繕係の技手，雇員で数え年22才の山口文象が総師だった。

創宇社建築会の宣言文の起草者梅田穣は「荘大，雄渾な建築群をもって宇宙をおおいつくさんとする意気」を表現したかったんだというようなことをいっているが，これは分離派そのままの考え方だ。むしろ稚い，働く者の感覚はそのうちの一章にでてくる「古代人の純情なる創造の心を熱愛し」に表わされているんじゃなかろうか。この言葉の与えるイメージは創宇社同人たちのその後の生活に結びつくように思う。高等官食堂や高等官便所というものがあり，そこには今日の郵政，電々の建築の礎石をきづく中心の人と考えられる分離派建築社々員山田守とか建築家吉田鉄郎とかいう人たちが，まだ若い眉をつけながら通ったわけである。技手や雇員が彼らと肩をならべ得るのは毎月1回廊下の壁面での絵画の展示会のときだけだったといえる。上下懸隔のはなはだしい時代，ここに育つ青年建築家の建築の仕事えの憧れと熱情，それとこの言葉は結びつきそうだ。見方をかえると分離派の人たちのみつめていた「建築」とか「創造」は創宇社の仲間たちがみつめる「建築」や「創造」とはずい分違ったものであろうことがわかる。

創宇社第8回展ののちの時期だと思うが，銀座並木通りの木造オフィスの3階の一室を借りみながエスペラントを習ったことがあった。ハリコフ劇場懸賞競技の設計を共同でやったのも氏のところだった。建築思想に唯物弁証法をもち込んだのも，ただ一人研究を続けていた原沢東吾を除いては同人たちであったろう。建築の設計に意匠以前の問題を提起したのは第8回展だった。このとき同じ壁面に飾られたフランスから帰ったばかりの前川国男，また谷口吉郎といった人たちの図面と比較されたならば，その違いが発見できるだろう。巧拙のことは別として，それはみな自分で考えたことだった。素朴であっても「創造」に向いている気がする。だから雑誌「建築新潮」に分離派森田慶一の「イミタチオ・コルブシェリ」という論文がでたとき驚いた記憶がある。

建築をつくるについてなくてならぬその思想というものが気になってきて，建築運動のかたちや活動方法が変ってくることも自然だ。青年建築家連盟（JAF），建築科学研究会，青年建築家クラブなどの活動は創宇社建築会の仕事と切り離して考えることはできない。人の関係でも同じだ。13人の同人は10倍以上の友だちになった。友だちのふえるに伴っていわれなき弾圧がこれを破壊した。

創宇社建築会に参加した会員　(ABC順)

道	明 栄 二	(電通営繕課)
海老原	一 郎	(事務所自営)
平 松	義 彦	(〃)
広 瀬	初 夫	(竹中工務店設計部)
今 泉	善 一	(不燃建築研究所)
河 裾	逸 美	(山田守事務所)
野 口	巌	(佐藤工務店)
小 川	光 三	(清水建設)
竹 村	新太郎	(高丘製作所営繕課)
渡 苅	雄	(吉崎建設)
梅 田	穣	(不燃建築研究所)
山 口	文 象	(RIA建築総合研究所)
山 口	栄 一	(〃)

物故会員

広 木 亀 吉	専徒栄記
古 川 末 雄	

戦前には若い建築家が集って座談会を開くだけで私服がやってきた。いまはそういうことはないだろう。私服はテレビのコマーシャルのように，多くの建築家のはらなかに入ってしまっているのかも知れない。

(筆者　RIA建築総合研究所長)

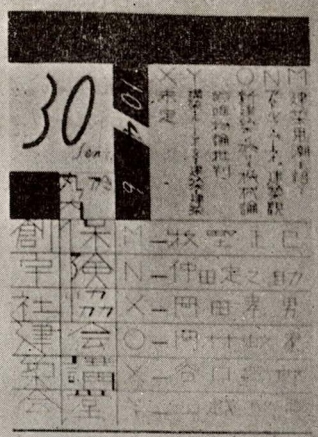


圖 13・創宇社建築會主催・新建築思潮講演會ポスター竹村新太郎作

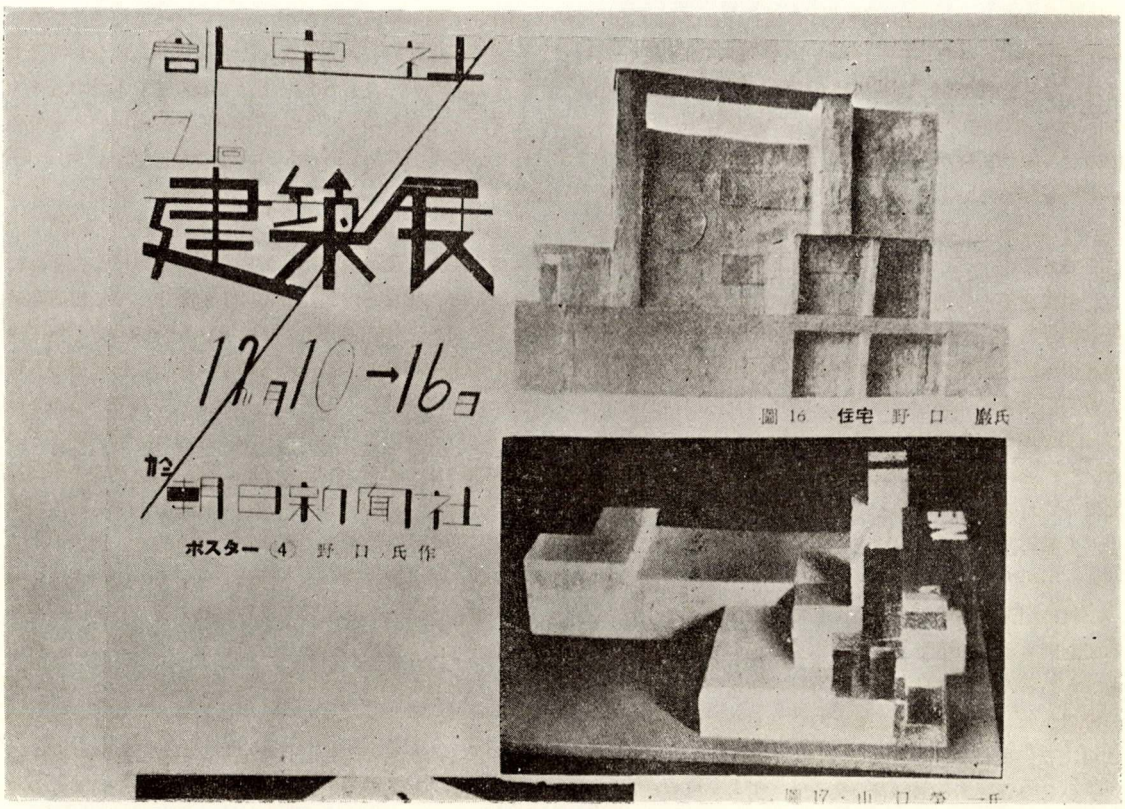
つた。同人の作品は38點にも及び純
グループと題されるものは僅か3點
(プランの示されないもの二三點あ
研究所(吉川君)とか共同食堂(野口君
テーマが現はれた、一方には會場試
如き所謂今日の「日本趣味」の片鱗
現はれて來た。勞働會館案(梅田君)
當時著く左翼的傾向を帶びた建築批
高めたりした。

此展覽會より僅か2月程の間を置
2月に再び第六回創宇社展が東京朝
階で開かれた。此展覽會では所謂コ
は益々その數を減じて二つになつて
品はより計畫的な準備が充分にされ
想的な傾向から具體的なテーマへと

に同人達の努力と進歩が現はれるであらう。展覽會の觀者に明確な理解を與
ログラムには說明的な解說が插込まれた。建築の作品展覽會が他の造型藝術
に、感覺的にのみ觀察される可きで無いとの觀點からされた此の試みは建築
形式の特色をより一層明確にしたものと見る事が出來る。

この解說には廣木君のボートレーススタンド案に對する建築地の具體的な
小川君、野口君の各作品に對するそのイデーの表明、私の作品に對する建築の
君の集合住宅案に對する簡略に述べられたアパート建築論、その計劃に對
明、山口榮一君、梅田君の作品のテーマに對する考察法等々が揭載された。

— 写真は「建築と社会」昭和12年6月号より複写 —



ポスター(4)　野口氏作

圖 16　住宅　野口巌氏

圖 17・山口榮一氏

「日本工作文化連盟」の思い出

蔵田周忠

1

この題目について最適任の執筆者として推せんしたいのは，市浦健氏である。本来はこの連盟の成立から，すべての幹事役をしてめんどうをみられたのは市浦健氏であるから，詳細は同氏にこの項を書いてもらうのが，いろいろの点で好都合なのであるが，私は連盟のはじめからの会員の1人として，ここでは私としての記憶と資料によって，私一個として連盟に関する思い出を記録しておこうと思う。

資料としてのよりどころは，当時連盟の機関誌として編集発行された数冊の「現代建築」によるのである。この「現代建築」の1，すなわち創刊号は，昭和14年6月15日の発行であって，表紙に当時もっとも新しい建築であったところの，パリ万国博覧会日本館（坂倉準三君設計）の Plan 配置図と1の数字が茶色で印刷され，「現代建築」と「日本工作文化連盟編集1939.6」が黒で表わされていた。

簡単明瞭できわめて印象的で，フレッシュなものであった。総アートで48ページ。中とじの針金がいまはもう赤錆になってきたが，創刊当時からのスマートなねらいが伝わってくるように思う。当時はみんな若かったし，世のなかは物情騒然といったような時代で，何かおちつかず忙しいころであったが，また緊張して何か社会のためになることをしようと身構える有志があったのは記録ものである。

「現代建築」の創刊号には，まず，序文を岸田日出刀氏が受け持ち，分離派以後の新人達に声援を送り励ました。つぎに，当時この日本工作文化連盟を一勢力とするより若い世代の人達が尊敬のまとであった堀口捨己君が「日本の現代記念建造物の様式について」という一文を書いた。その題の註に氏は記している。「国史館建設に関係せられると聞く恩師，伊東忠太先生，佐野利器先生，大熊喜邦先生，内田祥三先生にこの一文を謹んで捧げる」……と。

これは紀元2600年記念事業として，国体明徴を主旨として計画されたものであるから，その記念建造物国史館も，もちろんそこに日本的表現，日本様式でありたいとの予想が働くのを考えて，またしてもお座なりの日本風に傾いてしまわないことを要求し警告したものであった。みなの尊敬する堀口君の文章は，明らかに真に日本建築の確立を希い，日本建築の将来を憂うる者の烈々たる言葉であって，多くの共鳴を得たことは，ついできたるべき国会図書館の競技設計において，何かとやかましい建築界の世論に大きな反響をもたらしたとみることができる。

「現代建築」第1号の巻末に「僕等のページ」という編集後記を集めたようなページがあって，『「現代建築」は「カサベラ」のごとく全体として統一ある美しい雑誌にして行きたいと思う。1つ1つの写真のコンポジションを考えることが，自分の建築をよくみせたい要求の表現であるならば，雑誌全体を美しいものにしようとするのは日本の建築全体をよきものにみせたい要求の現われであろうか』と編集の抱負を記している。

ここにいう「カサベラ」"Casa Bella"――とは，おそらく1930年代に入ってから，とくに目をひくようになった，イタリーの建築とデザインの雑誌で，当時おそらく世界でもっとも美しい整然たる雑誌であった。厚さは5mmぐらいであったが，正方形に近い形で紙面のすみずみまで編集神経のいきわたったスマートな雑誌であった。「現代建築」の方もこれにならって無理をして総アートにしたのであろうし，またどの雑誌でもいつも苦労している広告面のデザインをスマートに印象的にと苦心しているあとが毎号うかがわれるのも特色がある。

2

日本工作文化連盟という名称をどのようにしてきめたか，その意味など内部のことは，前記のように市浦健君にたずねると詳しいと思うが，直接の機関誌「現代建築」の1～15号をふり返えるのがよい。ことにその1号には連盟の趣意書，綱領，規約が掲載されているから，方向なり行き方なりはよくわかると思う。要するにその趣意書のなかにもあるように「此処に建築家を始め，工芸，工学，工業および一般の科学，芸術その他工作文化に関与する諸分野の専門家を糾合して，別に掲ぐる指標の下に各種の課題を遂行せんとするものである。」――といい，当時考え得る工作文化の啓蒙指導，開発，研究を手広く伸ばしてゆこうとしたものである。それにはまた充分な知能と熱情とが集まったのであった。おぼろ気であったが，分離派建築会の面々が，いまやおちついてきて，つぎの時代としてドイツのウェルクブンドをイメージとしていたのかもしれない。いろいろめんどう

をみてもらったのは，前記のように市浦健君であったが，その同級の谷口吉郎，坂倉準三，前川国男の諸氏が力を添えてくれたし，それに土浦亀城，山脇巌，沢島英太郎，吉田鉄郎等の諸兄が会合のときどき顔をみせていた。連盟としての会合は，週1回から月1回と大体きまっていたが，だんだんに間がとぎれるようになり，また会合の場所もきまらず，その都度雰囲気が変遷した。にぎやかに論議をつくす一夕であって——もう帳場をしまいますから——といって，終会をうながされたことも往々あった。またそこで話がつきなくて，街のコーヒー店などへ，三々五々流れ込んだこともあった。議論の第2次会であるが，たいていは2次会の方は事務的な打ち合わせに終ってしまった。そういった最後まで必ずといってもよいくらいつき合っていたのは，たいてい堀口，市浦の両氏であった。

分離派のころからのくせのようになって，その延長がこの工作連盟につづき，他所目にはおかしいくらい会の日は夜遅くなった。

原稿をつぎつぎと指名で受け持ち，毎月よく集まった。ときどき「日本工作文化連盟編集」「工作文化」「近代工作文化特集」といったような別冊特集をだしたこともあるし，締切りを気にしながら急いで書いたおぼえもある。

3

結局，日本工作文化連盟編集の月刊雑誌「現代建築」の方は特集号として，第1は「大陸建設特集」の（1）と（2）とをだし，新建築の紹介をしたりして，読者との結びつきに苦慮したこともあったが，時代はいよいよ緊迫して人々は余裕を失ってきた。1940年7月号は「現代建築」の第13号として，堀口捨己特集というような形となり「千利休特集号」としてでた。かねて茶室建築の研究に力を注いでいた堀口君が「利休の茶室」を以って学位論文とされたため，これが主論文となり，工学博士を受けられたのによるのである。この特集号には，堀口君が「利休と現代建築」「妙喜庵の利休茶室待庵」「残月亭と利休の書院」という三論文をだされたが，なお併行的に茶室の研究に熱心だった沢島英太郎君も「伝利休作閑隠席，傘亭，実相庵」という一論を以って花を添えられた。沢島君も熱心な連盟会員であったのに，おしいとに大陸満州で病気になり，ついに夭折されたという，なさけないひとこまもあった。

かくて日本工作文化の「現代建築」も，第15号あたりで終刊号をだすことなく送ってこなくなった。したがって連盟の会の方も，私の方がはなはだ悪いのだが，解散を明確にしないで会合もなくなり，夜遅くまでしゃべって店を追いたてられることもなくなったのである。——この終末はわれわれの会・分離派建築会の終末と似ている。



「現代建築」第2号表紙

4

日本工作文化連盟の思い出話を思いだすままに記したのであるが「現代建築」を第1号からだしてみていると，いろいろなつかしいこともつぎつぎとでてくるので思わず読みふけってしまう。

前に記した特集「工作文化」（昭和16年版）は，独立の1冊として別冊になっているが，発行は相模書房で引き受けてくれている。

そのころ（昭和16年）はもっともあわただしい年であったし，われわれにとっても痛苦の年であった。出版物に対する紙の統制がもっとも強いころで，用紙はすべて新聞紙のようなザラ紙であり，両面光沢のあるアート紙など使うのはぜいたくであった。そのなかを切りぬけ得たのは，相模書房の小林美一，引頭百合太郎両氏の，とりも直さず声援のおかげであったと，いまつくづく思いだしている。

その苦しいころであった「現代建築」の第何号かに広告がでているのをみると，私が随筆集「陸屋根」をだしているし，その前後に岸田さんが随筆集「いらか」「かべ」をつづけてだされ，佐藤武夫君が「無双窓」をだしている。

なお，田辺泰，藤島亥治郎両教授も「冠木門」と「匠人談義」「琉璃塔」など随筆集をだされた。いずれも文とカメラに筆者を連想して，どれをみても，かなしく，なつかしい諸冊である。

日本工作文化連盟の終りころから，生田勉，浜口隆一，森田茂介，薬師寺厚，柴岡亥佐雄等，新人と知り合いになった。いずれも今日の建築界に新風を吹き込んでおられる，次代をになうたのもしい方々であるのも嬉しい。

（筆者　工博・武蔵工大教授）

新日本建築家集団（NAU）

図師嘉彦

新興建築家連盟の設立された1930年ごろ，日本の社会は特高の支配する暗黒の様相を呈してきた。その最初の集会が神田で開かれたとき，特高が忍び込んできた。新聞には赤の連盟として報道され，官庁に席を置く技師たち，大学の先生たちは，さきを争って内容証明の脱会届をだすという醜態まで演じたことを忘れることはできない。

少しでも進歩的団体には無慈悲な弾圧が加えられたので，それから以後の新建築運動は少数の若い建築家によって守り続けられた。しかし，弾圧の嵐はますますはげしく，民主的傾向の強かった建築母体はつぎつぎと壊滅していった。こうして，工作文化というような小さな枠内でうごめくか，黙するか，一切の運動に無関心な機械のような人間として存在するより他に道は閉じられてしまった。建築の世界は暗黒に閉じ込められてしまった。

敗戦は日本の空から暗雲を吹き払った。急にときほぐされた日本人民は，とまどいながらもしだいに自己を取り戻し，自分たちの信念にもとづく自由な言動になれ，民主化の勢力は怒濤のごとく人民の間に流れていった。こうした世相のなかで，建築家たちも寄り集り話し合った。

結集されつつあった集団では「日本民主建築会」と「日本建築文化連盟」とが二大勢力として育っていた。前者はどちらかといえば，建築の民主化という線を強く押しだしていて，その構成メンバーも戦前の建築運動，とくに建築科学や青年建築家クラブで苦労した人々を多く含んでいた。後者は建築文化の自由な発展を表面に押しだしており，日本工作文化連盟の流れをひく人々や，より新しい諸大学，官庁の若手建築家を多数その傘下におさめていた。こうした両団体の傾向づけは不適当で誤解を招き易いので避けるべきであるが，全然事情を知らない方々に何となく感じとっていただくためには都合がよい。両団体はその生いたちも，活動の仕方も，構成メンバーも幾らか異ってはいたが，その大きな目的は建築の民主化であり，建築文化の向上発展であることに相違はないのであったから，二大勢力として発展し，それぞれのセクショナリズムを育てあげることは日本の建築運動にとってマイナスであり，二団体が結集し一大勢力を築きあげることこそ当時としては緊要な課題と考えられていた。

私の記憶ではたしか1946年末か47年春だったかと思うが，そうした考えをもつ両団体の2，3の幹部が文京区で最初の話し合いをおこなった。そして両団体の統合の欠くべからざる必要性を確認し，その方向に運動を展開する努力を誓った。数年後にはそれによって結成されたNAUは日本の建築界の一大勢力に発展したが，当時はまだ微々たる勢力で，戦前からの古い諸勢力すなわち職場の上層部，建築学会，建築士会，建築協会等の民主化への影響力は持ち合わせてもいなかった。もちろんわれわれはそうした古い勢力に排戦しようなどという何らの意図はもっていなかったが，古い勢力が温存されたり，われわれの活動が押しつぶされて，新時代の日本の建築界の発剌たる活動がにぶり，輝しい発展の遅れることには警戒的であった。それにはわれわれ民主的建築家の力を一つに結集し，組織化し，その実践活動を通じて，日本建築界の民主化に強力な影響を与え得る勢力となることがぜひとも必要であったのである。

その後，両団体の折渉は何回か繰り返えされ，最終的に両団体が発展的解散を行ない，新団体に結集する方針が決定されたのは1947年初夏であった。その創立結成は1947年6月28日，東大で行なわれた。その趣意書をつぎに転記する。

趣意書

建築が支配階級のために考えられ，つくられる時代は過ぎ去った。

われわれはこんにちの建築生産をみるとき再建日本の建設がいまだ大衆のものとして行なわれず，むしろ大衆の生活から離れているため，これが国土の復興をおくらせているのを認めないわけにはゆかない。そして建設を担う技術者としてこの矛盾に憤りと責任を感ずる。

われわれはこのような現状を打ち破って，建築を大衆のものとするために，これまでに職場や地域においてグループを組織していろいろ努力してきた。しかしこのグループがサロン的なものであったために，大きな成果をあげることができなかった。その間に建設の方向は少しも是正されず，他の政治的，経済的条件とともに，大衆の生活の崩壊，国土全体の危機をもたらそうとしている。

正しい建設は一日も早く始められなければならぬ。われわれは直ちにその実現に努力しなければならない。われわれの必要とするわれわれの意見を正しく政治に反映させるための強い力であり，それを生みだすのは大きな団結だけである。

われわれはここに小さなグループのからをすて，全国の同志とともに，真に民主的建築技術者の団体として新日本建築家集団を結成し，他の民主団体や世界の進歩的建築団体と連繋して，新しい日本の建築を真に働く大衆の建築として発展させるために，われわれ全部の力をここに結集する。

この趣意に基づいて規約で「集団は建築活動の民主化をはかり，正しい建築文化を建設し普及することを目的とする」と規定された。またこの目的を達成するための事業として9項目をかかげ，総会によって選出された常任委員会，ならびに事務局によって直ちに活動が開始され，対外的に働きかけるとともに，内部においては常任委員会の承認を受けた各種専門委員会が，共同の調査，研究，立案，実施その他の計画についてそれぞれ活発な活動を開始した。

会の名称決定にはきわめて多数の提案もあったが，多数で検討討論した結果

「新日本建築家集団 New Architect's Union of Japan」（略称 新建 N.A.U）

と正式に決定されたのであり，2，3の人々によって提案選定されたものではない。敗戦によって生まれかわって民主国家たらんと胎動する新しい日本のために働こうとする建築家の集団という意味を含んでいる。したがって，たんに建築という宙に浮いた抽象的建築ではなく，多分に当時の社会情勢，政治情勢に深い関必を持っている建築家の団体であった。

その他この集団の詳しい性格については「建築雑誌，昭和24年9月号」に「新日本建築家集団（N. A. U）の性格について」という題名で私の執筆したものがあるから参考にされることを望む。

戦後の民主的諸組織は上からつくられていった傾向が強いといわれている。当時の混乱した状況の下ではこの欠点はほとんど不可避であったから，NAU においても当初そうした欠陥のあることははゆがめなかった。

NAU は班活動と各部会活動を基盤として，実践を通じて下からの力を結集し，組織化して発足後の集団内民主化の強化をはかった。

班は各職場内に結成された。東京では霞ケ関班（安本建設省が主），都庁等の官庁各班および各大学の班などが強力であった。これらの班はそれぞれの職場の日常の問題をとらえ，各班代表を通じて中央事務局組織部に連なっていた。

研究部会は NAU 活動の技術のグレンである。この技術的民主団体の専門頭脳の中枢組織である。デザイン部会を始め，理論，都市計画，住宅，歴史，生産，農村，行政，構造とそれぞれの分野に渉って研究部会がもたれ，その成果を毎土曜開催の NAU 例会に発表され，総括的に検討される。この例会は NAU 事務局研究部会の責任においてもたれ，すべての NAU 会員が自由に出席討論できる。ときには法隆寺問題のごとき臨時の専門委員会ももたれた。これらの各会員の意志と努力は組織宣伝および調査研究各部会を通じて事務局でまとめた上，中央常任委員会の議を経て統括され．対策が打ちだされ，会の民主的意志にしたがって会が運営されていった。対内外発表機関としては，機関誌「NAU NEWS」「建築新聞」季刊「NAUM」「社会と建築と建築家」等の出版機構をもち，また講演会あるいは他の諸団体——文連始め各民主団体および建築学会等の専門諸団体——への積極的参加によって，日本の建築界の民主化と建築文化の発展へのたゆまぬ努力が払われた。

NAU は総会においてその性質上，たんに建築そのものだけでなく，建築の健かな発展を守るに必要な最低限度の民主々義に立脚した政治的アッピール，戦争から人類ならびにわが祖国を守るために必要な平和へのアッピール等々，ときに政治色の強いスローガンを掲げたこともあった。このことは当時の日本の建築界を民主化しようとする運動のなかにおいて，きわめて適切なかつ緊要なことではあったが，その取りあげ方，盛りあげ方にややせっかちな不手際な点もあった。そのことが，ある方面から誤解され，白眼視されたことでもあり，また後日解散へ導びいた蟻の穴となっていたのかもしれない。

しかし，いくら老年であっても，建築家個人というものは平和への願いの強いものである。そうした白眼視されている最中，私が平和署名をもって，いまはすでに他界された学界の長老伊東忠太先生，官界の長老大熊喜邦先生．当時の日本建築士会の長老桜井小太郎先生の三長老にお目にかかり，意見の交換をはかったところ，各長老とも大いに賛成，激励された上，筆頭に署名された。このことは私にとっても感激であった。この三長老の筆頭署名によって各大学の教授，助教授，各官庁の上層技官，民間の主要事務所の上層部技師の署名を容易にしたことがあった。これより十数年前，前述した「新興建築家連盟」創立当時の各上層建築家の内容証明脱会届け騒ぎと比較して感無量であった。このエピソートは余談のようであるが，そうではない。NAU が当時急速に発達し，増大したのはそうした社会的背景に巧みに乗ったものであり，また逆に NAU がその情勢に甘え，つぎにくるべき苦難の道に確たる対策を講じなかったことが解散への道を速めたものと私は考えるからである。

このように NAU の結成と発展は当時としては目覚ま

しく，主要大学のなかにいる教授，助教授格，主要官庁の中堅技官，民間各組織の中堅層のそれぞれ各多数，ならびにそれに続く大学卒業前後の建築界将来の担い手のかなり多数を擁し，数年にして全国にわたり800余名の会員をもつ有力な集団となった。800人といっても1人1人が会の目的を理解し，積極的に何らかの役創を果そうとする意欲に燃えて参加した現在ならびに将来の幹部級建築技術者の人々であるから，その勢力は決して過少評価すべきものではなかった。

日本建築学会は，戦後たいへん疲弊していた。これに活をいれ民主化して一日も早く戦後の正常な学会に育ててくれることはわれわれのひとつの願いであった。NAUとしては当然その対策を考慮した。関東支部常議員にはNAU会員の多数がいた。したがって，関東支部常議員会は学会民主化の線に沿ってその実践を通じて活動した。上層部だけの学会でなく，日本のすべての建築関係技術者の親しみのある，しかも権威を備えた学会とするためにも，新しい力を加える必要を痛感した。当時の関東支部常議員会は確かに活発であったし，それにはNAUの間接的協力が尽大であった。またNAUもその会合，委員会等に学会の施設を使用させてもらったこともしばしばある。

建築学会とNAUとはそのような密接な関係もあったが，学会の古い関係者のなかにはNAUが学会を乗っ取る計画ではないかとの憶測をする人もいたようである。NAUはそのような派閥争いや学会的権力を目指しているのではないから，そのような憂慮は笑止のいたりであるが，本気になって心配している人々がいたのであるからNAUの力も見当違いに過信されたものである。しかし，今日隆盛をきたしている日本建築学会の戦後のたちなおりにNAUが大きな裏の力となっていることは否めない。

NAUは日本民主々義文化連盟（文連）に加盟して，他文化団体との連繋に協力し，さらに産別その他の労働組合とも密接な関係を結び，建築を通じ日本の民主化に協力した。

各部会はそれぞれ民主々義的立場から建築技術の調査研究を行ない，各参加者はそれぞれ方法論にも得るところが多かったはずである。当時のこれらグループに属した多くの若い建築家達が，今日では学界，官界，民間各分野の中堅層にいて，都市計画に住宅政策に，行政に，設計にそれぞれ有能なる活躍をしている事実を見のがすわけにはいかない。

デザイン部会あるいはその流れの関係者は「新日本文学会」その他の会館，労働組合の会館，事務所の設計監理の実務にも共同制作の経験を学ぶことにもつとめた。そうした面の成果もある。あるときは民主々義諸団体と関係ある一切の建築——計画，設計，監理，保守まで——ビルから労務者住宅の台所修理まで——を経常的に一手に引き受け，その実践を通じて組織と宣伝と財政の基礎を固めようと繰り返えし検討し，計画したこともあったが，そこまでは発展しかねた。いったん実務の関係が生ずるとプラスかマイナスか会に致命的影響力を与えるものであることを私は痛感した。

「NAU NEWS」「建築新聞」「NAUM」等の出版活動については記録されているものであるから，ここに強いて語る必要はないと思う。

上述，私個人の想いでをとりとめなく記す形式でNAUの当時をしのんでもらうつもりで書いた。正確な記録としてではない。正確な記録はいずれ当時の深い関係者が集合して整理しておくべきものと考えている。

NAUは各分野に渉って広く活動し，優秀な多数の建築家たちをその傘下に収めるにいたった。始めは民主化の線が強く表面にだされ，その強力な活動の必要もあった。しかし，建築界もしだいに民主化の線になれ，そして自らの分野の活動に専任せざるを得ない落ちつきをみせてきた。

各団員のそれぞれの職場，分野における忙しさも倍増した。中央幹部の諸会合にみな出席する困難も増した。尖鋭的分子の集りと誤解されるばかりでなく，外部からは故意にそう宣伝して建築界の民主的勢力を潰そうとする傾向もみられた。NAUは所属する会員の政党のいかんを問わず，広範な建築家の支持層を得ることが必要であり，NAU創立の第1段階の役目を果した1949年ころには再編成を強力に遂行する必要にせまられていた。1949年6月5日の第3回総会は，その点においても意義深いものであった。このころから，会員層も職域幅のみでなく，年令層にも拡がりをみせ，相当高令者の入会も増した。1949年秋から暮にかけては「近代日本建築史講座」の開催を計画するなどの落ちつきをみせた。反面，NAU NEWS 18（1949.8.20）の「疲れた総会」の記事や，同20号（1950.1.1）の「ひとつの自己批判——技術者団体の運動について」広島支部金沢弘真氏（これは建築雑誌1949年9月号に私が寄稿した「NAUの性格について」を読んで書かれたもの）の記事にみられるように，この運動は種々な内面的矛盾と困難に突入していた。

この大きな組織が自然解散のような形に解消して行ったことに対して，私はいまだに充分解明していない。創立当初からの責任者の一人として責任を感ずるのであるが……。

一部の班，とくに一部の部会は今日でもそれなりに生き，活動をつづけていることを知っている。また大阪支部は今日まで存続し，1960年に「新建築家集団NAC」と改称したことをきいて，おおいに喜び期待している。

（筆者　図師建築設計事務所長）

3

日本近代建築運動史

建築運動の現在をたずねて

建築研究団体連絡会
民主々義を守る建築会議
新建築家集団NAC
日本建築学生会議

建築研究団体連絡会(建研連)とその前後

鈴木成文

NAUの解体

第2次大戦後の混乱期にはなばなしく発足した新日本建築家集団（NAU）は，民主主義の旗印の下にさまざまな傾向の人びとを包含していた。民主化の風潮の下に社会的，政治的な多彩な活動をくりひろげたのであるが，やがて国内国外の平和な民主的諸関係がキシミをたてはじめるとともに，朝鮮戦争の厳しい試練のなかにとうとう崩壊の羽目に追いこまれてしまった。

新しい建築運動

全国組織としてのNAUは崩壊したとはいえ，その終末期にはすでにいくつかの下部グループが自立しており，またその後もNAUの活動家をおもな中心としていろいろのサークルが生まれ育った。農村建築研究会は，大学の研究者，中央・地方の行政職員，研究者，学生などを主として，100名を超える組織に成長した。建築経済の研究部会は学界に新しい仕事を提案し，それは建築学会の活動のなかにも実を結んでいた。住宅問題に関心をもっていた学生の活動家たちは，次第に大学や研究機関や行政機関のなかに所をえて，日本の住宅政策の前進に欠くことのできない役割をになっていた。

学生部会で活躍した何人かは，新しい建築評論の確立を目ざして同志的な結束を強め，機関紙建築世代を刊行してこつこつと研究を進めていた。建築事務所の若い設計者たちは，デザイン部会を中心として集まっていたが，その後は建築事務所員懇談会を結成して一つの勢力となっていた。

このグループに刺激されて生まれた婦人技術者の団体Po Do Koは，柔軟で多彩な活動をひろげていた。大学の研究室を中心にして設計の技術をみがき研究室と実務者とを結びつけようという地味な研究会を重ねるLVや木曜会があった。火曜会は同じく大学に本拠を置いていたが，建築家のあり方を追求しようという話しあいの場であった。もっと理論的武器を身につけた人たちの集りである建築研究会は，日本の建築産業機構と住宅問題の追求をテーマとしていた。ロシア語のできる人々はソビエト研究者協会のなかに班をつくり，社会主義諸国の建築や建築運動の資料を活発に紹介しはじめていた。保育所や幼稚園を専門にあつかう人たちは児童施設研究会を作り，ジャーナリストを中心として建築の評論を志向する建築美の科学研究会も生まれた。

これらの多くのサークルにとって，NAUの運動の経験は非常に貴重なものであった。

「外にひろがるよりも，選んだ活動の質を高めよう……内部の結束をかためよう……」というのが共通した方針であった。職場や生活をめぐっての身近かな日常的な関心事を大切にし，また研究活動は地道に成果をつみ重ねていくという方向をとった。十把ひとからげの連合組織をつくることや，徒手空拳で社会的活動にとびだすことは最後まで慎重に避けられた。そうした方針はどのグループでも成功した。

1954年前半の形勢

1954年のはじめにも，建築ブームの名残りはまだつづいていた。各都市にはつぎつぎと新しいビルができあがり，海外には日本の新建築がデビューしはじめ，新建築のなかに伝統を消化しようという試みがなされた。

中堅，少壮の作家たちにしても，また若い人びとのグループにしても，戦後新年の試練を経て，それぞれなりに現実社会の流れに密着し，それぞれの地歩を固めてきていた。そして全体としては，一見はなやかにみえる建築ブームの底に大衆の生活の貧困化と，建築家，技術者自身の窮迫とを敏感に感じとっていた。

2つのできごとを出発点として，1954年の建築運動は火ぶたを切った。その1つは国会図書館懸賞設計をめぐる著作権問題であり，もう1つは国際建築学生会議への招待であった。

国会図書館問題のイニシアティブをとったのは，のちに「例の会」の主流を形づくる数名の人びと——各大学の助教授クラスで中堅作家として戦後進出した人たちであった。当初の主張がやや独善的に感じられたために，彼らの活動は多少浮き上がり気味であったが，彼らの要請にこたえて建築事務所員懇談会が後援に立ってからは，活動が急速にひろまり活発になった。所懇は表面にはでないで，もっぱら署名運動の拡大に，檄文の郵送配布などに労力奉仕した。この運動の指導者たちが，一般情勢をたくみに洞察して譲歩解決の道を選んだとき，これにあきたらなかった所懇その他若い層の人たちは，中堅層に対する不信感とともに，自分らの層の連合協力の体制の必要を感ずるようになっていた。

建研連の結成

年頭に国際学連から全学連を通じて，4月にローマでひらかれる国際建築学生会議に代表を送れという招請がとどいた。これを機会に各大学の建築学生が代表派遣の準備活動に結集しはじめた。2月には日本建築学生会議の準備会が発足した。国際会議の議題に対しては，全国の学生の協力と討論によってすぐれたレポートがまとめられ，ローマ会議には代表1名が出席して拍手を浴びた。

以上の学生の活動を支援することを直接の目的としながら，各研究団体相互の連絡協力をはかるために作られた新しい組織が，建築研究団体連絡会（建研連）である。

各グループのなかでは，学生といちばん接触の深い立場にあった農村建築研究会（農建）が，建築学生会議のための準備を支援するOBたちの活動を最初に提唱した。最初の準備会は2月6日に建築学会会議室でひらかれ，学校関係，研究所関係を主として10団体が集まった。そして，学生代表派遣の資金援助やレポート作成への協力が申し合わされたほかに，その問題に限らず，各団体が相互に連絡しあうことが望まれ「連絡会」をつくることが決議された。その後，2月から3月にかけて何回かの準備会がひらかれ，3月13日には第1回代議員会が招集されて運営委員を選出し，当面の問題として学生会議への資金カンパの呼びかけと，レポートのための討論会開催などが申し合わされた。学生会議へのこうした援助は，カンパの高は知れたものであったし，レポート作成にも学生会議と共同で1回の討論会をもったにすぎなかったが，しかし，先輩たちのこの態勢は彼らを精神的に力づけた。

建研連の組織

研建連は結成のはじめは10団体，のちに2団体が加入して12団体となった。

農村建築研究会（230名），LV（40名），建築世代（20名），建築事務所員懇談会（40名），Po Do Ko（100名），建築研究会（10名），火曜会（30名），ソビエト建築研究会（10名），建築美の科学研究会（10名），児童施設研究会（10名），木曜会（20名），現代建築史研究会（10名）。

建研連は「各研究団体の内容，事業の相互連絡ならびに共通する問題の解明」を目的として発足し，各研究団体から選出された代議員1名づつからなる代議員会を議決機関とし，その下に代議員の互選による4名の運営委員会（任期1年，半年ごとに半数改選）を置く。会費は1団体1ヵ月100円，他にガリ版ずりの機関紙（原則として月刊）の代金を部数に応じて収める。はじめの運営委員には，LV，農建，世代，ソ建研が選ばれ，運営委員長はLVときめられた。

組織は各団体の自主的活動を尊重し，それを妨げるような大袈裟な動きにはとくに憶病であった。発足のはじめには機関紙を通じて各グループの紹介からはじめた。「われわれは各自の職場やサークルに根をもった自主的な運動を一番に尊重すべきである」そして，みんなでわっと集まる運動は，建研連自体の運動としてではなく，傘下の各会の有志の有志が参加するという形式がとられた。そういう，ゆるい結合を意図したのである。しかしそれにもかかわらず，当時の周囲の状勢，労働運動の高

諸官庁御指定
吹付及び掻落ソリジットスタイン
床材（合同リグノイド）マグネシート
外壁シリコン防水
製造。販売。責任施工
合同特許建材工業株式会社
取締役社長　山下謙治
本社　大阪市東住吉区田辺東之町3—109　電大阪㊻9086
営業所　大阪市東住吉区駒川町3—54　電大阪㊼4370・7660
出張所　広島市比治山本町1180　電広島④4967
出張所　東京都新宿区花園町46　電東京(351)5298・5264

建築材料の選び方使い方の専門誌
建築技術者と材料業者の必読書
建築雑誌　材料と設計
毎月1日発行
B5　¥150〒共
全国書店で発売
建設文化社
本社　東京都文京区小石川町1—1　電話(921)2739
支社　大阪市西区西長堀1—5　四ツ橋ビル　電話㊸9200

まりと国際的な交流の要請は，建研連を大きな渦のなかへ捲き込む結果となった。

54年から57年までのほぼ3ヵ年間の建研連の活動期間において，この団体を特長づける主要な動きとして

（1）総評会館の共同設計
（2）建築労協との接触と第2回国際建築労働者会議への代表派遣
（3）総結運動
（4）訪中使節団派遣運動への参加

をあげることができる。

総評会館の共同設計

建研連の結成が建築と建築家との正しいあり方，とくに社会との関係において見いだそうとする気運を高めていた。ちょうどそのときに，権力者たちのではなくて，労働者たちのものでもある総評会館の建設が企画され，その設計への参加がはかられたのであるから，多くのグループや個人がこれに進んで参加したのは当然であった。

全建労，日建協の労組代表と建研連とによりそれぞれの立場から検討され，一様にこのような建築の設計はもっと広く民主的な建築家たちに公開されるべきであると結論された。1954年の6月，7月の2ヵ月間，毎週木曜夜に国鉄労働会館に100名にのぼる多数の人々が集まり，数多くのグループの意見を一つの建築にまとめるという異例の共同設計が組まれたのである。この共同設計の方法そのものについても多くの意見がだされ，論議が行なわれた。しかし一様に，労働者たちの建築を手がける機会のなかった建築家たちにとって，この機会はたんに彼等に奉仕するという点で有意義だっただけでなく，労働者たちに直接接触し，さらに深く相互に理解しあおうという意欲が高まり，それがこの設計会議の重要な基本線となったのである。

さらにこの設計会議には，もう一つの重要な主題があった。それは民主的な建設方式の提案である。しかし不幸なことに，この設計の進行途中で総評幹部の交替から会館建設方針に大きな変更があり，この設計と建設を一つの建築界の労働運動としてとらえる方向が一切否定されたため，初期の目的を達成できなかったばかりでなく大へん苦しい条件の下で仕事をしなければならなかった。しかしこの未曽有の共同設計は，いままで交流のなかった若い建築技術者層を一つの目的の下に集めて融合し，さらに労組との強いつながりをもつきっかけとなった。

建築インターへの代表派遣

総評会館の設計は，各研究サークルのもっとも活動的な人たちをピックアップして動員する結果となり，反面，そのサークルの活動をにぶらせた。とくに所懇はもっともその影響をうけた。そしてこの設計の後は，一斉に各グループの活動の振興がはかられた。

しかし総評会館共同設計を通じて土建総連や日建協という労組と近づきになったことは，建研連の方向に大きな影響を与えた。全港湾労組会館の共同設計を通じての民建方式への努力は，この関係をさらに深めた。

建築産業の各労組の統一組織「日本建築産業労働組合連絡協議会（建築労協）」の結成の動きがあらわれたのは1954年春であったが，とくに1955年なってから第2回建築インター大会の参加の運動によってこれが活発化した。そしてこの代表派遣は土建総連を通じて建研連にも呼びかけられ，これを技術者と労働者との結合の運動として取り組まれたのである。実のところ，労組とともにするこのような大運動には，建研連は明らかに弱体であった。しかし，労働者との結合を建築技術者のさらに広い層に拡げる運動として，労組の援助を受けながら何とかやりとげることに成功した。広いカンパ活動を組織して代表として PoDoKo 会員船越輝子さんを労組代表とともに送ることに成功した。レポートの作成にはとくに協力した。

しかし実際には，資金の調達だけでも精一杯で，これを通じて内部を固めること，外に拡大すること，国際交流をほんとうにわれわれのものとして意義あらしめるこ

杭
株式会社 武智工務所
取締役社長 福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話(202)3233・3234

つねなりすたじお
建築写真
大阪市東区北浜・電㉓0141

とに，十分だったとはいえない。建研連は，外からもちこまれた派手な仕事ばかりに向かっていて，地道な日常活動を忘れているという内部の批判も強かった。ひと仕事を終ったあとでは，必らずその疲労が待っていた。とくに PoDoKo はこれを通じて会自体が伸びたと同時に，その身にあまる力をだした後の消耗もはなはだしかったのである。

総　結　運　動

建築インター代表派遣運動が一段落ついた1955年夏は，再び建研連のあり方について大いに議論がたたかわされ，サークル間の交流の必要性，サークル独自活動の援助が強調された。そしてその具体的な方法として，各会の活動の紹介，運動の経験の交換を目的として「総結」がはじまった。地団研の「ともに学ぶよろこび」をモデルにして，運動の記録を残し，経験を共有の財産にしようというものであった。

だが，これはなかなか容易なことではなかった。定規と鉛筆は使いなれていても文章を書くことにはなれていない連中であり，そして建築関係ではどの職場も仕事に追いまわされていた。テーマがきまり，内容が討論されてもなかなか原稿にならなかった。しかしこの総結を機会にいままでの動きを反省し，あり方を考えていこうとする気運の作られたサークルや職場も多かった。総結のために広く仕事と生活の調査をしたり，みなで討論したりすることが各所でおこなわれ，それぞれのサークルの反省の機会を与えた。そしてこれは1年半がかりでようやくまとめられ「建築をみんなで」という題の単行本となって刊行された。（日刊建材新聞社発行，1956年7月，200ページ，150円）建研連各サークルの経験の交換にとどまらず，この時期の建築運動，技術者の生活およびそのなかでの考え方を示す貴重な記録である。

訪中使節団派遣運動

1956年には，建築労協に対する中国総工会よりの招待により，訪中使節団の派遣が企てられたが，この代表選出にあたって建研連内部にはげしい論争をまきおこした。

だれもがこの運動を通じて労働者層との結束を強めるとともに，技術者層への呼びかけの機会と意図することに変りはなかったが，一方はそのために建研連の運動を進めている自分たちのなかより代表をだすべきであるとして所懇の足立光章君を推し，他方はさらに運動を拡めることに主眼をおいて，建研連の動きそのものにはタッチしていないが，農建の会員である西山卯三氏を推した。激論の末，西山氏ときまったが，ここに運動の把え方にはかなり異った意見の在することが明らかとなった。この代表派遣は，政府の妨害により公務員に対しての渡航許可がおりず，西山氏はついに参加できずに終ったのである。

建研連の評価とその後

56年の後半から57年には，各サークルの活動は依然続いてはいたが，建研連としての目だった動きは次第に消滅していった。

建設の仕事が忙しくなるにつれ，人々は次第に設計のなかに身を埋めていった，この3年間に，建研連の果した役割といえば，設計技術者の仕事を現実の社会のなかで正しく位置づけよう，建築労働者と接触しようということであり，それなりの成果をもたらした。しかし，ホワイトカラー層の運動が常に興っては消えていくのは，その組織の弱さのためであろうか，それとも運動のテーマが社会の状勢に応じて変るべくして変っていくのであろうか。

農建，PoDoKo，LV などは今日にいたるもなお多少の変貌はありながらも会の活動は継続している。もっとも情熱的な活動をみせた所懇は幹部の疲労からそのまま沈滞し，一部の人々には1世代上の人々の集りである五期会に参加して建築家の姿の追求に励んだ。この後の動きは，運動の当事者をはなれて正しく分析され記述されるべきであろう。

（この記述は主として，建研連編集「建築をみんなで」によった）

（筆者　東京大学工学部助教授）

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㉞四一三一～四



民主主義を守る建築会議

その建築運動としての内容

田巻博道・田中正雄

〝民主主義を守る建築会議〟の活動が果して建築運動としての内容を持っていたかどうか。ひとつの政治的危機にさいして集まった不特定多数の建築にたずさわる人達の政治的主張は，その声明書に明らかな通りである。しかし，その新安保に反対して民主主義を守るという政治的主張を，建築界の個々の問題としてフエンした場合，そこに集まった何百人という人達が打ちだす建築にたずさわるものとしての立場なり姿勢は実に多種多様で決してひとつの主張やスローガンに要約できるものではないだろう。現に参加した人達の属する社会的身分にしてからが，すでに設計事務所長として高名な建築家から一介のドラフトマン，請負の現場監督，建設労働者，大学教授，研究室助手等まで，実に種々雑多の階層が行進に参加した。これらの人々をすべて含めての日常の恒常的な建築運動なり，組織が存在するかどうかはきわめて疑わしい。たまたま同じ建築界でメシを食っていたというだけで，決して共通の経済的地盤に立っているわけでもなければ，同じ建築的イデオロギーを持っていたわけでもない。

それを強いて建築運動というならば「建築界に属するもの，決して政治に無関心であってはならない。真に立派な都市や建築の創造のためには政治上の民主主義を強く守らねばならない」ということを，広く深く建築界内部へ訴えたという意味において，たんなる政治運動ではなく，それ以上の建築運動としての内容を持っていたといえるかも知れない。しかし，かといって〝民主主義を守る建築会議〟が，遠く分離派の宣言や，近くメタボリズムの主張のような，フィジカルでシャープな建築理論を持っていたとはいえないようだ。それはあくまでも一時の政治的高潮期に応急に作られた建築にたずさわるものの発言の機関に過ぎないとみる人達も多いのだ。実際のところ，声明書の内容に，安保反対以外に特定の建築運動の内容を盛ったとしたら，デモに参加しにきた人達の間から，多くの列を離れる人達をつくったに相違ないと思う。政治上の民主主義を守ることにおいては〝民主主義を守る建築会議〟の運動に参加した人達は，だれしもみな同意見である。新安保に反対することこそ真に民主主義を守る道だと考えた人達の集まりである以上，それは当然だろう。しかし，それを建築界内の問題にフエンして，つまり建築運動として建築界内部の民主主義を守り，非民主主義を排そうという次元にまで拡げようとすると問題を生じる。一体，建築界のどういう点が民主的であり，どういうことが非民主的なのか，という判断に関しては，あのとき一緒に腕を組んだ人達の間でさえ，その意見はまったくマチマチであったに違いない。いやむしろ呉越同舟の気味さえあったようだ。こと建築界の問題に関して，民主的，非民主的の区別を劃然として大衆運動を企図したら，それは政治上の民主主義を守るという当面の目標さえ危うくしたかも知れないのだ。またそれほどに日本の建築界は複雑な矛盾を擁してしているともいえるのである。

大衆運動としての〝民主主義を守る建築会議〟が，かっての建築運動史上に記された数々のエコールや，団体のような建築運動としてのはなばなしい理論を持たないとしても，日本の建築にたずさわるものすべてに訴えて，その政治への関心をすくい集め，実践への機会をつくったという点に最大の意義を持つものと思う。戦前の芸術的主張にのみとまらざるを得なかった建築家達にとってみれば，露骨に政治的要求のみをかざした建築界何百人ものデモ行進は考えもおよばなかったであろう。そして建築人としてのモラルのひとつに政治への参加，民主主義の擁護という信条を加えるという点において，戦後最大の実践的な建築運動であったのである。と，このように結論しながらも私は〝民主主義を守る建築会議〟の活動に，建築界内部の矛盾を衝く具体的な建築運動の萌芽がまったくなかったとは思えないのである。現に私は〝民主主義を守る建築会議〟が大衆運動として盛りあがる前の，その当初の金米糖の芥子粒にもあたる少数のささやかな集まりのあったのを知っている。ちょうどそれは，国会における安保審議をめぐって，世相おだやかならぬものがあったころだと思う。建設という仕事にたずさわる十数人の若者が集まっていた。語り合うこと

行　進　の　宣　言

われわれは，民間，官公庁をとわず，建築の設計，施工，評論，その他すべての分野にたずさわる者です。

新安保条約の承認問題を中心とした一連の自民党政権の態度によって，民主主義が危機におちいったことを傍観することができず，本日，午後6時より日比谷公園市政会館前に参会し下記の声明書を採たくし，国会への請願権を行使するために，ただいまから国会に向って行進を開始します。

1960年6月4日　午後6時30分

民主主義を守る建築会議

声　明　書

さる5月19日夜半，自民党政府は，警官隊を国会に導入し，未曽有の混乱のうちに，一方的に大巾の会期延長を議決したうえ，新安保条約の審議打ち切りと同条約の承認を議決しました。

これは，われわれが戦後確立しようとしてきた日本の民主主義に対する完全なじゅうりんであり，日本国民を故意に国際的緊張の渦中に導くものであります。

われわれ建築にたずさわる者は，民主主義の確立する社会のなかで，真に国民のための都市および建築の創造に専念したいと希望する立場から，現在の政局に大きな危機を感じ，これを傍観することができません。

ここにわれわれは国民の一人として，日米安全保障条約に反対し，国会の即時解散を要求いたします。

1960年6月4日

民主主義を守る建築会議

は，建築設計事務所員の不当な薄給とかくれたアルバイト，請負会社内部の厳しい職階性，建築家としてのモラルと無名性，建築商業主義への抵抗，日本の住宅建設における矛盾，建築家意識の嬌慢と退廃等々，日本の建築界の矛盾と不合理を衝く低いが激しい言葉が数々あふれ流れでていた。こうして最後に建設にたずさわるものとしての政治への責任，民主主義の擁護をお互いに確認し合うころ，窓外の電光ニュースが新安保の強行採決を伝えたのだった。1人が号外を買いにでていき，1人が社会党に電話した。そうしてみなが動きだした。建築事務所のドラフトマン，請負会社の設計部員，大学研究室員，建築ジャーナリスト，お互いに知らない者同志が多かったが，その集まりはさらに知らない者を急速に仲間にしていった。デモの団体の名称をつけるときに，まず何気なく〝民主主義を守る建築家会議〟が提案された。

仮称としておおむね了承されたが，これは，建築家の〝家〟という字を削ることで衆議一決した。この運動は，建築にたずさわるものすべてのものでなければならなかった。そして，近代建築をここまで推進してきた建築家のリーダー意識こそ，この時点においてもっとも反省されなければならないことだったのである。繰り返して書くが，この運動は決して建築家の集まりではなく，建築にたずさわるものすべての集まりなのである。この決定のなかに，私はこれまでの建築運動にまったくなかった新しい建築運動の精神的内容を垣間みた。かれ等は，建築界内部における民主的なものと非民主的なものの腑分けを始めていたのである。私は新しい建築運動が始まったと思った。もちろん〝民主主義を守る建築会議〟のデモに明らかに建築家的ポーズで参加した人も多かった。また建築界における民主的なものと非民主的なものの区別においてまったく違った意見の人達も数多くこのデモに加わった。それはかまわなかった。そのときの，当面の敵はだれかということはハッキリしていたからだ。

そして，建築界における民主的なものと非民主的なものの腑分けに，とくに熱心な無名の若い人達の集まりが〝民主主義を守る建築会議〟のなかにできた。その名を〝雑魚の会〟と呼ぶ。1960年の政治的高潮期を終えて〝民主主義を守る建築会議〟が建築人の政治的発言の機関としての役割を一応了えたいまも，これらの若い人達は，建築界の民主的なものと非民主的なものとの適別の作業を絶え間なく続けている。その作業は，その性質上はなばなしいフィジカルな造形作品としては結実しないかも知れないが，そうした熱心な作業が持続する限り，私は〝民主主義を守る建築会議〟の，たんなる政治運動ではない，建築運動としての実体を確認できるのではないかと思う。

そして，この建築運動自体が真に民主的なものになるためには，建築にたずさわるすべての人達が，建築界の民主化について真剣に話し合う機会をより多く持つこと〝民主主義を守る建築会議〟がそのような機会をつくりだす機関として組織化される必要があると思う。

私は一時，建築人の政治的発言の場に過ぎなかった

〝民主主義を守る建築会議〟を恒常的な組織，たとえば，労働組合とか職人組合とかいうかたちで運営できないかと考えたこともあったが，共通の経済的条件を持たず，お互いが利害相反するような相剋の状態にある現在の建築界にあって，そのような組織化は手段ではなくすでに目的でさえあるようだ。そのような目的を目指して，絶え間ない話し合いの機会を積みあげていく努力を続ける以外にはないようだ。そして，またもや第2の政治的高潮期を迎えようとする気配もあり，再びの試練に直面して，今度こそ，真に建築運動としての次元にまでその活動を拡げ得るか否かが，無名の不特定多数の若い建築にたずさわる人達の肩にかかっているように思えるのである。

あの夜のことを思い返してみると，建築界自体の危機について語り合っていたその問題意識が，いつの間にか政治的な危機意識にすり変わり，激しい大衆行動のなかに放散してしまった気味がありはしないだろうか。いま，建築産業そのものが大きな転換期を迎えようとしているとき，私は改めて，当時の危機意識を思い起し，ふたたびそれを建築界自体の問題として正しく直面する必要に迫まられていると考えている。

回　誌

1960年

5月19日（木）夜　於銀座風月堂　建築の仕事にたずさわっている10数人が集まって，将来の建設産業技術，職場の体制と現在の建築家の意識構造，ひいては政治上のモラルについて話合つた。

5月25日（水）夜　於銀座風月堂　当面の安保問題に対して意志表示の場をつくることにして，デモ参加を決めて呼びかけることにした。

月26日（木）午後6時　市政会館前　統一行動40人参加。東京土建に合流して国会前，米大使館前デモ。

5月28日（土）　26日の一部有志が集まつて安保問題こん談会を企画。

5月30日（月）午後6時半　中央労政会館　日本ジャーナリスト会議山田昭氏を囲んで50人集まる。これからのわれわれの方針について語りあう。五期会有志参加申し込み，当日カンパ。

6月 2日（木）夜　於本郷「ルオー」当面の活動準備の世話人会をつくる

6月 4日（土）6時　市政会館前集合　「民主主義を守る建築会議」を結成し，声明書を発表。

6月 7日　午後6時　於「ルオー」　建築会議としての今後の方針検討，6月11日の統一行動参加決定。

6月11日　市政会館前集合　安保批判の会に合流してデモ参加，当日カンパ。

6月14日（火）午後6時半　於本郷学士会館　「民主主義を守る建築会議」拡大世話人会。

6月15日　午後6時　市政会館前集合統一行動参加，右翼団体のデモ隊への乱入，警官と学生の衝突などによる流血，女子学生死亡，負傷者多数，不穏な空気のなかで建築会議デモ隊国会前通過，米大使館を経て数寄屋橋解散。

6月16日（木）午後6時　お茶の水「ジロー」集合　その後「格」事務所で集会。世話人会を開き，6月15日のデモと流血事件に関する情報交換。警官の横暴，マス・コミへの不信，ファッシズムへの傾斜などについて話合う。

6月18日　デモを前にして，建築会議の活動方針を反省検討した。

活動方針項目

（1）この運動についてのトータルイメージを確立しながら，一つ一つ行動を位置ずける努力をする

（2）統一戦線への組織化

（3）建築内部での組織拡充

6月17日（金）　昨夜の運動方針にしたがつて有志動く。

（1）　国民会議で水口氏と会見，統一戦線への要望を伝え，デモについての技術的提案をする。結果は国民会議内部で分派的傾向があり統一戦線への傾向なし。社会党へも同様趣旨を伝える。金2,000円，建築会議からカンパを渡す。

（2）　前川氏に15日までの事情を説明し，とくに6月15日の市民権じゆうりんの実話を伝える。夜，世話人会。7時格建築事務所，報告，反省，方針の検討。翌日のデモについては，われわれとしては一般の人もデモにさせよとの提案があつたが，右翼，暴力団の動向が激しく責任がとりきれないという理由で見送る。河上丈太郎氏暴漢に刺さる。カンパ200円。

6月20日（月）　安保批判の会代表者会議。22日のデモについて討議。建築会議は長期斗争についての総合的イメージの確立と統一戦線の組織化，2点を要望。夜，世話人会。7時格事務所，長期斗争を前にして建築会議の組織について討論，22日ストの側面援助を安保批判の会で行なうことにする。

6月22日（水）6時　市政会館安保批判の会とともに国会前で国民統一行動に参加。国会，警視庁前，日比谷，数寄屋橋，京橋，八重洲口で解散。

6月24日（金）　樺美智子さん国民葬，建築会議も参加。

6月27日　平松事務所　世話人会，6時30分　建築会議の今後の方針について討議。当面の問題として，大会をもつこと，勉強会をもつこと，いままでの資料を整理することを決めた。

6月29日　お茶の水「ジロー」　勉強会の打ち合せを開く。

7月 1日（金）　国際建築，資料整理打ち合せを開く。2日のデモについて打ち合せ。

7月 2日（土）　統一行動のデモが2度あつた。午後1時組と6時組に分れて参加した。6時組80人。フランス式デモ，そのあとレポート作成グループが集まり原稿をまとめた。

10月14日　第1回定例世話人会於四谷ボンジユール。

10月15日　浅沼事件抗議デモを行ない，総評の統一行動に参加する。

10月20日　国民会議の統一デモに参加。

11月 1日　第2回定例世話人会

11月12,13日　民主主義を守る建築会議の親睦のため，西多摩霞檜原村数馬に一泊旅行。

11月15日　西山，田辺講演会準備委員会，実行委員選出。

12月 6日　第3回定例世話人会

12月13日　西山，田辺講演会於明大南講堂。

1961年

2月 7日　第4回定例世話人会。3月4日右翼テロに抗議し言論表現の自由を守る集会に参加する。於社会事業会館。集合後，デモを行ない国会陳情に趣く。

5月27,28日　親睦旅行を行ない，千葉県養老渓谷に遊ぶ。以後毎月1回定例世話人会および1ないし2度の臨時世話人会をもち現在にいたる。

（筆者　田巻：国際建築編集
田中：前川国男建築設計事務所）

新　建　築　家　集　団（N　A　C）

新　建　委　員　会

1.　NAU大阪支部の時代

1—1　綱領をもった建築運動

新建築家集団（NAC）は，新日本建築家集団（NAU）大阪支部— 1948年結成 —の一切の物質的精神的遺産をひきついで，新しく1960年に再発足したものである。

NAU 本部が，1951 年ごろに自然解消の形をとって以来，大阪支部は事実上 NAU の唯一の組織として，かつ「綱領」をかかげた建築運動団体として活動してきた。

戦後の日本の建築運動歴史上に，NAU の果した役割は大きいものであった。それが1951年ごろに東京の本部がたち消えたことは何といっても惜しまれることであった。もちろん，その後は NAU の各班，各部会，各グループがそれぞれの立場で活動し，また，それらで結成された「建研連」の活動という形で，建築運動をつづけてきたことは特筆されねばならない。しかし「綱領」をもって運動する組織として，かつ NAU の組織を守りつづけたものとして，ここにささやかではあるが，NAU 大阪支部の活動と綱領を示す。これは中央の NAU がなくなったから，1951年以後は日本の建築運動にとって「綱領」をもたなかった，と東京ではいわれるかも知れない点に対して，それは誤りで決して「綱領」をもった建築運動は中断したわけでないことを示したいからである。またそれが，現在の新建築家集団（NAC）の姿につながるものである。

1—2　各年代の綱領

まず，各年代の綱領をかかげる。1951年までは，NAU 本部の綱領が，もちろん大阪支部の綱領であった。すなわち，

- 1947年 6 月28日（本部総会決定）
  1. 建築を人民のために建設し，人民の建築文化を創造する。
  2. 建築についてのすべての問題を大衆のなかで解決し，実践する。
  3. 建築界全般をおおう封建性と反動性を打破する。
  4. 建築技術者の解放と擁護のために斗う。
  5. 全国にわたる建築技術者の組織的結集を実現し，さらに海外の建築技術者の進歩的運動とていけいする。
  6. 人民文化建設のために斗うすべての運動と協力する。

- 1951年 6 月 9 日（本部総会決定—スローガン—）
  1. 平和建設に全力をつくそう。
  2. 正しい建築技術のかくとく。
  3. 研究費の増額と民主的配分。
  4. 住宅審議会へ新建代表を送れ。
  5. 学界の民主化
  6. 姉妹団体，民主団体と手を結ぼう。
  7. 日本の国宝は日本人とともに。

しかしこれ以後は，本部のないままに大阪支部独自の綱領を支部総会において決定してきた。すなわち，

- 1953年10月13日（大阪支部総会決定）
  1. 国民に奉仕する建築家になろう。
  2. 建築文化の植民地化に反対し，民族文化を創造しよう。
  3. 建築界の民主化を図ろう。
  4. 内外の友誼団体と手を結ぼう。
- 1956年 1 月 8 日（大阪支部総会決定）
  1. 国民のための建築活動をしよう。
  2. 建築界の民主化を進めよう。
  3. 建築技術者の生活を守り，地位の向上に努めよう。

1—3　主な活動

われわれは，以上のとおり，3 年おきぐらいに新しい綱領をもったことになる。これをここに記すに若干感慨なきをえない。それは，その年代のそれぞれの社会的条件が身をもって感じられるからである。NAU の組織を守りつづけてきたということのなかに，そのような歴史的条件をきびしくうけているし，その歴史的条件から生まれるあらゆる無形・有形の苦難と，またそれを克服していく喜びとが入りまじっている。

具体的な方針はそのつど，総会なり委員会で問題になり提示されているわけである。たとえば，水害の問題や住宅の問題，民主団体との提携の問題，その他いろいろの形で提示されたが，ここには1956年以降の主な活動を簡単に記すにとどめる。

1）共　同　設　計

以前に尼崎市文化会館の共同設計を行なっていたが，1957年より尼崎市立図書館の共同設計をすすめた。これらの共同設計で得た設計料の一部を基金として残したことは，こんにちまでの活動財源を支えたものとして貴重である。

2）例　会　活　動

① 市民は建築家に何を望むか，民衆と建築家との関連について市民をまじえて討論会
② オーデイトリアム研究会
③ 都市再開発，住宅対策等の討論会
④ 将来の建築界の動向シンポジウム

等々がみられる。例会参加延人員は，各年150名をこえた。

3）建築労協，建築インターへの協力

4）全国的統一への呼びかけ

これは，もし建築運動団体として，全国的なものに統一できる組織ができれば，NAU大阪支部もそれに連合して，会名の改称もその組織にしたがう。そういったことを真剣に考えた。その間，東京では，「建研連」以後の建築インターの活動，総評会館設計の運動を通じて「建築会議」の結成の動きもみられたが，それもうやむやの形で，東京と大阪とは緊密な連繋をとる体制にいたらず，この統一化の動きは挫折した。NAU大阪支部としては，とりあえずNAU京都支部，NAU鳥取支部らとNAU連絡協議会を設けていたのであった。

2. 新建築家集団（NAC）として

2—1 創立総会

1960年には，安保闘争があり，一部の会員はそれぞれ個々に民主団体や組合と一緒に参加した。しかし，NAU大阪支部のままではもはや活動できなくなった。本部のない支部とはおよそおかしいわけで，このことが，いままで問題になりながら，強いて改めなかつたのは，統一の組織ができてから改めるという態度を持つていたからにほかならなかつた。さきにのべたように，この統一化の動きが種々の事情でできぬにしても，もはやちゆうちよすることは許されなくなつたわけである。

そこで，NAU京都支部，鳥取支部の会員も含めた新しい組織として新発足するための準備委員会をつくり，綱領草案その他について数回協議を重ねた。準備担当委員には，上林，田代，松井が選ばれ，それぞれ分担して処理に当った。そして，1960年11月20日，宝塚の中山寺で新発足の総会を開くことができた。この折の参会者は18名であったが，発言が多くて，50人ぐらいの会合だったという人もあった。これは，いわばNAU大阪支部の閉会式でもあり，かつNACとしての創立総会であった。当時の会員数は63名。

2—2 会名

この会合で，会名をどうするかで，ずいぶんもめたが，つぎの数案がでた。

新建築家集団，日本建築家集団，社会建築家集団，新建築家クラブ，建築家集団，関西（近畿）建築家集団…結局，圧倒的に賛同の多い「新建築家集団」と決定した。略称は新建，英字名はNAC（NAUのUnionをCircleに改めて，New Architect's Circle）としたものである。

2—3 会の方針（綱領）

この総会において，綱領草案をめぐって議論が白熱したが，結局，一部修正削除されて，つぎのような「会の方針」が決定した。

1.建築を社会の発展とつながりのなかでただしくつかもう。

2.国民の平和と幸福のための建築創造をつよめよう。

3.都市計画に関心をもち，あたらしい都市の姿をえがきだそう。

1.は建築技術者のアプローチ（哲学）を示し，2.は建築創造のあり方（実践）を示し，3.は建築の総合として都市計画ないし都市建設に強い責任をもつ，ということである。

「綱領」ということばも，建築技術者にとってはむつかしいというので「会の方針」としたもの*。

2—4 例会活動

1960年11月20日より新発足してから，第1にとりくんだカンパニアは ①「西山卯三中国帰朝報告会」（1960年12月）であった。これは157名の参会者をみて盛会であった。この報告会を軸にして，後でのべるように「日中建築交流センター」の結成へと運動を進めていった。

そのほか，開催した主な例会を列挙してみる。

②ル・コルビュジェ討論会	参加者	31名
③住宅量産化をめぐる討論会	〃	25名
④阪神都市圏と住宅問題討論会	〃	22名
⑤女性建築家との懇談会	〃	38名
⑥建築学生会議との懇談会	〃	16名
⑦労働者住宅，都市建設をめぐる討論会	〃	20名

（新建・労住研より3名がチューターとなって，関西国民文化会議で討論したもの。）

2—5 部会活動（組織活動）

1960年11月の第1回総会より，1961年11月19日の第2回総会までの1年間に，重点的に部会または組織づくりとして活動した方向は3つある。

第1は「日中建築交流センター」設立準備のための活動である。

第2は，新建会員で事務所を経営している者による「新建設計事務所連絡会」の結成である。

第3は「労働者住宅問題研究会」の結成である。

この「日中建築交流センター」ならびに「労働者住宅問題研究会」は，ともに新建から独立した友好団体として発足したが，いずれも新建会員が中心となってつくられたものであり，今後もお互いに協力していきたいと願っている。

都市計画部会は，つくるといいながらまだ具体化されていない。

2—6 民主団体との提携

まず第1に，新建としてはじめてメーデーに参加した

ことであった。新建の旗と「都市計画は民主的に／国民のための都市建設を／」「厚生年金で労働者のアパート大量建設」などのプラカードをかかげて，民主団体と一緒に十数名参加した。

第2に，毎月，建設関係の労組（全建総連，住宅公団労組，建設省労組，日建協）と懇談会をもっている。

第3に，労働者住宅問題研究会の活動などを通じて，関西国民文化会議や総評の組合との提携が考えられるようになったこと。

2—7　新建設計事務所連絡会

従前から設計事務所を経営していた会員，新しく独立して事務所をもつにいたった会員らで結成されている。現在10事務所が参加しているが，これはお互いの設計事務所が協力しあって，設計技術，経営，所員教育，設計体制，協同組合等々の問題について意見交換しあう会であり，将来，新建で共同設計する場合の主体となるものと考えられる。

毎月，例会をもっているが，現在までに討論または行なわれた点は，標準図面の資料配布，所員教育，中小企業協同化問題等々である。なお，1960年8月には，この会で共同リクリェーションとして，各事務所の所員ら約60名が，六甲山上で一晩をたのしく過し，お互いの親睦を深め，サークルらしいふんいきをもった。

2—8　労働者住宅問題研究会（労住研）

さきにのべたように，新建の友誼団体として1961年初頭に結成され，ほとんど全員が新建会員である。労働者の立場から，働く人々の住宅問題，都市建設について研究するを目的としている。実際に，労働者住宅協会の団地設計に協力している。具体的に京都府城陽町団地のマスタープランを作成する活動をおこなった。また労働者住宅のあり方から，管理問題，社宅問題ならびに住宅生活協同組合の組織運動などを検討しつつある。今後は，住宅問題を通じてもっとも労組との提携が深くなるものと信じている。

2—9　日中建築交流センター

これは第1回総会でも問題にされ，またさきにのべたように「西山卯三中国帰朝報告会」以後より，ぼつぼつ準備を進めたものである。とくに1961年6月以降，設立準備会をたびたびもったが，最後に発起人会をもって設立をよびかけ，さる11月10日正式に設立総会を開いて発足された。この会の設立に新建として大いに協力したわけである。今後の発展をのぞんでやまない。

3.　第2回総会をむかえて

1961年11月19日に京都府宇治において，NAC第2回総会を開催する。この総会において討議される活動方針案をつぎにかかげる*。

1）　建築技術者の社会的地位の向上

建築技術者として主体的には，やはり広汎な識見と技術の高度化につとめ，建築創造を社会の発展，人民の平和と幸福をつくるという態度のなかで行なっていくことが大切である。具体的には，新建の建築運動と民主的大衆運動との統一提携を強めるなかで，とくに都市計画における民主的指導，住宅建設等の運動をすすめる。これを通じて，建築技術者の社会的地位の向上をはかる。つまり地域社会の住民あるいは労組，民主団体などの社会層から建築技術者の積極的役割がみとめられるよう活動することがこれから大切ではなかろうか。

2）　会員の組織強化と拡大

組織的にはこれは大切なことであり，いわゆる東京でいわれる「組織なき組織」という考え方は正しくないと思う。グループ的カラを作らぬよう，会員の拡大をはかる。

3）　建築教育活動

会員の研究活動を高めるとともに，建築労働者の技術教育機関の設置を考える。ロンドン夜間民衆大学，大阪労働大学等のように，働きながら建築技術を学びたい人々のために学問の機会を与えていくものをつくる。これは，新建内部だけではすまされないので，全建総連，全日本建築士会等の後援をえて「建築技術大学」あるいは「研究集会」でもつくるよう働きかける。

4）　協同設計体制の強化

これからの設計のあり方，あるいは設計事務所のあり方を真剣に考えていく。このため，協同組合の問題，協同設計の体制をたかめていくこと。「新建設計事務所連絡会」の役割とその発展をはかる。

5）　日中建築交流センターの強化。

6）　友誼団体との提携交流

今後も，建築事務所労組，建設労協，建築労組懇談会，労住研，学生会議，関西国民文化会議，民主主義を守る建築会議等々と提携する。

7）　機関紙，出版活動

8）　事務局体制の強化

×　　×　　×

以上，新建築家集団（NAC）の活動をお伝えした。NACは現在，約100名近い会員をもっているが，研究活動を中心とした建築運動団体として，綱領にのっとって，今後も建築技術者への働きかけと，新しい協同設計体制の具体化と，同時に労組などの民主団体との提携交流をつづけていきたいと願っている。

* 第2回総会において，「会の方針」ということばを「綱領」にあらため，また綱領3に対して「国土を荒廃から守り，住みよい国や都市の創造のために力を合わせよう」という意味の修正意見がだされた。さらに「活動方針案」に対してもいろいろ意見がだされたが，これらの文案作成については，新しい委員会に付託され，目下検討中である。

（新建委員　松井昭光記）

日本建築学生会議　—その歴史と展望—

日本建築学生会議関西ブロック

日本建築学生会議規約前文

「建築という同じ世界に生きる全国の学生が手をつないで，当面するさまざまな問題や希望をとりあげ，相互に研究討議して解決の道を見いだし，伝統の上に新しい生命を築きあげるため，われわれは日本建築学生会議を結成する」

昭和28年に発足した関西建築科学生会議が関東の組織と合併し，発展的解消をとげ，日本建築学生会議（以下学生会議と略す）が昭和30年に発足して以来，はや7年を経過したが，いままで系統的に過去の遺産，伝統を摂取し，今後の活動のために積極的に取り入れる努力が欠けていたのではないかと思っている。

今度，日本建築協会の好意で「建築と社会」に紙面が与えられたのを好機として，種々調べたことを　1）発足当時の事情　2）いままでの発展過程　3）今年度の活動方針　4）今後の展望　に分けて書いてみる。この一文が今後学生会議が飛躍的に発展する下地となり，建築界の人々に学生会議を知っていただく資料となることを期待している。

1.　発足当時の事情

昭和28年以前に，関西には学生の連絡機関が新日本建築家集団（ＮＡＵ）所属の学生の提唱で結成されていたが，種々の事情のためにその活動は停滞していた。一方当時の社会状勢は，ビキニ水爆実験，MSA協定調印等の一連の動きに敏感に反応し，抵抗の姿勢は取られていた。その主体となるべき民主勢力は，メーデー事件，破防法闘争にみられるように，国家権力をもってする弾圧と威圧のなかで苦しい闘いを続けてきたが，誤った指導のためにまったくの低調におちいり，真に人民大衆の幸福をこの苦しい情勢のなかで獲得していくだけのエネルギーをまだ持つまでにいたらなかった。

これは建築界においても例外でなかったどころか，いままで存在してきた種々の民主的団体（NAU，五期会）は空中分解を起し，その成員は朝鮮戦争後の建築界の好況のなかへ，自己を社会と隔絶した形で，建築それのみを目的とした形でとけ込んでいったのである。

しかし，すべての建築家がそうだったのではない。こういう民主勢力の低調さ，こういう建築界の動きに不満を感じていた若手研究家の間に「建研連」が結成され独自の活動がなされ始めていた。そして，学生層はこの建研連の動きに刺激されていた。

ちょうどこのとき，ローマより第2回国際建築学生会議の招請状が，国際学連—全学連を通じて東大の建築学科に持たらされた。これを契機として関東では地区所在校に有志の人々の努力で連絡のためのシステムが作られた。一方，関西では連絡機関が発展的に関西建築科学生会議に拡充，強化されていった。

この両組織に結集された学生は，自分達の主張をこのローマ大会のテーマ，①カリキュラム　②就職状況　③国民的伝統の問題　④学生生活の経済状態　を利用して表現しようとし，そのため関東，関西の両組織が手を取り合ってレポート作成，代表派遣の準備にまい進した。

そして，その活動のなかにおいて全国的組織の必要性が，その組織が潜在的に持つであろう可能性が充分理解されてきた。

関東では NAU の一部会であった農村建築研究会の下に意識の高い学生が多数参加して農村調査が行なわれていた。関西でも NAU に参加していた学生は「真に民衆のための建築とは」と研究活動を続けていたのである。

これらの学生達は，前述のごとき社会情勢のなかで学生の要求を，また自分達が正しいと思う方向を強く社会へ，建築界へ訴える組織，自由な立場，視野で研究できる組織を学生会議にイメージしたのである。

当時，建築科の学生達は大学院生と協同して種々の調査を行ない，これを通して相互間の親睦を行ない，また社会の実態をはっきり認識し，そこでの問題を建築家としていかなる態度で取り扱い，いかに解決していくかを熱心に追求していた。だから彼等が学生会議にそういうイメージを画いたこと，スムーズに組織作りが進行したことは理解できる。

2.　いままでの動き

発足いらい海外的には

1．1954年第2回国際建築学生会議ローマ大会，代表

派遣

2. 1955年第3回パリ大会，レポート
3. 1957年第4回コペンハーゲン大会，レポート
4. 1958年第5回レニングラード大会，代表派遣
5. 1959年第6回ハノーバー大会，オブザーバー派遣
6. 1961年第7回メキシコ大会，代表派遣，日豪建築学生会議，代表派遣

と各界諸氏のご理解あるご援助の下に，学生会議の一つの大きな活動目標である国際建築学生会議に積極的に参加することができた。とくに毎回持参していったレポート，パネルは最優秀との折紙をつけられ，国際的に日本建築界の名を高めた。

また，その作成に参加した会員はそのなかで学校のなかだけでは絶対得られぬ刺激を受け，経験をつんだ。そこから意識の高まった会員が輩出し，活動家となっていった。

一方国内では，国際建築学生会議へ持参するためのレポートの作成のみならず ①富士山麓地方農村調査 ②あやめ池での住宅展 ③鳥取周辺農村調査 ④戦災都市復興についての調査 ⑤建築教育についての調査，研究 ⑥連続シンポジウム ⑦全国コンペ ⑧統一テーマによる共同研究（関西） ⑨20.6C ゼミ（関東）等と学生会議本来の姿である研究団体としての役割を果してきた。学生会議はいままで，その存在，価値を上に列挙した項目での種々の活動を通じてのみ守りつづけてきたのである。とくに農村調査，住宅展が学生会議に与えた影響は非常に大きく，全国の仲間が同一目標に向って同一場所で調査，研究，討議を行なったなかから現在われわれが断片的な資料で伺い知る学生会議の性格，考え方が生まれたのである。

これを知るために，第2代全国委員長保坂陽一郎氏が書かれた文章があるのでここに要約しておく。

「建築を学ぶ学生の一人一人が強く高い意識を持って会員のなかに深く広く浸透し，全体の意識を高め，国際的な関連のなかに日本の建築学生の動きを発展させねばならない。建築がただたんにその時代の影響で変わるものではなく，歴史的な場のなかで社会との対決の場のなか，その時代での建築の性格の決定がなされるのである。

その性格の決定に際し学生は大きな役割をになう。だからわれわれ学生は，その社会的役割と立場をはっきり認識しなければならない。それは日本建築学生会議という全国的組織を通してより客観的になされる。

そのためわれわれは，親睦を通じて全国の仲間を知り，その建設的批判と前向きの言論と行動を組織していかねばならない」

この方針がいつまでも続けばあまり問題はなかった。ところが1956年，全学連の活動方針に代表されるごとく，民主勢力の自信とエネルギーの喪失は学生会議の指導層にも影響をおよぼし「歌え，踊れ」が学生会議の活動方針となっていったのである。

このようなサロン的活動は後刻完全に批判され，克服されねばならない。他の民主勢力の間では，このような大衆追随主義がなんの創造的な成果を持たらさぬばかりか，自己の活動の範囲を自ら狭めていっているのが適確に指適されていた。しかし，学生会議では組織の未整備という理由でこの本質的な欠陥は見送られていった。

ここに一時的にせよ，その後の学生会議の活動が低調になった原因があるのである。

その他全国大会，講演会，見学会，全国卒計展を開きそれなりの成果をあげてきている。また，機関誌「核」が定期的に発行され，つねに意識の高い会員の努力により新鮮な問題を提起してきた。実際この「核」の編集のみを1年の主活動とした時期もあったのである。

しかし，このような何等創造性を養い得ぬ，また一般会員の要求を正しく汲みあげ得ぬ状態で組織が充実するわけがない。毎年，組織の充実のため会員へのアッピールを行なってきたが，前述のごとき姿勢では会員が学生会議に魅力を感じるわけがない。

そこで，昨年より研究的な企画が全国的に打ちだされ，この活動を通じて下部組織の充実をはかり，指導部からの適切な指導と相まって，素晴しい効果が現われることが期待される。

この方針が打ちだされてからまだ1年間しか経過していないので成果は確言しかねるが，会員の学生会議への関心は相当高まり，新しい活動家が生まれてきている。

3. 今年度の活動方針

今年5月初旬，鹿児島で開かれた全国大会終了後のブロック委員長会議に全国執行委員会より，あらゆる可能性を追求し，そのなかにおいて学生会議の組織の充実をはかる，という昨年度の方針の全面的継続が基本的態度として表明され，つぎの活動方針が提案された。

1. 第7回国際建築学生会議に代表を派遣する
1. 資料の保存，整理を行なう
1. 全国交流の場を持つ

種々検討の後，6月初旬に承認された。

一方関西ブロックにおいては，代議員会で昨年度の活動方針——学生会議は建築を通じて大衆に幸福をもたらしうるものを追求する活動を目的とし，これをあくまで会員の積極的な支持の下に，全会員の主体的な動きのなかで発展させる——を種々検討した結果，全面的に受け入れた。

執行部ではこのことを，また第1回代議員会において関西ブロックが「全員を対称とする親睦であると同時に，意識の高まった会員の間で分科会を持つ」と規定さ

れたのを考慮しつつ，つぎの3点を基本的態度とした。

1. 積極的な意味での親睦をはかり，そのなかから新しい生命を創造しうるよう努力する。
1. われわれの活動を通じて学生会議の存在とその意義を示し，認識と理解をはかる。
1. 社会的な目を持つ建築家が生まれるよう努力し，その人達の活動できる場を作る。

執行部では昨年度の活動のなかから教訓を得，よりよくこの目標が達成できるよう，つぎの活動方針案を提案した。そして数度にわたる代議員会の討議の結果，この活動方針が採択された。

1. 情宣機構の整備，強化。
1. ジュニア生への徹底的アッピールと活動家の養成。
1. 統一テーマによる共同研究を通じ，支部活動を強化する。
1. 連続シンポジウムを行なう。
1. 分科会を発足させ，強力に育成，援助していく。
1. 他の研究団体と手をつなぎ，研究機構の充実をはかり，学生会議の質的向上を図る。

われわれ関西ブロック執行部は，以上の方針が歴史的にみて正しい方針であり，これらの事項がぜひ実行されねばならないと思っている。

昭和36年度も半年を経過したいま，われわれはこの方針の正しさと完遂の必要性をますます強く感じている。

会員が学生会議に発足いらいイメージしていた本質とは窮極研究団体であったと思う。このことを再確認し，実現していく手段として，この活動方針は非常に大きな役割を果している。

沈滞期をぬけだし，本当に学生会議の必要性を会員のみならず，建築界，一般社会にも認識してもらうには，われわれ学生であるということをはっきり認識した上で，社会の人々と協力し，真に人民のための建築，新しい時代の建築像を画き，それの実現へ向って一歩一歩進んでいくことである。

いま，われわれはそれに向って組織作りをしているのである。

4. 今後の展望

今後の学生会議のいき方を考える場合，もっとも大事なことは，学生会議規約前文との関連性において把握しなければならないということである。なぜなら，この規約前文は当時の社会情勢の下において自分達の生活のすべてを圧迫されていた会員達が，社会の矛盾と鋭く対決したなかで得られたものであり，学生会議が持たねばならない性格を述べているからである。

その性格とは，研究団体としての性格である。

また，学生会議を研究団体として初めて，学生会議の存在と意義が明らかになってくる。

所得倍増というようたい文句に世間はつられ，経営者的意識を持つホワイト・カラーも多くなってきた。そして，矛盾はますます激化してき，二重構造，差別待遇はその解消克服が叫ばれるなかでますます強固になり，即建築化されている。

本当に人々の幸福のために必要なことでも，独占資本の要求と合致しないものはそれだけの理由で後回わしにされ，ますます建築環境は悪化していっている。

現在は，このように社会矛盾の激化に伴なう種々の現象が建築にも大きく現われてき，われわれを社会人としてのみならず建築家として縛りつけようとしている。

こういう認識の上でその根本原因をつかみ，それを克服していく過程において研究団体の性格が得られると思う。このためには，昨年，今年と採択され遂行されてきた活動方針を今後とも継続して行き，その遂行のために努力していくならば，非常な短時日のうちに研究団体としての性格と地盤が得られる。

また　研究の結果，当然われわれは正しい一つの結論にたどりつくであろう。そして，社会ではそれが倭曲化されているか，全然行なわれていないのを見いだすだろう。

このとき，学生会議の果すべき役割は？

いうまでも，研究から得られた正しい結論が実現されるよう行動を組織し，全会員をバックとして社会へ訴え，その実現をかちとっていくのがその役割であり，任務である。

全国建築科の学生がこの組織に結集しているのも上述のごとき学生会議の性格を理解，認識し，その果し得る役割の大きさを理解しているからである。

学生会議創立当初，会員によってイメージされていた自由な立場，視野で研究討議し，その活動のなかから生まれた結果，要求を社会へ，建築界へ訴え実現さしていく組織——これが学生会議の窮極の目標である。

今年度活動方針でもわかるごとく，現在それに少しでも近づこうとしているし，学生会議は今後より強力にこの方向へ動いていかねばならない。

われわれ学生会議会員はこの動きの原動力として活発に活動していくつもりである。

× × ×

最後にこの一文を書くにあたり，種々資料の提供，助言をいただいた先輩諸氏に厚く感謝いたします。

なお，誤っている点，資料不足の点等お気付きのことがありましたら，ぜひお知らせ下さるようお願いいたします。

書記局・大阪市立大学家政学部住居学科石堂研究室内

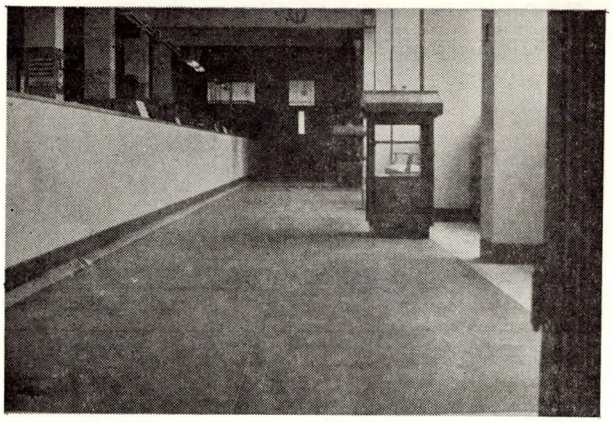
（文責　田中　康夫）

床には色を！

カラ・クリート

コンクリート床美装仕上材

新しいコンクリート床美装仕上材「**カラ・クリート**」があらゆる建築に繁用され好評を博しています。**カラクリート**は耐磨性の大きい硬質骨材の粗粒子を主体とし、これに特種薬品、顔料を配合した「**床打ちと同時に仕上る**」床材で既に全国数百の**小・中・高等学校、大学、ビル、商店、工場、病院、公会堂の床、廊下、階段、バルコニー、ロビー、ガレージ ガソリンスタンド、住宅の玄関、タヽキ、浴室等に広く用いられています。**



カラ・クリートが近代建築に注目されている理由

(1) **耐磨性が大きい**ので学校等、交通量の多い所に最適。
(2) **色が美しい**のでカラーコンデイジョニングにも絶好（緑、赤、茶、小豆等10種以上）
(3) **耐水性**を生かして屋外風雨に曝される所に**好適**
(4) **床打ちと同時に仕上る**ので工期が短縮（下記施工法参照）
(5) **手頃な価格** { 緑 m² 当り ¥ 360円 / その他の色 m² 当り ¥ 300円 }

サッシ廻りの防水に

ABCコーキング

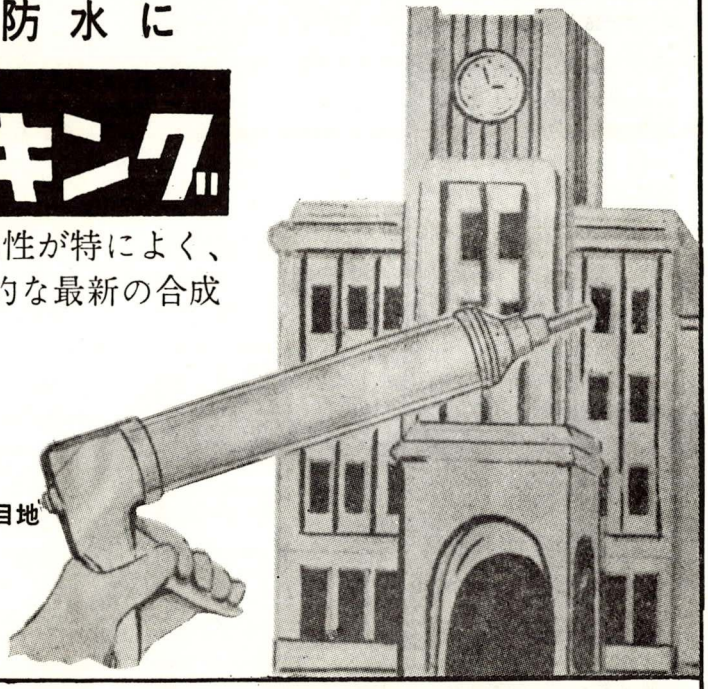
ＡＢＣコーキングは内部粘性が特によく、耐久性があり、しかも経済的な最新の合成ゴム系コーキング剤です

サッシ廻り
エキスパンションジョイント
フレキシブルボード廻り
プレキャスト結合部
その他亀裂、ＰＳコンクリート目地

にＡＢＣコーキングを御使用下さい

包装及価格

18 ℓ 缶入 8,500円（現場渡し）
3.6ℓ 缶入 1,800円（ 〃 ）



詳しい説明書をさし上げます本誌名を記入の上お申込み下さい

（株）ＡＢＣ商会

本　　社	東京都千代田区永田町２－７７	TEL（581）　1411
仙台出張所	仙台市名掛町５６番地（日吉ビル）	TEL（２）2288・（５）3077
札幌出張所	札幌市北２条東２丁目（浜建ビル）	TEL（3）　8261
名古屋出張所	名古屋市中区南久屋町３丁目12番地（中央建材工業）	TEL（24）　5563
大阪出張所	大阪市西区京町堀1／126（京町堀会館ビル）	TEL（44）0500・3915・9303

明治高楼建築

1. 小　序

江戸時代以前には，もちろん塔婆や，城郭の天主閣などの宗教的または軍事的な高層建築があった。しかし明治期に建った楼閣は，まったく世人眺望遊覧のためのもので，外観も種々あった。また技術的には在来の伝統的手法を生かすとともに，外来法も十分に取り入れられた。これら高楼建築を表示すれば，**別表**のようになる。さて，現在知られている限りで，最初に建った高楼建築は，明治10年5月8日付，新潟新聞によると，新潟**五階楼**の料亭である。

この料亭は，本港早川町の割烹店主，早川正利が建てたもので，これ以上の資料は残念ながら不明である。

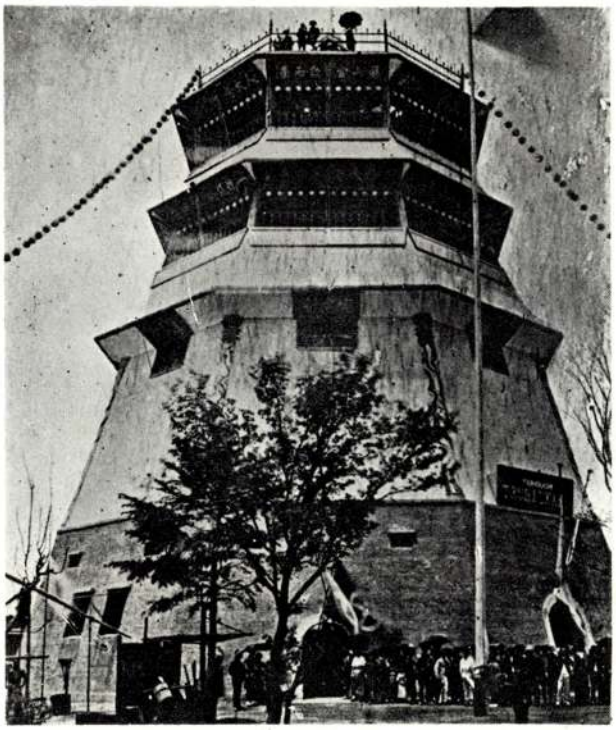
これより10年後に，高楼建築の黄金時代が訪ずれる。

2. 中期の高楼建築

眺望閣（五階）が建ったのは，明治21年7月である（**写真1**）。当時，日本橋4丁目附近に，私立有宝地遊園があって，その中央に内部五層の高楼が建てられた。平面は8角形で，上部二層は洋風手摺子のついた吹き放ちベランダで，屋上も展望台になっていた。プロポーションは，不思議な形をしており，下層の八隅の柱は，異様な紋様を画き，上部に珍形のキャピタルを置いている。構造は不明であるが，煉瓦を主体に，木造大壁造ではあるまいか。なお遊園地内に種々の売店があったが，「五階」がなくなった後も，「五階」または「五階百貨店」の名が残り，古物の商店街となっていた。

ちょうどこの頃浅草には，**奥山閣**や**仮富士**が建ち，大阪でも，**浪速富士山**が計画されていた。また，パリーでは，万国博覧会の中心塔として，エッフェル塔が計画中であり，明治20年代初頭より，高楼熱は盛んになってきた。この頃，大阪堂島の檀重三は，北野村茶屋に（現・阪急百貨店北200米）九階の楼閣を建設しはじめ，22年4月開業し，凌雲閣と称した（**写真2**）。この全景絵図が大阪城に所蔵されており（**写真3**），非常に珍品である。九階がどのような施設の中にあったか，これを見ればよく了解される。図中左下の門が正門で看板に「鷲の家」とあり，九階の左手に自転車競争場や弓場，右手の池畔に亭がならび，池の下に2階がコロニアル風の洋館の温泉があり，すべて3900坪の遊園地となっていた。

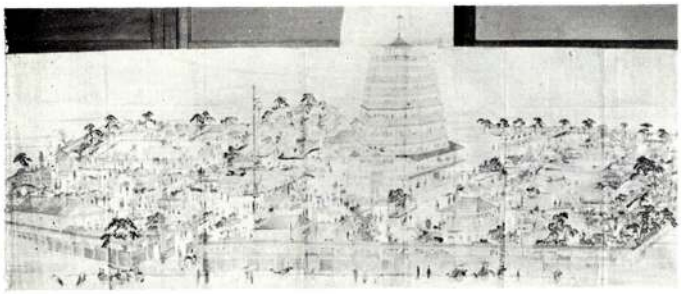
この絵図の九階は，**写真2**でみるのとは若干異なり，とくに最上階は和風に画かれているが，実際はサラセン風である。この楼閣の下部2層は13間四方の方形平面で，正面外観が洋風になり，他は和風で，料亭として用いられていた。その上6層は8角形で，恐らく螺施形に上って行くようになっていたらしい。最上階は時辰台（とけいだい）で，円形平面である。構造はやはり不明であるが，想像すれば中央部を煙瓦で築き上げ，廻りを木造（鉄骨？）で構成していたのではないだろうか。



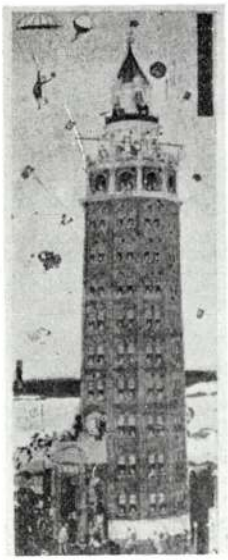
1. 眺　望　閣　（桐本楠雅氏提供）



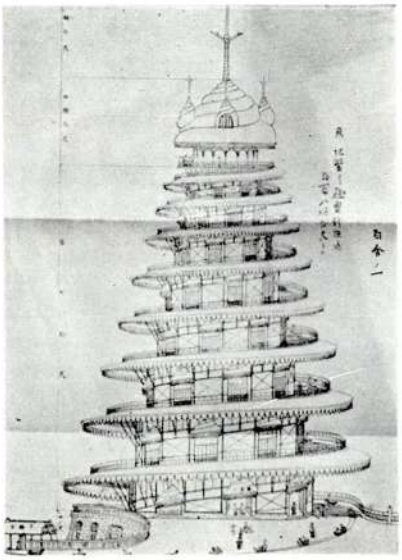
2. 凌雲閣9階　（桐本楠雅氏提供）



3. 凌 雲 閣 （大阪城所蔵）



4. 凌雲閣（明治編年史）



5. 螺 旋 塔 （建築雑誌183号）



6. 通 天 閣 （浪速区史より）

浪速富士山は，二重のデコレーションケーキのごときもので，螺旋形に上り，富士山のような絵をかいて山形にしたもので，今の生玉の附近に建てられた。これは，さびれた西高津村を繁栄させようとする村民の意もあり，単なる高い台にすぎなかった。

22年，パリーのエッフェル塔が，いよいよ完成するとき，浅草では，この塔にしげきされ，かつ大阪の九階に対抗して，煉瓦造の**十二階**を建設し始めた（**写真4**）。設計者は英人の大学傭教師パルトン，現場監督は，滝大吉であった。当初蒸気のエレベーターを計画していたが，のち電気に変えられ，エレベーター付高さ165尺という，正に日本一の高楼が出現した。その名称は大阪北野の凌雲閣と同じ名を付け，23年10月開業した。この塔の平面は，すべて8角形で，細長く下部の一辺の長さ25間，建坪30坪，9階が洋間で，他は外国商品などの陳列室であり，時に，美人の写真コンクールも行なわれた。

構法は，基礎を地盤下2丈のところに，長さ2丈の杉丸太を打ち込み，4寸松角材を筏地形とし，その上に下階で煉瓦4枚積，上階で2枚積とした。

こうして従来，田舎芝居や歌舞伎などの娯楽しか知らなかった世人に，まったく新らしいレジャーブームを巻きおこし，地方の松山にも九階楼が建つようになった。

3. 後期の高楼建築

明治35年，建築学会準員阿倍金太郎は，翌36年大阪で開かれる第五回内国勧業博に建設されるようにと，**螺旋塔**の側面図を作成し，建築雑誌にけいさいされた（**写真5**）。この塔は高さ282尺という非常に高いもので，浅草の十二階を約120尺も抜いていた。（因みに，東寺の五重塔は175尺）構造は不明であるが，側面は北野の九階と似ており，ヒントをこれに求めたと思われる。しかし，36年の博覧会には，実現せず，既存の眺望閣（五階）が眺望塔の役割を果した。

この博覧会は，36年3～7月の間，日本橋から阿倍野，天王寺一帯で行なわれ，敷地10万坪を第一会場に，堺大浜水族館を第二会場として開かれた。この後敷地が，天王寺公園と，ルナパークに分割され，45年7月3日，土居通夫，宮崎敬介らの大阪土地建物株式会社の手で，新世界ルナパークが開業された。このパークの中央に，社長土居通夫の一字をとった，通天閣がそびえ，他の白塔の間に，索道飛行船が通じ，足下には，数棟の活動写真館や動物園ができた。動物園は，のち大阪市の経営となったが，当時の園舎が多数存在している。

さて，通天閣は，設計設楽建築事務所，計算は土木技師，八田嘉明で，その高さ250尺鉄骨造で，実現した高楼建築中最大最高のものであり，かつ，明治高楼建築の最後を飾るにふさわしいものであった。しかし，第二次大戦中惜くも撤去された。かくて，東西高楼合戦は，西方大阪に軍配が上ったのである。

4. 高楼付建築

これまで，述べてきた高楼は，いずれも，高楼

が主で，その中に陳列室や料亭などを含んでいたものであるが，その逆に，ある目的の建物に高楼が附属している場合が，非常に多くあった。（例えば，旧大阪府庁舎，長野の開智小学校等々）そして，この系統に属して，遊覧施設とし，かつ高楼をまったく世人眺望のために附したものとして，**今宮商事クラブ**をあげることができる（**写真7**）。このクラブは，36年の勧業博が開かれるまでは，2400坪の私設遊園地兼勧商場であり，中心に洋風の館があった。この館は，5階建で，下2階が陳列場などの目的の建物で，附属して高楼を持っていた。構造は恐らく，主体煉瓦造で，1～2階はタスカン柱コロニアル式で，3階の切妻破風は和風であるが全体として，非常に優れた建物であった。

最後に，このような系統を引いた建物で，まだ大阪人の記憶に残っている，千日前**楽天地**をあげたい（**写真8**）。この建物は45年千日前の大火の後，旧歌舞伎座の以前に千土地株式会社が建てたもので，設計は，ルナパークと同じく設楽建築事務所，施工松村組で，大正2年10月起行，翌3年7月竣工している。構造は煉瓦および木造，4階建，1部地階付で，さらに上層ドーム上に登山閣と称する螺旋塔を置きその上が眺望台となっている。内部には，中央劇場，キネマ館，コドモ館などがあり，これらの上に高楼が附されていたわけである。

むすび

新潟の五階楼に始まる高楼建築は，20年前半に，エッフェル塔のしげきも加わり，東西その高きを競ったが，通天閣はこの合戦の最後を飾った。また一方塔屋から発展した系統の建物も，楽天地にいたり終止符を打った観があった。

このような高楼または高楼付建築は，高層建築構造の発展とその可能性の追求として，明治の人々の払ってきた努力に対し，大いに意義があったと思われる。

本稿を草するに当り，大阪史編集室主幹川端直正氏，同天主閣主任岡本良一氏始め，本会委員各位のご教示を得た。厚く御礼申し上げるとともに，なお多くの資料を欠いているので，会員諸氏のご教示を切望している。

参考文献
新聞「明治編年史」第4巻　第7巻
明治大正「大阪市史」第1巻
浪速区史
北区史
他に昭和10年頃の新聞切ぬき鷲谷樗風氏「大阪を語る」

（林野全孝記）

（別表）　参考年表

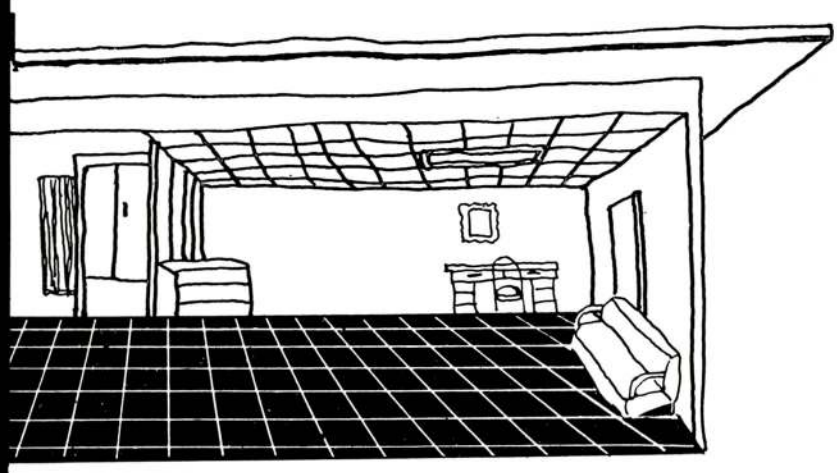
明治年月日	建物名称	所在地	高さ（尺）
10. 5. ×	五階楼	新潟本港早川町	—
21. 7. 13	眺望閣（五階）	大阪今宮村	102.6
21. ×. ×	仮富士	東京浅草	—
22. 4. 5	凌雲閣（九階）	大阪北野村茶屋	130
22. 9. 1	浪速富士山	大阪西高津村	120？
22. ×. ×	今宮商業クラブ	大阪今宮村	—
23. 10. ×	凌雲閣（十二階）	東京浅草	165
？	九階	松山	—
35. 3. ×	螺旋塔計画試案	建築雑誌 183号	282
36. 3. 1	第五回内国勧業博	於大阪	—
45. 7. 3	通天閣（ルナパーク）	大阪新世界	250
大正 3.7.×	楽天地登山閣	大阪千日前	—



7.　今宮商業クラブ　（桐本楠雅氏提供）



8.　楽天地　（政岡基次氏提供）



特　　長

1. すべらない　　2.摩耗に強く、長もちする
3. 他のビニールタイルに比べ、疵が目だたない
4. 衛生的且つ経済的である
5. 施工が容易で仕上が美しい
6. 伸び縮みがない

室内にデラックスなムードを
かもし出す高級床材

セカイチヨータイル

世界長

世界長ゴム株式会社

本社　大阪市大淀区豊崎西通り２の７　（37）0736



伊奈の
衛生陶器

伊奈製陶株式會社

本社・工場　愛知県常滑市扇面新田　電常滑700（代）
東京事務所　東京都中央区西八丁堀2－8　電（551）6371（代）
大阪事務所　大阪市西区新町南通1－23　電㊒5484（代）

カタログ送呈

コーキングパテ

ウヅラEO



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪 ㊼ 1494～4
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪 ㊼ ０４２６

パテタイル

世界に誇る驚異的建材！

ガスにも熱にもビクともしない！

40年の厂史と最新技術の産物

特許……耐酸・耐アルカリひふく鉄板

オリエンタルメタル

永久建材・超ひふく鉄板

スーパーオリエンタルメタル

新時代にマッチした色つきのひふく鉄板

オリエンタル カラーメタル

美しいアルミ箔ひふく鉄板

オリエンタル アルシート

型録送呈

責任施工

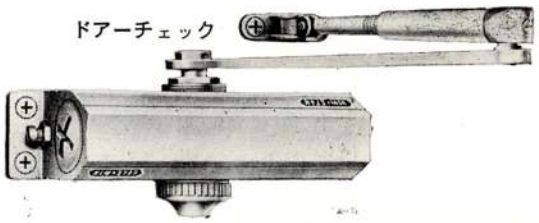
オリエンタルメタル製造株式会社

本社並工場　尼崎市大物北口　電話(48) 4947－9
東京支店並工場　埼玉県蕨市大字塚越１６２０　電話 蕨 3252～4
名古屋支店　名古屋市中村区黄金通８丁目６　電話(54) １０２３
支店、出張所　八幡・都山・敦賀・徳島・三原・徳山・延岡・岩国・宇部・川崎

NEW★STAR

創業大正八年

ドアーチェック



ラバトリーヒンヂ



ピポットヒンヂ



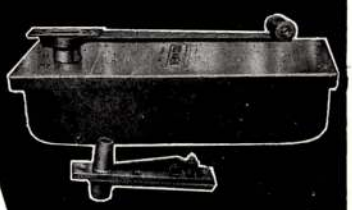
ピポットヒンヂ



ドアーチエック



フロアーヒンヂ



日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　大阪市生野区巽矢柄町２２２　電話　大阪（716）２２３１（代）
東京支店　東京都千代田区神田錦町１丁目２３　電話　東京（291）１９２０・４９２０
福岡出張所　福岡市舟津町１番地　電話　福岡（74）２３７２・３３１２
名古屋出張所　名古屋市中区下園町１丁目５番地　電話　名古屋（23）７３６１

!!待望の強力耐水性床用接着剤出現!!

その名は―ミケロンボンド-G-641

本品は優秀なる技術と伝統を誇る早川ゴムの再生ゴムを基材とした唯一の床用再生ゴム系接着剤（特願中）であります。

特　徴：―

1. 再生ゴムをベースとせる為ゴム系として**極めて廉価**
2. 従来に見られぬ**極めて優秀な耐水性を具有**
3. 従業性が**極めて良好**
4. モルタル、ベニヤと塩ビタイル、アスタイル、リノリウム、木タイル、磁器タイル等の接着に適し**塩ビの膨潤皆無**

詳細を知りたい方は是非御一報下さい、係員参上御説明致します。

早川ゴム株式会社

本社・工場　福山市松浜町９７の１番地　電話（代表）１３００
大阪営業所　大阪市西区九条北通１丁目10番地　電話（54）８９４１・８９４２
東京営業所　東京都江東区深川佐賀町１丁目24番地　電話（641）4601・9826・3029

ABCの建材

ABCコーキング

凡ゆる間隙から永久に漏水の心配を根絶する
永久に気密を保持する
廉価で耐久性のある コーキング剤

18リッター罐		8,500円（現場渡）
1cm×1cm×1m	材料費	48円
コーキングガン		3,000円（現場渡）

カラクリート

美しく，磨耗せず，滑らず，かつ耐水性に富んだ床材
床，廊下，階段，ロビー，バルコニー，ガソリンスタンド等美しい色彩と耐磨耗性を必要とする場所や，防水力があるので戸外にも使用出来る。

価　格　42kg袋入（6坪分）　現場渡｛緑 7,080円（坪当り￥1,180）／その他 5,880円（〃 ￥980）

フェロコン

工場，倉庫用コンクリート床仕上材
コンクリート床の金属性硬化材で，フェロコンの施工によって床は恰も鋼板を張ったような効果をあげる。

価　格　49kg袋入（7坪分）　現場渡｛色物 6,200円／ナチュラル 5,400円

コルキート

近代人の部屋には疲れをいやし，いらいらを取る壁材
合成ゴムとコルクから製造されたコルクシートで落着いた上品な感覚で，老化せず水洗出来る

価　格　坪当り　東京渡　2,200円　　寸法　3尺×6尺×0.7mm

ロビンスコンダクティブタイル

麻酔ガスの爆発を防止する手術室用電導ビニールタイル

- 常に一定の電導性を保証出来る
- 施工翌日から使用出来る
- 掃除、補修が容易である

K.K. ABC商会
東京都千代田区永田町2～77
TEL（581）1411（代表）～7
大阪出張所
大阪市西区京町堀通1～18（京町会館ビル）
TEL（44）3915・0500・9303

会　　報（10月分）

理　事　会

11日　4時—5時　　於　会館会議室
出席者　東畑副会長外10理事，早川監事
議事　（1）会館敷地借地料値上げに関する件
（2）第2室戸台風災害調査に関する件
（3）大阪府建築士会記念事業後援に関する件
（4）接着剤に関するパネル・デイスカッション共催に関する件
（5）海外建築事情視察団編成に関する件
（6）入退会者承認の件
（7）報告事項
（イ）45周年記念事業に関する件
（ロ）日本建築学生会議事業後援に関する件
（ハ）会計報告
（ニ）事業報告

事業委員会

小委員会（古建築見学会）
2日　正午—1時半　　於　会館会議室
出席者　藤沢主査外2委員，岡田孝男氏
茶室見学会の企画について協議

小委員会（各種説明会）
3日　正午—2時　　於　会館会議室
出席者　井上主査，松下（一）委員
説明会開催企画について協議

小委員会（工場見学会）
5日　正午—1時半　　於　会館会議室
出席者　山本主査外3委員
11月以降の工場見学企画について協議

小委員会（若い会員の集い）
6日　5時半—7時　　於　会館会議室
出席者　滝本主査，紙野委員
海外視察から帰国した会員の話を聞く会の企画について協議

小委員会（忘年懇親会）
7日　正午—1時半　　於　会館会議室
出席者　山本主査外4委員
本年の忘年懇親会の企画について協議

委　員　会
11日　6時—7時　　於　会館集会室
出席者　岩崎，岡本正副委員長外8委員
議事　（1）11月，12月の事業企画について
（2）45周年記念事業の委員分担について

編集委員会

幹　事　会
12日　4時—7時　　於　会館会議室
出席者　山本幹事外3幹事
2月「建物管理特集」号の企画について協議

委　員　会
13日　4時—7時半　　於　会館会議室
出席者　森委員長外4委員
議事　（1）経過報告
（イ）11月「建材特集」号
（ロ）12月「日本近代建築運動史特集」号
（2）正月「都市計画特集」号企画審議
（3）2月「建物管理特集」号企画審議

幹　事　会
17日　3時—6時　　於　会館会議室
出席者　大久保幹事外4幹事
正月「都市計画特集」号の企画について協議

ブロックの防水塗料！
ビニール・セメント・ペイント
ブロックタイト
刷毛又はスプレ塗り　常備淡彩12色
安　価・速　乾・美　麗
水谷ペイント

教育委員会

小委員会（工高生デザインコンクール）

16日　正午―1時　　於　会館会議室

出席者　杉本主査外2委員

応募作品について応募規定違反の有無を調査

委員会

20日　3時半―4時半　　於　会館集会室

出席者　中原委員長外6委員

議事　（1）設備技術者のための建築ポケット・ブック編集に関する件

（2）講習会の企画について

（3）工高生デザイン・コンクールの賞牌に関する件

（4）工高生デザイン・コンクール審査結果の報告

（5）新設工高に設備専門科目設置要望に関する件経過報告

近代建築調査委員会

13日　3時半―5時　　於　会館集会室

出席者　滝沢委員長外7委員

議事　（1）九階百貨店に関し照会の件報告

（2）12月号発表建物の件

（3）11月号発表建物変更の件

（4）鹿児島ザビエル記念堂外に関する件

（5）昭和37年度発表建物候補の選定

（6）煉瓦屑をコンクリート骨材に使用した事例調査に関する件

（7）旧版阪神間の建物写真集の紹介

45周年記念事業委員長会議

16日　3時半―5時　　於　会館会議室

出席者　東畑記念事業委員長外4委員長

議事　（1）事業資金募集手配の件

（2）総務委員会分担事業企画促進に関する件

（3）住宅展企画経過報告

（4）記念出版企画経過報告

（5）記念事業実行委員委嘱に関する件

海外建築事情視察団編成懇談会

9日　4時―5時　　於　会館会議室

出席者　小林清周氏外6氏，日本交通公社吉田冨美雄氏

明年の募集企画について協議の上，予定日程を決定

工高生デザイン・コンクール審査会

18日　2時半―6時　　於　会館集会室

出席者　審査員　西島委員長外8審査員，教育小委員　寺岡，増田両委員

設計課題「野外音楽堂」応募総数19校51点を審査して入選作10点を選定し，さらに入選作の中より最優秀賞1点を決定

午餐会

菅府建築部長帰国歓迎午餐会

6日　正午―2時　　於産経会館新大阪グリル

出席者　菅建築部長の外，渡辺建築士会長，東畑本会副会長始め士会，協会会員40名

大阪府建築士会と共催。

若い会員の集い

「新しいオフィスビルのインテリヤ」

26日　6時―8時　　於　会館集会室

ゲスト　日建設計工務K.K.　岡村　実氏

出席者　15名

最近帰国の岡村氏よりスライド映写によりお話を聞く。

見学会

「大阪ガス総合研究所と教習所」見学会

設計監理　安井建築設計事務所

施工大林組

27日　2時―5時

大林組ご提供のバスにより実施。　出席者　50名

「慈光院の茶室を見る会」

28日　2時―6時

岡田孝男氏の解説によって見学し，終了後同所において精進料理を会食。　出席者　19名

10月号書評「発明の世紀にどう対処するか」（p.78頁）訂正

2段目下より14行目　「でも悪い」→「し悪い」

2段目下より3行目　（1千兆円）→（14兆円）

と訂正します。なお目次の「どう対処するのか」→「どう対処するか」に，また筆者名早川文男→早川文夫と訂正します。

編集後記：日本の近代建築運動史には，いままで発表されたものにかなりの間違いもみられるので，この際それを関係者から当時のことを語ってもらうなかで，その間違いを正すと同時に，今後の発展の姿もえがきだすことができれば，と念じて，この特集を組んでみたものである。「デザム等々―新興建築家連盟，青年建築家クラブ等々―」の項目が依頼先の都合でとりはずさざるをえなくなつたのは，残念であるが，西山先生の原稿のなかにかなりのことが書かれているので，それを参考にできよう。また本会誌昭和12年6月号にも「建築運動特集」として，これらの事情が詳しくでている。

このほかに，「日本の住宅運動史の過程」や「建築運動史年表」も録集する企画をもつていたが，実現できなかつた。企画にご協力いただいた幹事の方は，増田幸次郎氏，島田勝次氏，早川和男氏，向井正也氏，上林博雄氏である。次号は「都市計画特集」。

屋根浪板
谷樋には **大島化学のひふくてっぱんを**

固定式通風器 連続式換気装置にも

耐酸スタンダードメタル

カラースタンダードメタル

PATENT Standard

大島応用化学工業株式会社

本社 大阪市城東区野江東之町4の104・(931) 7071—3
支店 新居浜・名古屋・四日市・広島

田中式 スカイライト・ベンチレーター
スチールサッシュ・ドアー
スチールシャッター・オペレーター

TNK **田中工業株式会社大阪出張所**

大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2～89 TEL 大阪(40)6341(代表)・(40)6342

本社 東京第一工場 東京都墨田区錦糸町1～25 TEL 東京(623)代表0106～0108・(622)0790
東京第二工場 東京都墨田区吾嬬町東4～122 TEL 東京(611)2118～9
小倉工場 福岡県小倉市赤坂上の宿37 TEL 小倉0653・2833
川崎工場 神奈川県川崎市東渡田3～43 TEL 川崎 ② 4540
札幌出張所 北海道札幌市北上通東4丁目4 TEL 札幌 ③ 6762・0515
盛岡代理店 岩手県盛岡市木伏49・東北建設(株) TEL 盛岡 7642
名古屋代理店 愛知県名古屋市西区西菊井町2～12・岡田建材KK TEL 名古屋(53)0121・2057
米子代理店 鳥取県米子市祇園町2～93・吉田工務店 TEL 米子 4683
長崎代理店 長崎県長崎市要町11・関西工業(有) TEL 長崎 ② 6046

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(34)207～8・4836～7

暖冷房・温湿度調整
水道・衛生・環境衛生装置
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀上通1丁目7
電㊹（代表）2613・（代表）9431
営業所　神戸市生田区北長狭通7丁目1の1
電④1778・4386
出張所　名古屋市中村区牧野町1－6　電話㊺0966
〃　東京都北区上十条1の10　電(911)2346
〃　広島市西魚屋町31　電②1375

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 **三晃商会**

本社　大阪市北区富田町一六　㉞7031㊱6793
出張所　東京都中央区宝町二・六(村幸ビル2階)(561)5441
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820
福井市宝永上町一〇五　1596
松江市東本町四丁目一四九　5098
広島市紙屋町八　②1938
福岡市養巴町二二　④1158

給排水・衛生　設計施工
暖冷房・換気

株式会社 **大阪城口研究所**

代表取締役　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㊲7575(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル電話京都⑥4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話④5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀一丁目60番地
電話大阪㊹大代表8231番
支店　東京・名古屋・福岡
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本
札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話大阪㉘代表4496～8・4993～4番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話(281)局6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話福井2436
高松出張所　高松市二番丁九　電話高松②5195

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 **斎藤省三商店**

東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話東京(201)3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話大阪㊹1568・1569・2594
札幌店　札幌市北四条西16丁目1番地　高田屋ビル二階
電話札幌②0010・0956・③4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号
電話中局㉔1766

建築設備・金属製建具
荷役運搬機械・環境衛生施設
化学・鉱山機械

三機工業大阪支店

取締役社長　山田熊男
取締役支店長　池田英太郎

大阪市東区高麗橋3丁目1番地　電話大阪(202)代表3071
本店　東京都千代田区有楽町1丁目10番地
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島・仙台・富山・金沢・高松
工場　鶴見・六郷・中山・高槻

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

須賀工業株式会社

大阪市西区土佐堀通1丁目14番地
電話㊹代表5171番
東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話(431)代表7121
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓代表7856
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル　電話㉟9153番
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町　電話㊺代表4731

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

大阪市大淀区中津南通4丁目44　電話大阪㊺3415番

空気調和装置・熱風乾燥装置
設計施工

株式会社 **建材社**
大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目（新朝日ビル5階）
電話大阪㉓6041（代）
本社及東京支店　東京都中央区八重洲三丁目七
営業所　名古屋市中区西万町二丁目一
連絡所　広島市基町一（朝日ビル）

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
高砂熱学工業株式会社大阪支店
大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル8階）
電話大阪㉓7641(大代)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工
東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店
大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㉞局8356(代表)
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

暖冷房・水道衛生工事
設計施工
株式会社 **栄興商会**
取締役社長 中山敏正
本店 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話大阪㊺3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話(351)2177～8番
神戸出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三 電話元町④3035番
京都出張所 京都市中京区高倉通三条下ル 電話上③2869番
三沢出張所 青森県三沢市上久保三一 電話大三沢36番

暖房・冷房・水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工
株式会社 **朝日工業社**
大阪市北区中之島4－39 電㊹6671～5
東京支店 東京都港区芝浜松町2－7 電(431)7341～5
北海道支店 札幌市北四条西15丁目 電②2203・③5374・5969
仙台支店 仙台市元寺小路(五城ビル) 電②8061・③9261
名古屋支店 名古屋市中区東陽町6－5 電㉔1270・1484
広島支店 広島市大手町8－155 電③7949
福岡支店 福岡市薬研町3 電㉔0788・㉚0296

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工
第一工業株式会社大阪支店
大阪市北区富田町30 電話大阪㉞{(代表)0977 0978～9・0970
本社 東京都千代田区丸ノ内2－10
電話(281)2631－5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話7332
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3－6
電話⑨2893

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工
日本管工業株式会社
代表取締役 市川進男
本社 京都市中京区両替町通り姉小路上ル
電話㉒(代表)7975・(夜間専用)5532
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1-37(天満橋北詰)
電話㉟8829
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話7503・3665
津営業所 津市栄町2－111 電話3610

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工
日本熱学工業株式会社
社長 牛田正郎
大阪市北区万才町50 北大阪ビル
電話 大阪㊱代 8675～9・4953～5
東京支店 東京都千代田区神田和泉町1
電話(866)7683・7716・2594
名古屋支店 名古屋市中区城代町7
電話㉓4690・4317
営業所・出張所 下関・金沢・藤沢・新潟・八幡・京都

媛房・冷房・温湿度調整・衛生設備
設計施工
大嘉熱工業株式会社
取締役社長 嘉幡政四郎
大阪 大阪市北区万才町四三浪速ビル六階
電話大阪㊱直通2085・5725
(代)9851～9・9951～9
東京 東京都千代田区西神田町一ノ八
電話 東京(291)8002～3
出張所 愛媛県川之江市・九州福岡市

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工
第一企業株式会社大阪支店
大阪市北区天満橋筋4－71
電話(35)2806・5063・9355
本社 東京都文京区元町2丁目17番地
電話(921)(代表)6294
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

冷暖房・温湿度調整装置・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工
理研鋼機株式会社
大阪営業所 大阪市北区宗是町1(大ビル)
電大阪代(44)8621番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の3
電東京代(901)3191番
本社・分室 東京都港区芝佐久間町1の46(大同ビル)
電東京代(501)3156番
営業所 名古屋・仙台 連絡所 福岡

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

大阪市北区野崎町六九
電話・大阪㊱2891—5番
東京支店 東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8330・8303
営業所 名古屋・神戸・岡山・広島・福岡

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長 浅海正雄
本社 大阪市東区北浜二丁目六九
電話大阪㉓5273—5・5451—2
東京支社 東京都港区赤坂溜池町1
電話(481)8621～4・3573
営業所 名古屋・札幌・旭川・福岡

電気工事設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英
大阪市北区永楽町8番地(日産生命館)
電話 大阪㉞代表 1234～9
支社 東京都港区芝浜松町(大門ビル)
出張所 名古屋・舞鶴・広島・八幡
福岡・富山

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区梅ケ枝町二五番地
電話 大阪 代表㉞8131～4 ㊱7263・2144
営業所 東京・名古屋・新宮・御坊

電動機自動操作用配電盤・分電盤・受電盤
自動遠方操作盤・電動機単逆相運転防止装置
温湿度自動装置監視盤・遠方監視自動装置
各種フロントスイッチ・スペースヒーター及び
ウォータヒーター・其の他特殊電気機器設計製作

森井電業株式会社

東京本社 東京都港区芝三田綱町一番地
電話 東京(451)9611～5番
工場 東京都港区麻布新広尾町一丁目一三四番地
電話 東京(451)0535番
大阪支店 大阪市北区常安町十六番地
電話大阪(44)9516～8番夜間専用(44)502番
名古屋出張所 名古屋市中村区長戸井町三丁目四十一番地
電話 笹島(54)6865・9495番
福岡出張所 福岡市東職人町二七番地
電話(4)7813番 (5)3516番
広島出張所 広島市三川町二六番地電話(4)2449番

各種電気工事設計施工

株式会社 **ヤマト電気商会**

取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話 大阪㉞代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室 電話東京(541)7464
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三
本社 大阪市北区絹笠町五〇 (堂ビル三階)
電話 (312) 1471(代)
支店 東京都中央区西八丁堀四丁目十(後関ビル三階)
電話 (551) 5590～2
営業所 名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話 (98) 236～7
〃 小松市符津町才四四ノ三
電話 (粟津) 237
〃 堺市三宝町七丁目三六九

電気工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

取締役社長 山本博三
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル7階
電話 大阪局㉓9531(大代表)
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話 大阪局㊹5201番(代表)～3
出張所 京都市右京区西院今田町六番地
電話 京都局㊾3481番

電気工事設計施工

江東電気株式会社

取締役社長 猪飼幸次郎
本社 大阪市生野区勝山通9丁目72
電話 (716)4035(代)～8
支社 東京都新宿区淀橋533
電話 東京(371)6203
出張所 金沢・名古屋・高知・広島

電気工事・設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中本正明
本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話 大阪(931)代表7341～5
機器工場 大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫 電話(931)2193

電気工事設計施工
並架線金具製作販売
（日本工業規格表示工場）
八千代電設工業株式会社
取締役社長 梶本秀尾
大阪市東区森之宮東之町
電話大阪 (94) 6531 (代) ～ 5
支店 名古屋
出張所 東京・岡山・門司

電気工事設計施工
株式会社 三興社
取締役社長 坪井大
本社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電話 ㊱ 2138 (代) ～ 9
支店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話 ㊼ 1478 (代) ～ 9
出張所 堺・下関

青写真とマイクロフイルム
株式会社 内外写真
製図・トレース・複写写真
大阪市北区堂島北町16 TEL ㊱ 9055 (代表)

エレベーター・コンベヤー・リフト
エスカレーター・ホイスト・クレーン
N・T・E型オートパーキングステーション
設計・製作
日本エレベータ工業株式会社
本社 大阪市大淀区天神橋筋6（天六阪急ビル）
電話 (35) 4927(代)～9・7071 (ビル交換)
東京営業所 東京都台東区長者町2－7（豊宮ビル）
電話 (831) 7 9 4 9
東淀川工場 大阪市東淀川区小松中通5－6－2
電話 (38) 0 3 6 3


発売元
大仏組
大和瓦（だいわ）
雨風に強く緩勾配に最適
超軽量荷重（坪当37貫）
和型より安い
大仏瓦，各種和洋瓦
美術タイル・工事請負
本店 京都市東山区今熊野池田町九 ⑥ 3555
大阪営業所 大阪市東区内淡路町一丁目 ㊷ 975
名古屋営業所 名古屋市瑞穂区堀田通一丁目 ㊽ 2703



陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール
株式会社
三幸商會
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞ 3145

PAINTING CONTRACTOR
塗装工事請負
株式会社 **林塗装店**
TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉙ 1335

軽量鉄骨
設計・施工
新鋼建設工業株式会社
取締役社長 吉田信武
本社 大阪市西区新町通2丁目25
電話 ㊸ 7418・609・6575
工場 神戸市東灘区本庄町青木古堂町53
電話 神戸 ⑧ 6 1 6
広島県御調郡向島町立花3010
電話 尾道2868 向島西19

特許植物性 型枠離剥塗料
サンヒット
メタルフォーム用特号
関西代理店 株式会社 **金剛商会**
大阪市西淀川区野里町1231 阪神国道 野里電停前
製造元 東京サンヒット商会 電 大阪㊼0417・4091

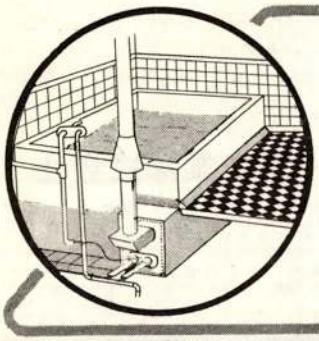
奉仕感謝の店
タイル 衛生陶器
㊿ 株式会社 **川岸窯業商店**
大阪市西区靱南通2丁目21 市電靱南通り電停前
電話大阪・(54)2435・2788・8597番

鈴木式防火シヤタア

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話㊲0098・5837・8729・6810

北陸営業所 金沢市三構町7～17　電話③1086



田中のガス風呂

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂

大阪ガス会社指定

田中風呂鑄作所

大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　電話㊹5313・8128

平和式



親切・丁寧 ご御照会

軽量シヤッター

平和工業株式会社

大阪工場　大阪市浪速区河原町2丁目 電(64)5750・8444
東京工場　東京都太田区糀谷町4丁目 電(741)0160・1733

鋼製建具
製作・販売

栄進鋼業株式会社

大阪市城東区野江西之町2—2　電話 城東㉝8261～3番
支店・福岡　営業所・広島・長崎

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店　大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話 大阪㉝3426～7

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント・コンクリブロック特約販売店
セントラル硝子特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目十四番地
(桜橋電停曽根崎新地西入)　電話大阪㉞1274～6
支店・東京・神戸・姫路・徳島・高松

広告目次 (50音順)

建築と社会 昭和36年 Vol. 42 No. 12

ア アスファルト同業会 ……12
アサヒカラコン ……17
アルケン工業kk ……11
浅海電気kk ……4
kk 朝日工業社……3
旭化工板 ……前付
伊奈製陶kk ……中挟
井田商事kk ……17
泉石綿工業 ……15
kk 岩住鉄工所……前付
岩元工業kk ……16
kk 栄興商会……3
栄進鋼業kk ……6
荏原製作所 ……表4
ＡＢＣ商会 ……中挟
オリエンタルメタル製造KK ……中挟
大阪建材工業kk ……20
kk 大阪城口研究所……2
kk 大阪電気暖房商会……2
大阪耐酸工業所 ……16
大阪鉄工所 ……8
大島応用化工業kk ……1
kk 奥村重兵衛商店……本文
奥山化工業kk ……19
織本建築事務所 ……17
小俣製作所 ……本文
カ 樫野石灰工業kk ……6
柏原瀝青kk ……中挟
kk 川岸窯業……5
川口ゴム工業kk ……前付
関西暖房工業kk ……15
関西三星タイル会 ……前付
関西ペイント ……前付
協和産業kk ……前付
工藤電気kk ……4
kk 久保商店……1
栗原工業kk ……4
kk 建材社……2
工英社 ……表2
江東電気kk ……4
小西儀助商店 ……前付
合同特許建材工業kk ……本文
恒和化学 ……本文
kk 金剛商会……5
サ 斎久工業kk ……2
kk 斎藤省三商店……2
「材料と設計」 ……本文
三栄建材 ……18
三機工業kk ……2
kk 三幸商会……5
kk 三晃商会……3
kk 三興社……5
三宝電機kk ……4
三和シヤッターkk ……前付
敷島金物kk ……前付
新鋼建設工業kk ……13
kk 新興建材工業所……19
須賀工業kk ……2
鈴木シヤタア商会 ……6
住友金属工業kk ……10
タ 田島応用化工kk ……表4
田中工業kk ……1
kk 田中風呂製作所……6
田辺工業kk ……本文
田村商会建材部 ……10
谷山製作所 ……本文
第一企業kk ……3
第一工業kk ……3
大嘉熱工業kk ……3
耐酸化学工業kk ……15
大日本硝子工業kk ……14
太洋木材工業kk ……8
大仏組 ……5
高砂熱学工業kk ……2
kk 武智工務所……本文
淡陶 kk……挟込
中央電気工業kk ……4
朝陽電気kk ……4
ジーチーサン ……14
東京鋼板工業kk ……15
東邦商会 ……13
東洋キヤリア工業kk ……2
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……前付
ナ ナニワ瓦kk ……17
内外工業kk ……14
内外建材kk ……16
内外写真 ……5
中本電気kk ……4
中谷化学 ……前付
浪速合板 ……13
浪速建材工業kk ……18
日共冷熱機材kk ……前付
日本アスファルト防水工業会関西事務所 ……前付
日本アスベストkk ……11
日本エレベータ ……5
日本管工業kk ……3
kk 日本金具製作所……前付
日本サッシ協会関西支部 …前付
kk 日本シヤッター製作所… 表3
日本セメント防水剤製造所…表3
日本綜合防水kk ……前付
日本電気硝子kk ……前村
日本ドアーチエック製造KK ……中挟
日本熱学工業kk ……3
日本ペイント ……本文
日東紡績kk ……前付
日瀝化学工業kk ……前付
西日本アスファルト事業協同組合…… 9
kk 西原衛生工業所……2
ハ 早川ゴム工業kk ……中挟
kk 林塗装店……5
kk 平川鉄工所……前付
平田タイル ……16
広瀬ハウス工業kk ……前付
フタバ黒板 ……13
福屋工業kk ……5
藤本鋳造鉄工所 ……前付
平和工業kk ……6
マ 前田白蟻 ……挟込
松下電器産業kk ……表2
水谷ペイントkk ……本文
kk 三高製作所……17
kk 室谷商店……13
森井電業kk ……4
森延窯業 ……18
ヤ 山田工業kk ……3
八幡製鉄 ……前付
kk ヤマト電気商会……4
八千代電設工業kk ……5
kk 山本建材社……20
kk 油脂化工社……表3
kk 吉田芳雄商店……13
吉野石膏kk ……13
kk 寄木商会……16
ラ 理研鋼機kk ……3

特別広告 (順不同)

kk 竹中工務店……5
大阪三越 ……6
内外木材工業kk ……7
亀井kk ……7
三木塗装店 ……7
kk林工業所 ……7
kk 中村塗装店……8
田島応用化工kk ……8
近畿電気工事kk ……9
栗原工業kk ……9・13
日本熱学工業kk ……10
kk 鴻池組……11
大阪建材工業 kk……12
kk 橋本硝子店……12
東洋リノリュームkk ……13
kk 山本建材社……14
朝日特殊合板kk ……14
内外工業kk ……15
川崎興業kk ……15
サンエス工芸社 ……15
立川ブラインドkk ……15
須賀工業kk ……15
KK 大阪電気商会大阪暖房商会 ……16
日共冷熱kk ……16

古き伝統と斬新な技術を誇る大鉄製品

スチール
アルミ
サッシュ
ドアー
シャッター

営業品目

ステンレス製品
美術金物
金庫 金庫室扉

設計 製作 取付

株式會社

大阪鉄工所

取締役社長 富田豊松

大阪市西区本田町一丁目四四番地　電話 大阪 ㊸ 1254・4615 ㊹ 0910・0919
津守工場　大阪市西成区千本通七丁目二四番地　電話 大阪 ㊻ 1418
千舟工場　大阪市西淀川区佃町四丁目五七番地　電話 大阪 ㊼ 0420

デラックス床材の決定版！



御一報次第係員参上致します

新製品

TLモザイク・フローリング
TLモザイク・ブロック

★**フローリング**はランパーコア合板式で狂いがなく簡単に張る事が出来ます寸法が一定していますから取扱が便利ですその上値段は寄木の½位の格安です
★**ブロック**はタイル式でコンクリートや板の上に接着剤で簡単に安価に豪華な寄木張の床が出来ます。
（各々樹種はなら、さくらがございます）

製造元　天塩川木材工業株式会社
関西総代理店　太洋木材工業株式会社
大阪市東区横堀6丁目21　電話 大阪 ㉕ 1025・5127

カタログ進呈

■ 防水工事施工に望む ■

防水工事は建築工事の最も枢要な部門の一つでありその良否は建築物の死命を制すると言っても過言ではない。

外部に見えないと言う理由で或は又その効果が年月を経てはじめて表われると言う理由で不当な競争の結果粗雑な工事に趨り或は一部に防水工事はいくらでも安く出来ると云う概念すらあることは極めて危険であり建築技術の向上を阻害すること甚しいものである。

アスファルト防水工事は今更こと新しく言うまでもなく適切な材料の選択は勿論その施工が最も大切であり、しかもそれは明確な責任を伴うものでなければならない。

斯界激讃の冊子

——アスファルト防水工事——

• 年限仕様の理論と実際 • ¥400 〒60

建築家に限り２割引

何よりも安心できる年限仕様

Ⓐ アスタイト防水

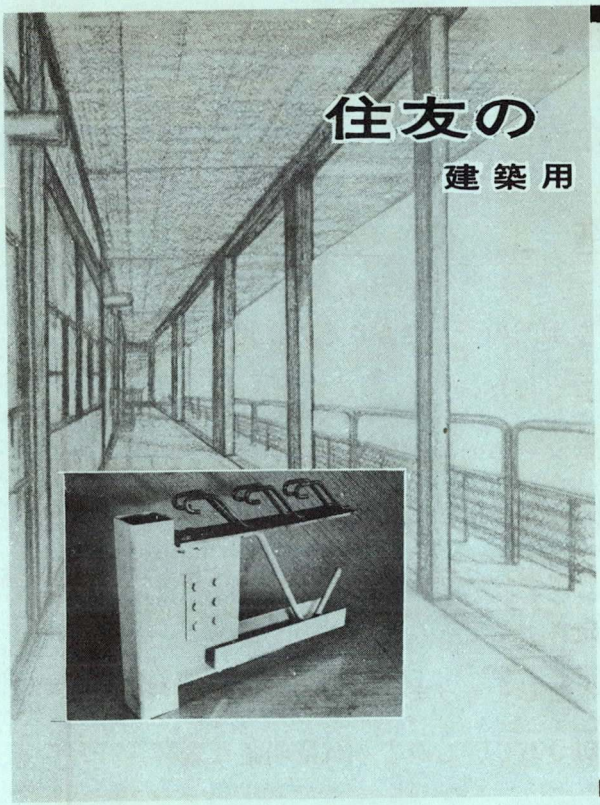
建設省阪建22号認可

出資金600万円

三星 西日本アスファルト事業協同組合

大阪市西区京町堀１ノ７４　　TEL㊹代表5951　夜間管理人室用 ㊹ 9910

東京連絡所　東京都千代田区神田岩本町13(田島応用内)　　TEL (866) 代表６１０１



住友の
建築用
角形鋼管

角形鋼管は断面性能が著しくすぐれておりますので、形鋼を組み合わせて溶接した角形鋼などにくらべると、溶接の必要がなく、均質で信頼度に富み、軽量で取扱いがたやすくなり、その上経済的であるなど有利な特徴をもっております。

住友金属工業株式会社

本　社　大阪市東区瓦町4丁目31電話(大代表)大阪(202)2201
支　社　東京都千代田区丸ノ内1丁目8ノ6(新住友ビル)電話(大代表)東京(211)2211
福岡営業所　福岡市天神町58番（天神ビル8階）電話福岡(75)5190・3582
広島営業所　広島市紙屋町8番地（広電ビル内）電話広島(2)7471・7596
名古屋営業所　名古屋市東区久屋町59(住友商事名古屋ビル)電話名古屋(971)1490・6222
仙台営業所　仙台市東1番町11東1番丁ビル内　電話仙台(3)3501・(5)2643
札幌営業所　札幌市北大通西4丁目6(住友生命札幌ビル内)電話札幌(4)0378

タムラ　最高の品質・新しい建築資材

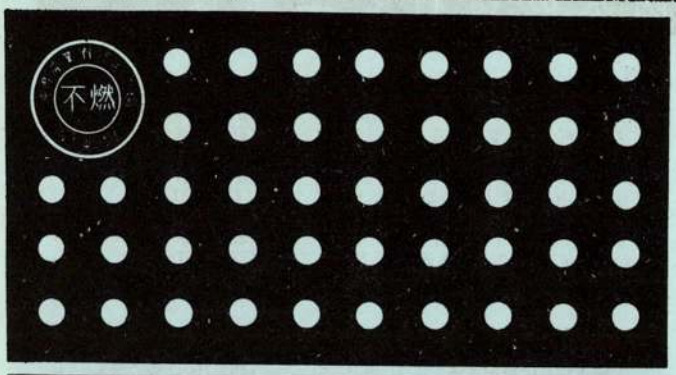
内装材専門

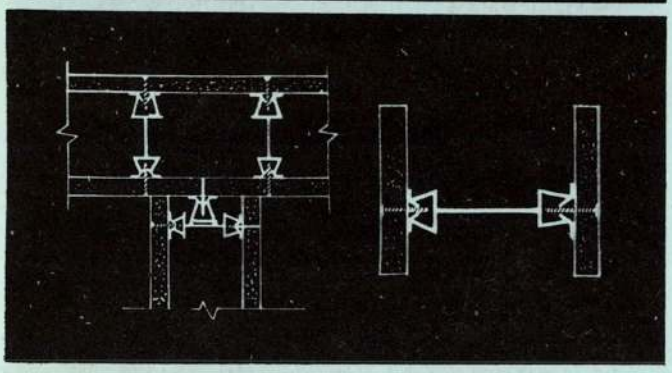
天井材	パールタイル(アルミ吸音板)・吸音板 インシュレーションボード・スパンドレル
壁材	ハードボード・高級化粧合板 パーテイクルボード・コペンハーゲンリブ
床材	フローリング・モザイックパーケット アスハルトタイル・リノリューム
防火建材	プラスターボード・木モセメント板 フレキシブルシート・石綿板
プラスチック材	ヒッターライト・メラミン・ビニール合板 樹脂ガラス・エンビリブ・ナミ板
壁下地材	リブラス・ラスボード
金属材	シージングボード・ルーフィング ボードサッシュ・レヂスタード ノンスリップ・コーナービード

創業明治24年
貿易・木材・建材

田村商會　建材部

本　店　神戸市生田区京町七二（クレセントビル）　電話　神戸(39)局0881(代表)
市外専用神戸55
支　店　東京都中央区八重洲一丁目一西河岸橋西詰　電話　東京(271)局6181～2





ファイアボード

（法定不燃材・軽量石綿耐火板）

完全耐火性
軽量・断熱性・吸音
変形は全くない
木材と同様の加工が出来る
釘打ち・鋸引き・孔あけ等

トムレックス

（吹付石綿・責任施工）

吸音・断熱・結露防止
耐火・耐振動・腐食防止

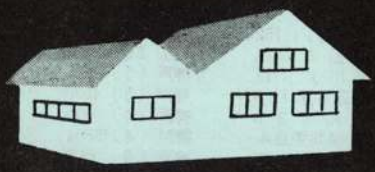
N.A.K.

日本アスベスト株式会社

本　　社　東京都中央区銀座西6の3　電（572）0321.0331(代)
大阪支店　大阪市南区塩町通4の25　電船場（25）5491～8
名古屋支店　名古屋市中区下前津町117　電　南（32）6591～5
九州支店　福岡市薬院大通り2の81　電福岡（74）1747 2827
札幌出張所　札幌市北三条西2丁目西向　電（2）6472（3）520（5）308

住友の アルミサッシ・ドア

押出し型材使用



アルミサッシ使用率　米国 70%　西独 26%　日本 6,5%

雨の多い日本には……
雨仕舞の良い気密な窓を
錆びない・軽るい・精度が高い



製造・取付

アルケン工業株式会社

大阪市西区新町通4－39　電話 ㊿ 0865 2905

アスファルト防水の材料と工事は

（アイウエオ順）

◀製造業社

協和建材工業 k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(301) 6437・6438
k.k. 工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(66) 8861～2
k.k. 工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(97) 4460・8288
田島応用化工 k.k. 大阪出張所	大阪市西区京町堀1丁目74	(44) 5951
大恵工業 k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(47) 3131～2
東亜工業 k.k.	八尾市字太子堂629	八尾（2）2308・3039
日瀝化学工業 k.k. 大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(39) 0924～5・2045
日新工業 k.k. 大阪営業所	大阪市西区新町北通1丁目18	(53) 5281～3

◀販売業社

東京通商 k.k. 大阪支店	大阪市東区大川町1（勧銀ビル）	(202) 2291代
池田商事 k.k.	大阪市福島区鷺州本通1丁目48ノ3	(45) 7601～5
内田商会	大阪市北区万才町47	(312) 0871～8
梅本石油 k.k.	大阪市東淀川区新高南通1丁目28	(39) 2080・2207・0238
枝松商会	大阪市北区道本町41	(36) 5858～9・5850
朝日瀝青 k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(53) 4520・8401
三友アスファルト k.k.	大阪市東住吉区矢田住道町913	(79) 4427
川崎物産 k.k. 大阪営業所	大阪市北区絹笠町50（堂ビル二階）	(36) 0774
中西瀝青 k.k. 大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(34) 4305
k.k. 長野商店	大阪市西区京町堀上通3丁目40	(44) 5195～6
日本建設興業 k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(23) 2771～2
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目36	(44) 5224
村井工業所	大阪市生野区生野田島町94	(73) 2514
山文商事 k.k.	大阪市西区土佐堀通1丁目13	(44) 0255代・5392代

◀工事業社

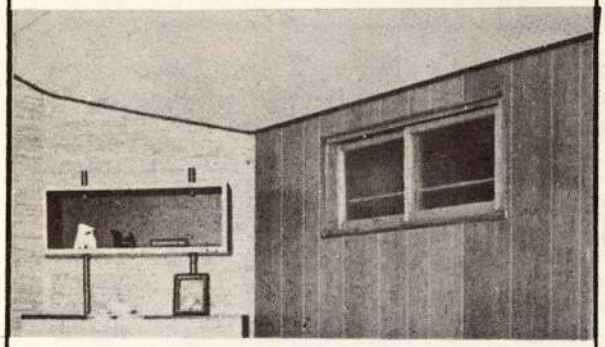
旭化建工業 k.k.	大阪市北区茶屋町38	(37) 6555～7
k.k. 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(44) 3520・4564・1005
k.k. 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(301) 3340・3505
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(37) 1333
大島応用化学工業 k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(931) 7071～3
k.k. カナヱ商会	大阪市北区空心町1丁目30	(35) 2922
共栄瀝青工業 k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(94) 5561～2
k.k. 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(44) 5408・5486
k.k. 久保商店	大阪市北区真砂町5	(34) 0207～8・4836～7
坂口興業 k.k.	大阪市北区木幡町18	(34) 1105・8640
清水興業 k.k.	大阪市北区鶴野町34	(37) 0251～3
k.k. 新光商店	大阪市南区塩町2丁目13	(26) 7195代
関本建材 k.k.	高槻市大字高槻146	高槻（5）1646～7
k.k. 大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(63) 6221～4
谷中建材工業 k.k.	京都市下京区西七条比輪田町28	京都（5）9954
友田工業株式会社	大阪市都島区都島中通6丁目41	(35) 4779・0997
内外工業 k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(64) 3434～6
日新工材 k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(54) 3785～6
日本瀝青工業 k.k. 大阪支店	大阪市北区富田町40	(34) 1804
フタバ興業所	大阪市福島区上福島北4丁目24	(45) 6089
k.k. 双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(37) 3375
松本瀝青工業 k.k. 大阪支店	大阪市北区伊勢町40	(35) 9231
マルヱス工業 k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(45) 2360・2030
丸藤商店	大阪市北区天神橋筋2—1	(35) 2150・2030
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	神戸（5）2697
k.k. 中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	神戸（5）4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	神戸（4）6930
中村瀝青工業株式会社	神戸市生田区北長狭通6神繊共栄ビル	神戸（4）5884
日建瀝青工業 k.k.	神戸市兵庫区水木町8丁目5	神戸（6）0505
有限会社小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山（2）4272
k.k. 浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道 2760
青盛建材 k.k.	広島市鉄砲町108	広島（2）2881～2
古市断熱工業 k.k.	高松市宮脇町960	高松（3）5034
正和商事 k.k.	松山市一番町	松山 0525・1159・2159
k.k. 山本商会	松山市萱町2丁目95	松山 2717

▶賛助会員

丸善石油 k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(27) 1251(代)

ノダ の新建材

プリント合板
ビニオン
九條天井板
美装パネル
リズムウッド
スーパージョイナー



ノダ 製品製造発売元

浪速合板株式会社
大阪市浪速区幸町通の3の20
TEL (53) 2201(代)

Acoustic Tex
吸音テックス



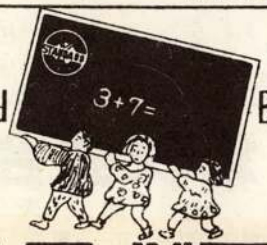
株式会社 室谷商店
本社 神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 神戸 ③ 0881～3
支店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL 大阪 (312) 2031～4

燃えない建築資材
タイガー印
耐火ボード
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店 大阪市西区土佐堀通1一1(大同ビル)
電話 (44) 8912～4
本社 東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話 東京 (281) 2391(代表)
福岡営業所 福岡市相生町1一1 電話 (58) 631～3

木毛セメント板



東邦商会
本社 大阪市東住吉区桑津町3丁目59
電話大阪 ⑭ 1296～7
出張所 和歌山市新堀6丁目13
電話和歌山 ②0298・9435



Standard Board & Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地 電話天王寺(74)4692番

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店



株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話 大阪 ㉞2403・3904

建築写真のことなら

透視図撮影
地鎮祭―敷地―基礎
―現場―竣工―式典
までの各種撮影
アルバム・絵葉書・
額面伸

G.T.SUN

㉓ 1263・4

商業写真と商業美術のジーチーサン　大阪市東区北浜３丁目52番地

網入光り波型ガラス（スレート小波／スレート大波）　長サ 965㍉　1818㍉

ダイニチ・アーモライト　波板・平板

（硝子繊維強化ポリエステル板）各種波，寸法（長尺物有）

製造販売　**大日本硝子工業株式会社**

大阪支店　大阪市北区玉江町２ノ４（三菱倉庫ビル）電㊹1389・3389
本　社　神奈川県相模原市小山字久保224　電⑦3101～4

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　**電話大阪㊲1333番**

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

N.G.C式

N.G.インシュライト工事責任施工
メタリヤンメッシュD.M 38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社

脇山静夫

本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話㊸3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N.G.インシュライト断熱材製造発売元

T K K

アルミニウム

ステンレス　　カーテンウオール

ブロンズ

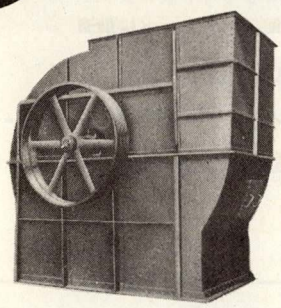
東京鋼板工業株式会社

本社及工場　東京都荒川区尾久町5ノ1000
電話　(891) 8131～8
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル3階）
電話　㊱ 9154～7
名古屋支店　名古屋市東区久屋町5の9（住商ビル）④ 2578～9
福岡出張所　福岡市橋口町15番地の1（サンビル3階）　㉘8825

KANDAN

煖冷房温湿度調整

設計　施工



各種送排風機

設計　製作

関西煖房工業株式会社

本社　大阪市住吉区万代東6丁目3番地
電話 大阪 67—6751(代表)～4・1570・1590
堺工場　堺市浜寺石津町中二丁目二〇〇番地
電話　堺 ② 1213 ③ 1322
出張所　名古屋・福岡・徳島

化学工場の構造物を酸蝕から守れ！



耐熱　耐酸　耐油　耐アルカリ
ポリエステル系レヂンライニング
エポキシ樹脂ライニング
サルファ系煉瓦目地材料
特殊アスファルト耐酸工事

現場責任施工

設計・施工には是非弊社で
御相談願います

耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80
電話 大阪 ㊱ 178（代表）4161 ㉞ 4957～8

泉

石綿セメントの
最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

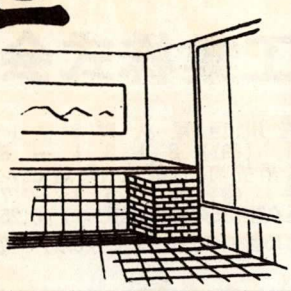
Asbesto. Barriev
（硬質石綿板）

建物内外壁、間仕切、天井扉、電気室発電所：配電室、製鋼、ガラス工場の壁、製糖、製油製薬工場の床スカート壁などに最適

泉石綿工業株式会社

大阪市北区同心町1の11
電話 ㉟ 3442・4078

（呈カタログ）



タイル・衛生陶器

株式會社

平田タイル

内外式電動ベンチレーター

電気扇付　屋上強制換気装置

建築基準法にフリーパスのガラス屋根

内外式スカイライト

工場・プラットホーム・
体育館・アーケードに最適

内外式

コンチニアスベンチレーター

筒型各種ベンチレーター

設計　施工

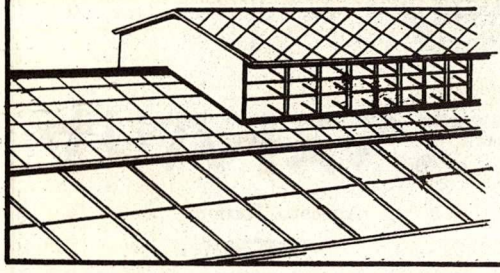
内外建材株式会社

旧名（株）内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）ＴＥＬ（44）3983
工場　大阪市城東区天王田町１の141　ＴＥＬ（98）1149

岩元式

スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シャッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工

カタログ進呈



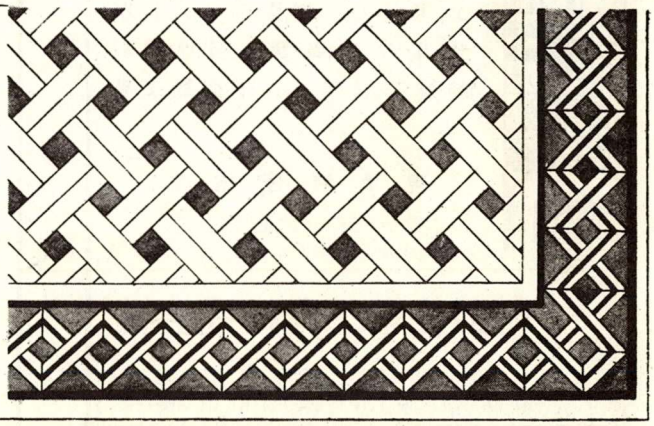
岩元工業株式会社

本社　大阪市東成区東今里町４の40
電話 ㊽0616～0618

寄木貼床板
フローリング　施工請負
ブロック
ベニヤフラッシュドアー　造作取付
グラインダー床削

株式会社 **寄木商会**

営業所　大阪市東区横堀6—49
電話 ㉕3731・3960
工場　大阪市浪速区勘助町1

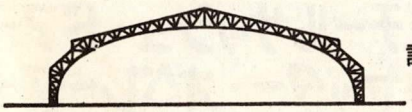
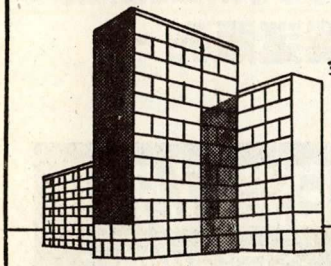


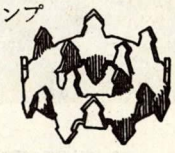
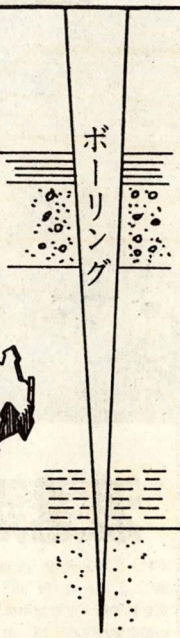
三高式 サッシュ.ドアー.シャッター
オペレーター
ドアーハンガー
TRADE MARK
M.T.K.S
株式会社 三高製作所
本社工場 大阪市東淀川区西中島町7－69
電 話 大阪 301－0737(代 表)

コペンハーゲンリブ
商月報無料送呈
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物入号門前
電話 (53) 4890 (54)0808~9

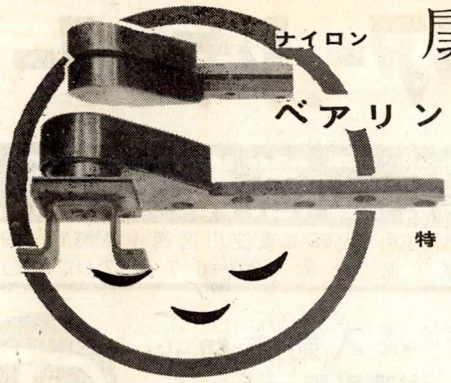
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目七四二番地(66)五〇六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量水止付(空葺)瓦

減らず・滑らず・美しい
モルタル打と同時仕上る 美装床材
カラー・コンク
超硬骨材に顔料、薬品等を配合した粉末剤でその儘水練り、金鏝仕上げの為特に技術を要せず、色ムラ、ノ口汚れ等の缺点がない耐磨耗性特に強大、表面滑らかで美しく清潔、耐水性に富み価格低廉であります。(坪当り材料代¥ 950) 仕上り厚さ約2 ㎜程度
学校、工場、病院、事務所、商店、ガレーヂ、ガソリンスタンド、住宅の玄関、流し、浴室等に最適であります。
製造発売元
アサヒカラコン株式会社
大阪市此花区四貫島旭町1-3 TEL(46) 3594
工 場 大阪市此花区四貫島旭町 1

綜合建築設計への道

設計部 1.各種鉄骨・鉄筋コンクリート造建築の設計監理
2.ダイヤモンドトラス・ジグザグトラス・平行トラス等
各種大張間鉄骨造の設計監理

金物部 耐震耐風木材接合金具の製造販売
PAT.O式(織本式)ヂベル及クランプ


地質部 ボーリング・建築物基礎工事の為の土質調査


株式会社 織本建築事務所 所長 織本道三郎
(旧織本建築設計々算事務所・織本特殊構造研究所・合体)
東京都中央区日本橋かきがら町3の2 電話(671) 6443・7007・7062



ナイロン 扉 555

ベアリングで扉の開閉が軽快

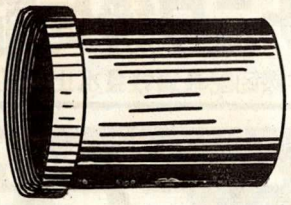
ピボットヒンヂ

特徴
- ボンデライジングに依る完全防錆加工品
- 回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

三栄建材工業株式会社

大阪市生野区巽矢柄町一五一番地
大　阪 (74) 4655 ・ 0189 (716) 0188 番

築炉並に建築用煉瓦積工事・装飾用化粧煉瓦積工事
コンクリートパイル・コンクリートブロック

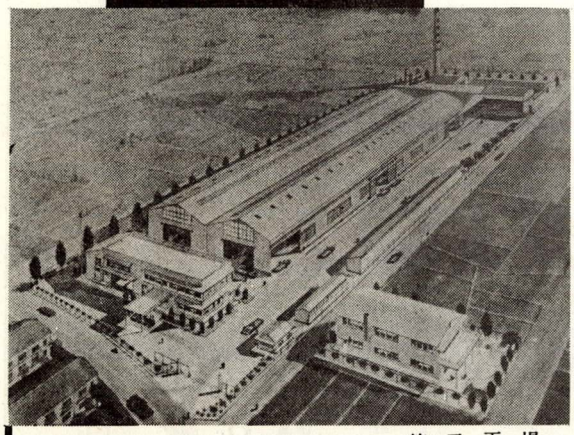


陶管・煉瓦・ヒューム管・衛生陶器
モルタル数ブロック・スペーサ・各種コンクリート製品一式

森延窯業株式会社

取締役社長　森下延幸・専務取締役　船津　稔
大阪市住吉区上住吉町三一　電話 (67) 2420・8217

NK



第二工場

浪建式

アルミサッシュ・ドアー
スチールサッシュ・ドアー
シャッター・オペレーター
パーカライジングの処理工場完成
— 製造販売 —

NANIWA
大正十四年
創業

日満ゴムタイル
全国總代理店
責任施工

浪速建材工業株式会社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話 大阪 ㉝1171～3番
第二工場・大阪市城東区茨田横堤町四一番地　電話大阪㉝6153・6824番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館 607号室　電話　東京(541)4611番
福岡営業所・福岡市天神町三番地（サンビル内）電話　福岡　④　8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話　大分　1366番

近代的上塗壁材
繊維塗料製品

日本壁	・優美な繊維の京壁材 →
← ・繊維の床砂材……	新日本壁
パビロン壁	・塗りつける織物壁材 →
← ・パルプの日本座敷壁材	錦上壁
いすゞかべ	・近代的な趣味の壁材 →
← ・吹付のできる京砂壁材	新いすゞかべ
大和壁	・繊維の色土…… →

製造発売元　株式会社 新興建材工業所　■全国有名建材店にございます

本　社　大阪市西局区内四ツ橋　電話 大阪㊹5756～9
営業所　明石市西王子町1丁目39　電話 明石 5852
営業所　福岡市西唐人町1番地　電話 福岡㊼7373

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

陸屋根防水には

特許 絶縁工法を

カッパー防水帯

コーパータイト

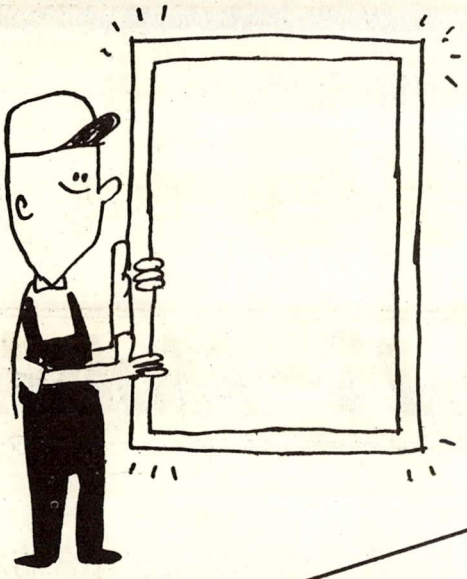
特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8の3
TEL 銀座(571)2703～4・2370・4064・0264

●御申越次第カタログ進呈

アルミパールタイル
ヤハズラス
新
木毛セメント板
カラーベストス
ボード
建
スロール
材
ビニール加工板
メラミン加工板
ビニ床タイル
プリント合板
西村松
ラモト
生きる近代建築に
誇ある文化材
30メーカー代理店
モデルハウスと展示
すまいの用材店
西区立花通2電(53)2843
大阪・四ツ橋
株式会社 山本建材
TFL (54) 1861~5・2131・2233・7060・7161

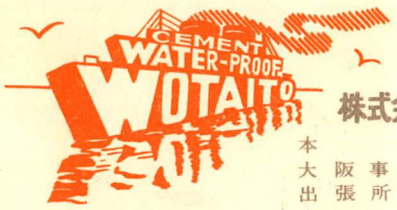


近代建築に....
大建の
アルミサッシ
住友軽金属工業株式会社と提携
■錆びないスチールサッシは
オートメーション焼付塗装ラインに依る
大建の 2重焼付塗装で
■部材で1回、成品で1回
建
大阪建材工業株式会社
本社工場 堺市松屋町1の6 電堺(2)3323~7
大阪営業所 大阪市南区九郎右衛門町21 電(75)0836~9
名古屋営業所 名古屋市東区東新道町2の7 電名(97)7264

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号



株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話　宝塚(079) 2153
大阪事務所　大阪市東区船越町2－31（船越ビル）　電話 ㊾ 2626(直通)
出張所電話　東京 (431) 0874・名古屋 ㉜ 1331
ウォータイト式防水工事代行店電話　仙台 ③ 0721・札幌 ⑤ 7171
大三工業 高松 ② 8697　安藤工事 福岡 ③ 5765
豊永建材 広島 ④ 3567

仕様書型録贈呈

紫綬褒章に輝く

責任・施工・請負

JIS 合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

株式会社 油脂化工社

本社 東京都品川区二葉町1－441　電話東京(781) 1715
取締役社長 矢中龍次郎　大阪営業所 大阪市東成区西今里町2－48 電話 ㊼ 4765・0063

防火シャッター

甲種

乙種

パイプシャッター

電動式・手動式・バランス

株式会社 日本シャッター製作所

本社工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地　電話(大阪)(301)3656～9番
東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159番地　電話中原局(047)6325～7番
九州工場　福岡市檜田町1268番地　電話 ② 4647番
名古屋支店　名古屋市中区宮出町23番地　電話 中 ㉔ 4811番
高松営業所　高松市丸ノ内10番地(井筒ビル内)　電話 ② 4008番
岡山営業所　岡山市内山下307番地　電話 ② 7219番
高知営業所　高知市西紺屋町10番地　電話 ② 7349番
神戸連絡事務所　神戸市生田区中山手通3丁目18番地　電話 ② 2650番

(呈カタログ・資料)

代行販売店

中博光商店	札幌市北1条通東1丁目(浦川通)	電話 代表(4)0281番
理研興業株式会社	小樽市色内町5ノ45番地	電話(2)0872・2656・7523番
三協建材株式会社	東京都中央区八重洲3ノ1(広瀬ビル2階)	電話(27)2165～6番
栄進鉄工所	沼津市大岡南小林3400	電話 沼津 955番
佐野鋼材株式会社	清水市江尻竹下町8	電話 (2) 3628・4615番
石本金属株式会社	新潟市古町五番町624	電話(2)3181～5番
福田商店	富山市舟橋北町8番地	電話代表8541市外9
藏田金属工業株式会社	広島市研屋町25	電話(4)8271～4番
永見金属株式会社	松江市朝日町駅南口通	電話3224・5452番
三京交易株式会社	福岡市下浜口町23番地	電話 (3) 0144 (2) 4647番
〃 小倉出張所	小倉市博労町721	電話 (5) 3673番
〃 長崎出張所	長崎市千馬町1ノ9	電話 (2) 0890番
大石産業株式会社	八幡市通町207丁目	電話(6)1195～6番
中村金物株式会社	鹿児島市武町570番地	電話代表6650～3番
〃 熊本支店	熊本市紺屋町1ノ30	電話 (2) 1231・4684番
田中鉄工株式会社	丸亀市城西町142	電話329・1221番
小川・建材店	千葉市沙見ケ丘24番地	電話 (2) 0897番
橋本工作所	福島県郡山市北田町16	電話 郡山 2830番

昭和二十四年三月十九日　第三種郵便物認可
昭和三十六年十二月二十日印刷
昭和三十六年十二月廿五日発行
（毎月廿五日発行）

エハラ・ポンプ
ターボ冷凍機



株式會社
荏原製作所

新しい製品！

●色柄がずっと豪華版な……

三星ソフトンタイル

足ざわりも歩いた気分も

ソフトな弾力

ソフトンタイルは，まるで美しい織物のように，
複雑な絵模様を出すのに成功しました　それに，
姉妹品プラスタイルPに比べ，弾力もつよく，すべりも少くなりました
ご家庭やホテル・喫茶店，会社・官庁などに，……

●三星プラスタイル　●三星アスファルトタイル
●三星Pタイル　●三星マチスタイル

三星ルーフィングの
田島応用化工株式会社

工場・小台営業所・東京都足立区小台町633　TEL（911）1181（代）
本社・神田営業所・東京都千代田区神田岩本町13　TEL（866）6148（代）
大阪出張所・大阪市西区京町堀1～74　TEL（44）5951（代）
夜間管理人室用　TEL（40）9910

売価　一部　金百五十円（送料共）

御入会の御申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人日本建築協会　大阪市東区北浜3—37　電話大阪㉓9648・9649・9640
振替口座大阪39975番